

# 市政に関する世論調査

## 報告書



潤水都市 さがみはら

令和3年11月

相模原市

# はじめに

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症や、地球規模の気候変動などにより、市民生活や地域経済を取り巻く環境は大きく変化しています。また、少子高齢化の進行や人口減少などへの対応も喫緊の課題です。

市政においては、社会・経済情勢を的確に捉えるとともに、複雑化・多様化する市民の皆様のニーズを把握し、それに応じた行政サービスや、市民の健康と生活、地域経済を守るコロナ対応等を着実に推進していくことが求められています。

そのために何よりも必要なことは、市民の皆様との対話です。皆様の声に真摯に耳を傾け、その思いを今後の施策にどのように反映するのかが、今、求められている最も大切なことと考えます。

この『市政に関する世論調査』は、皆様のお考えを施策に生かすため、その時々  
に即したテーマを設定し、昭和44年度から毎年実施しているもので、本年度は、  
「広報」「<sup>エスディージーズ</sup>SDGs」「<sup>アイシーティ</sup>ICTに関する利用状況や要望」「健康づくり」「里親制度の認知度」「高齢者の生きがいづくりなどに関する取組」「自転車の安全利用」「市職員の接遇」の8項目について調査を実施し、報告書として取りまとめました。

この報告書が関係各方面におかれましても、ご活用いただければ幸いに存じます。

結びになりますが、調査にあたりご協力いただきました市民の皆様に心から御礼申し上げますとともに、引き続き市政に対するなお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

令和3年11月

相模原市長

**本村賢太郎**



## 市章

相模原市市章

相模原市市章 ( 昭和 24 年 11 月 1 日 )  
制 定

片仮名「サ」三つと片仮名「ハラ」を図案化したもので、  
市民が互いに手を取り合って明朗なごやかに進む姿、すこ  
やかに伸び行く相模原市を象徴するもの

## 相模原市民憲章

わたくしたち相模原市民は 相模野の広い台地 相模川の雄大な流れ 先人より  
受け継いだ開拓の精神や伝統を誇りとし 敬愛と協調を高め 住みよい風格のある  
まちへの限らない発展を願って この市民憲章を定めます

- 1 青い空 あふれる緑 澄んだ水 うるおいのあるまちをつくります
- 1 いのちを大切にし 思いやりと笑顔で 明るいくらしを築きます
- 1 心とからだをきたえ はげましあい 希望をもって働きます
- 1 ものをだいじにし きまりや約束を守ることを誇りとします
- 1 おたがいに学びあい 豊かな市民の文化を育てます

昭和 54 年 11 月 18 日制定

---

I	調査の概要	3
1.	調査の目的	3
2.	調査の設計	3
3.	調査の内容	3
4.	区別	3
5.	区別・地区別回収状況	4
6.	集計結果を見る上での注意事項	5
II	回答者の属性	9
III	調査結果	15
1	広報について	15
(1)	「広報さがみはら」の閲覧状況	15
(1-1)	「広報さがみはら」を読んでいない理由	17
(2)	「さがみはら市議会だより」の閲覧状況	20
(2-1)	「さがみはら市議会だより」を読んでいない理由	22
(3)	市政について知りたいこと	25
(4)	市の情報を得る手段	28
(4-1)	インターネットを利用する手段	31
2	<small>エスディージーズ</small> SDGsについて	33
(1)	SDGsのロゴやアイコンの認知状況	33
(2)	SDGsの認知度	35
(3)	SDGsの達成に向けて実践していること	37
3	<small>アイシーティー</small> ICTに関する利用状況や要望について	40
(1)	インターネットの利用機器	40
(2)	ICTを活用した相模原市のサービスの利用経験	43
(3)	ICTを活用してほしい施策	46
(4)	ICTを活用した施策をどのようにすべきか	49
4	健康づくりについて	51
(1)	健康状態	51
(2)	健康状態や健康づくりの取組の変化	54
(3)	健康づくりを進めていくために必要な取組	63
(4)	健康づくりのために行っている取組	65
(5)	新たに健康づくりに取り組むきっかけづくりに必要な取組	67
(6)	健康づくりに関する意識の向上のために必要な方策	69

# 目次

---

5	里親制度の認知度について	71
	(1) 里親制度の認知度	71
	(1-1) 里親制度を知ったきっかけ	73
	(1-2) 里親の活動で知っているもの	75
	(2) 里親活動の取組意向	77
	(2-1) 里親活動に取り組むための条件	79
6	高齢者の生きがいづくりなどに関する取組について	81
	(1) 「高齢者」だと思ふ年齢	81
	(2) 高齢者の生きがいづくりのために力を入れるべき取組	83
7	自転車の安全利用について	85
	(1) 自転車保険の加入状況	85
	(1-1) 加入している保険の種類	87
	(1-2) 加入していない理由	89
	(2) 自転車事故の賠償に備える特約を付帯できる損害保険の認知度	92
	(3) 自転車に乗るときのヘルメットの着用状況	94
	(3-1) ヘルメットを着用していない理由	96
	(4) 13歳未満の子どもに対するヘルメットの着用状況	99
	(4-1) ヘルメットを着用させていない理由	101
	(5) 保護者が幼児・児童にヘルメットを着用させる条例の努力義務の認知度	104
8	市職員の接遇について	106
	(1) 市職員と接する機会の有無	106
	(1-1) 市職員と接した用件	108
	(1-2) 直近で市職員と接した用件	111
	(1-3) 市職員の接遇態度	114
	(2) 市職員に求める接遇態度	122
9	自由意見	125
IV	集計表	129
V	調査票	205

# I 調査の概要

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

### 2. 調査の設計

- |              |                                 |
|--------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域     | 相模原市全域                          |
| (2) 調査対象     | 18歳以上の相模原市在住者                   |
| (3) 標本数      | 3,000人                          |
| (4) 抽出方法     | 住民基本台帳からの等間隔系統抽出                |
| (5) 調査方法     | 郵送調査法（郵送に準じた配付－郵送回収、はがきによる督促1回） |
| (6) 調査期間     | 令和3年6月25日～7月15日                 |
| (7) 調査機関     | 株式会社エスピー研                       |
| (8) 有効回収数（率） | 1,428（47.6%）                    |

### 3. 調査の内容

令和3年度 市政に関する世論調査は、8の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 広報について	問1～問4
2 <small>エスディージーズ</small> SDGsについて	問5～問7
3 <small>アイシーティー</small> ICTに関する利用状況や要望について	問8～問11
4 健康づくりについて	問12～問17
5 里親制度の認知度について	問18～問19
6 高齢者の生きがいづくりなどに関する取組について	問20～問21
7 自転車の安全利用について	問22～問26
8 市職員の接遇について	問27～問28
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

### 4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	303	155	51.2%
	大沢	141	67	47.5%
	城山	33	12	36.4%
	津久井	95	48	50.5%
	相模湖	100	44	44.0%
	藤野	34	13	38.2%
	<b>緑区計</b>	<b>706</b>	<b>339</b>	<b>48.0%</b>
中央区	小山	85	27	31.8%
	清新	132	43	32.6%
	横山	59	22	37.3%
	中央	147	132	89.8%
	星が丘	76	23	30.3%
	光が丘	114	47	41.2%
	大野北	252	81	32.1%
	田名	126	70	55.6%
	上溝	143	75	52.4%
	<b>中央区計</b>	<b>1,134</b>	<b>520</b>	<b>45.9%</b>
南区	大野中	267	118	44.2%
	大野南	325	166	51.1%
	麻溝	76	39	51.3%
	新磯	56	26	46.4%
	相模台	180	75	41.7%
	相武台	78	31	39.7%
	東林	178	90	50.6%
<b>南区計</b>	<b>1,160</b>	<b>545</b>	<b>47.0%</b>	
地区不明		0	24	-
<b>合計</b>		<b>3,000</b>	<b>1,428</b>	<b>47.6%</b>



## 6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、( )内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,428である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.65以内(47.35%～52.65%)とみることができる。

### <標準誤差の表>

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,428	±1.59	±2.12	±2.43	±2.59	±2.65

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

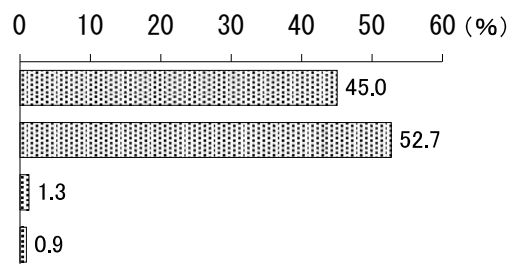
※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。

## Ⅱ 回答者の属性

## Ⅱ 回答者の属性

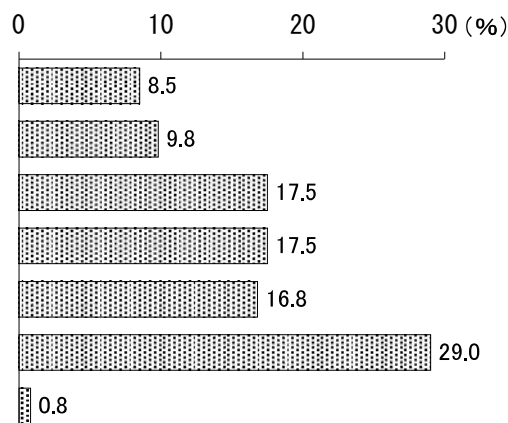
### 1 性別

	回答件数	比率
男性	643	45.0%
女性	753	52.7
答えたくない	19	1.3
無回答	13	0.9
合 計	1,428	100.0



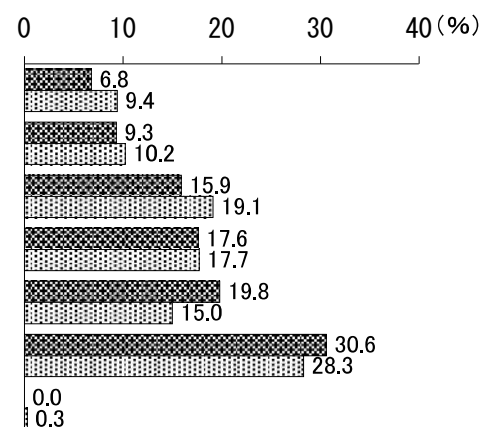
### 2 年齢

	回答件数	比率
30歳未満	122	8.5%
30～39歳	140	9.8
40～49歳	250	17.5
50～59歳	250	17.5
60～69歳	240	16.8
70歳以上	414	29.0
無回答	12	0.8
合 計	1,428	100.0



### 性／年齢別

	男 性		女 性	
	回答件数	比率	回答件数	比率
30歳未満	44	6.8%	71	9.4%
30～39歳	60	9.3	77	10.2
40～49歳	102	15.9	144	19.1
50～59歳	113	17.6	133	17.7
60～69歳	127	19.8	113	15.0
70歳以上	197	30.6	213	28.3
無回答	0	0.0	2	0.3
合 計	643	100.0	753	100.0

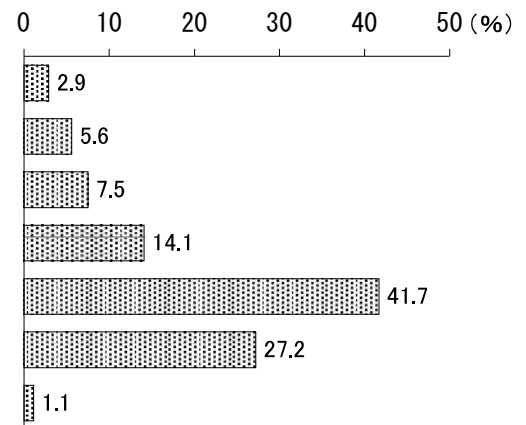


※性別で無回答 13 件、「答えたくない」19 件、年齢で無回答 12 件あり

## II 回答者の属性

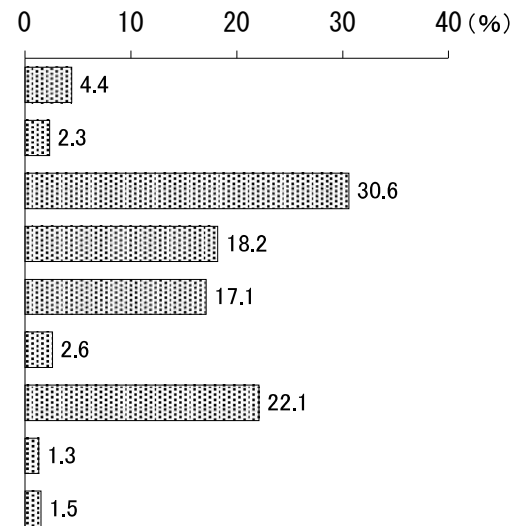
### 3 居住年数

	回答件数	比率
1年未満	41	2.9%
1～5年未満	80	5.6
5～10年未満	107	7.5
10～20年未満	202	14.1
20年以上（転入して以来）	595	41.7
20年以上（生まれてからずっと）	388	27.2
無回答	15	1.1
合 計	1,428	100.0



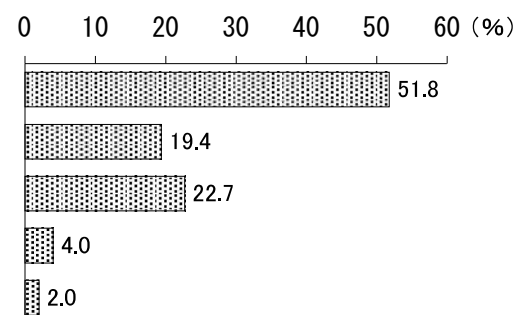
### 4 職業

	回答件数	比率
事業主	63	4.4%
自由業	33	2.3
会社員、公務員、団体職員	437	30.6
パート、アルバイト	260	18.2
専業主婦・主夫	244	17.1
学生	37	2.6
無職	315	22.1
その他	18	1.3
無回答	21	1.5
合 計	1,428	100.0



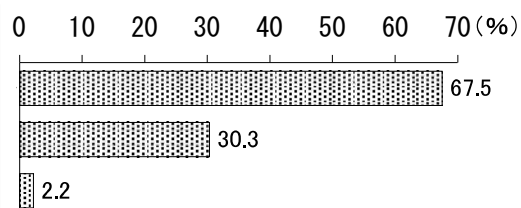
#### 4-1 勤務地

	回答件数	比率
相模原市内	411	51.8%
相模原市以外の神奈川県内	154	19.4
東京都	180	22.7
その他	32	4.0
無回答	16	2.0
合 計	793	100.0



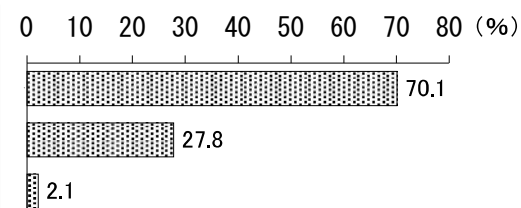
5 配偶者の有無

	回答件数	比率
配偶者がいる	964	67.5%
配偶者はいない	432	30.3
無回答	32	2.2
合 計	1,428	100.0



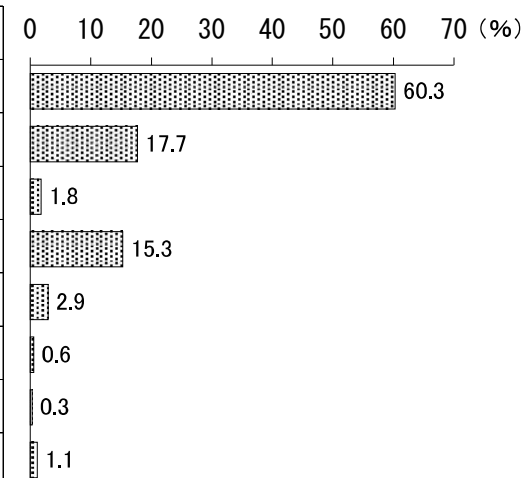
6 子どもの有無

	回答件数	比率
子どもがいる	1,001	70.1%
子どもはいない	397	27.8
無回答	30	2.1
合 計	1,428	100.0

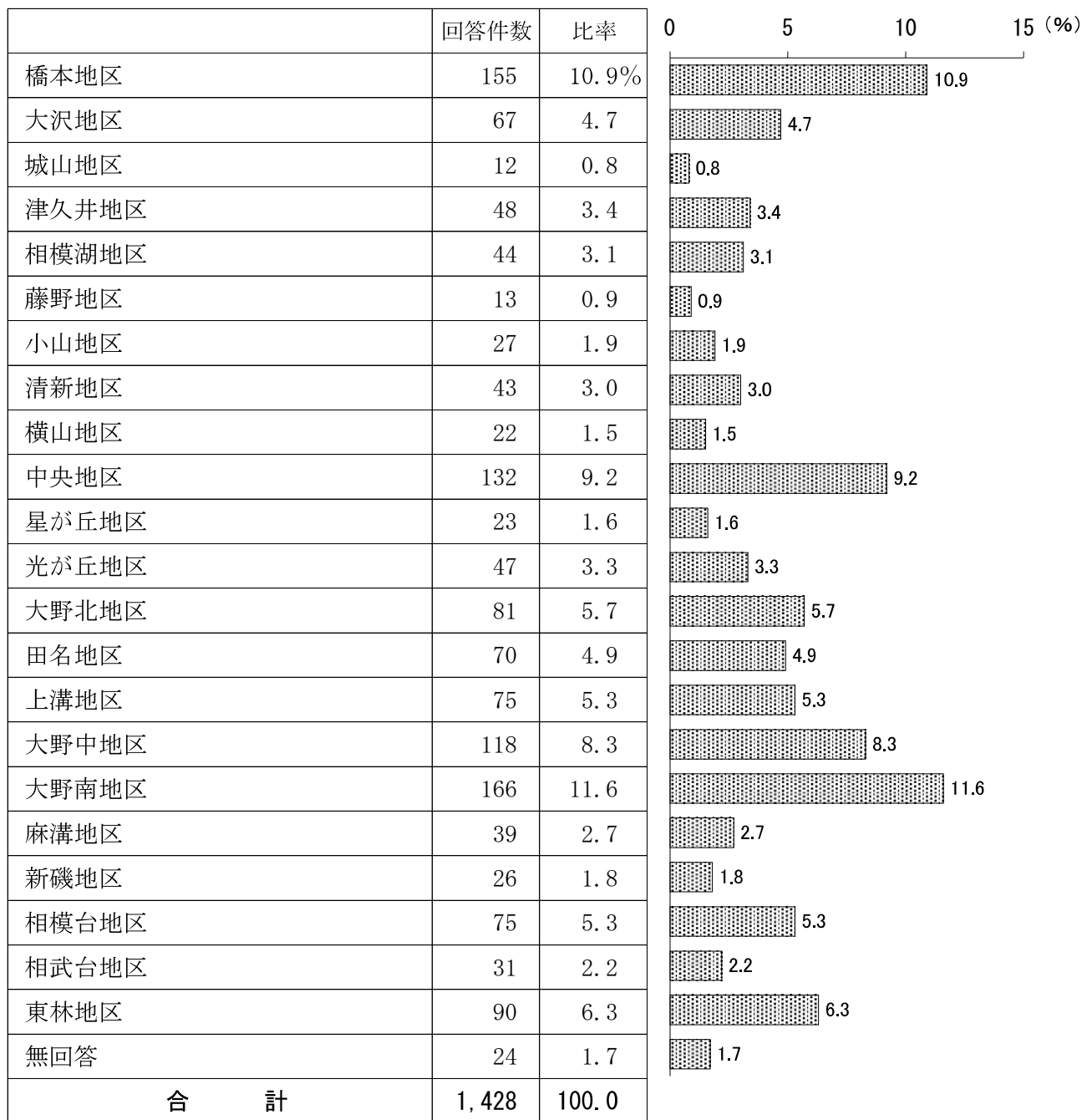


7 居住形態

	回答件数	比率
持家一戸建	861	60.3%
持家共同住宅	253	17.7
民間の賃貸一戸建	26	1.8
民間の賃貸共同住宅	218	15.3
公団・公社・公営の賃貸住宅	42	2.9
社宅・官舎・寮など	9	0.6
その他	4	0.3
無回答	15	1.1
合 計	1,428	100.0



8 居住地区



区別

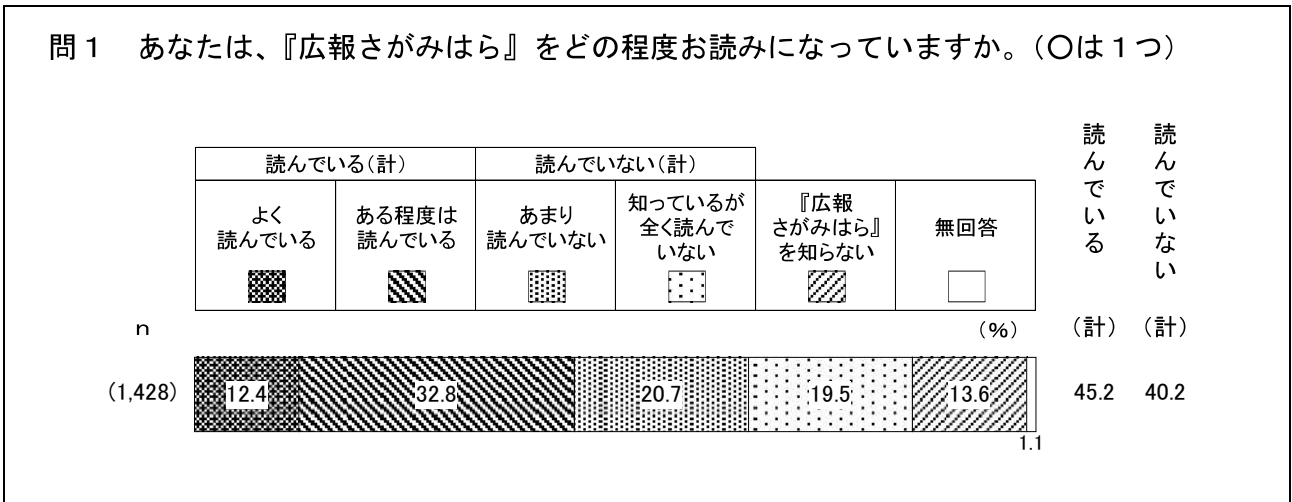


### Ⅲ 調查結果

### Ⅲ 調査結果

#### 1 広報について

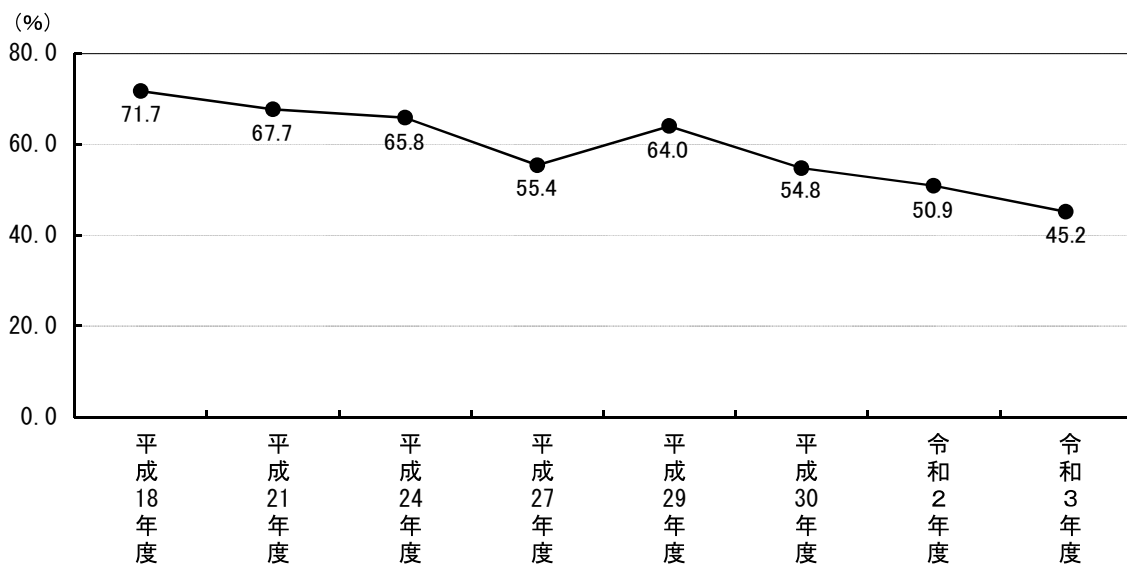
##### (1) 「広報さがみはら」の閲覧状況



「広報さがみはら」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(12.4%)と「ある程度は読んでいる」(32.8%)の2つを合わせた《読んでいる(計)》(45.2%)は4割半ばとなっている。一方、「あまり読んでいない」(20.7%)と「知っているが全く読んでいない」(19.5%)の2つを合わせた《読んでいない(計)》(40.2%)は4割となっている。また、『広報さがみはら』を知らない(13.6%)は1割を超えている。

##### <経年比較> 《読んでいる(計)》(「よく読んでいる」+「ある程度は読んでいる」)

過去の調査結果と比較すると、平成29年度以降減少傾向にあり、令和2年度より5.7ポイント減少している。



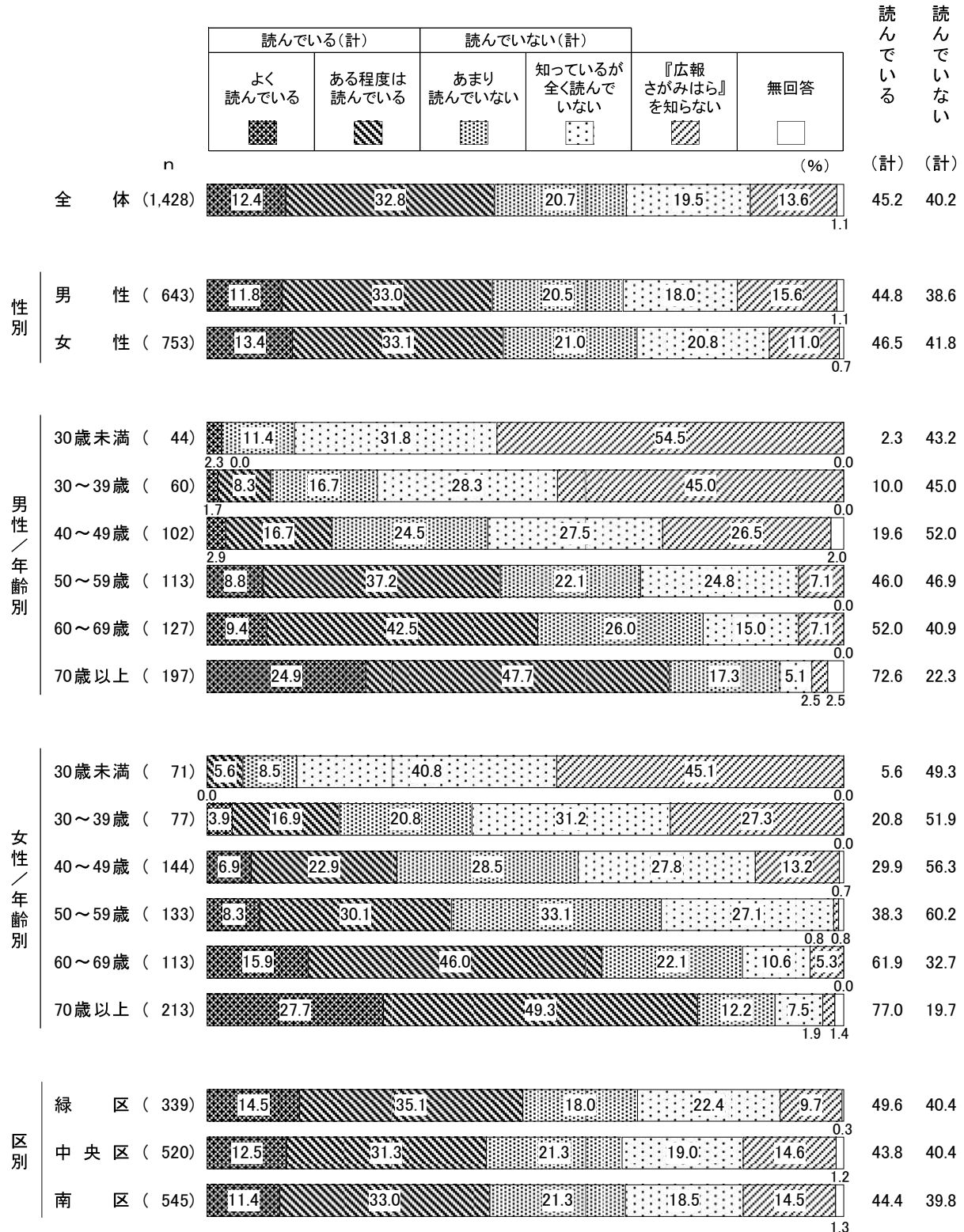


<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「読んでいない（計）」は女性が男性より3.2ポイント高くなっている。

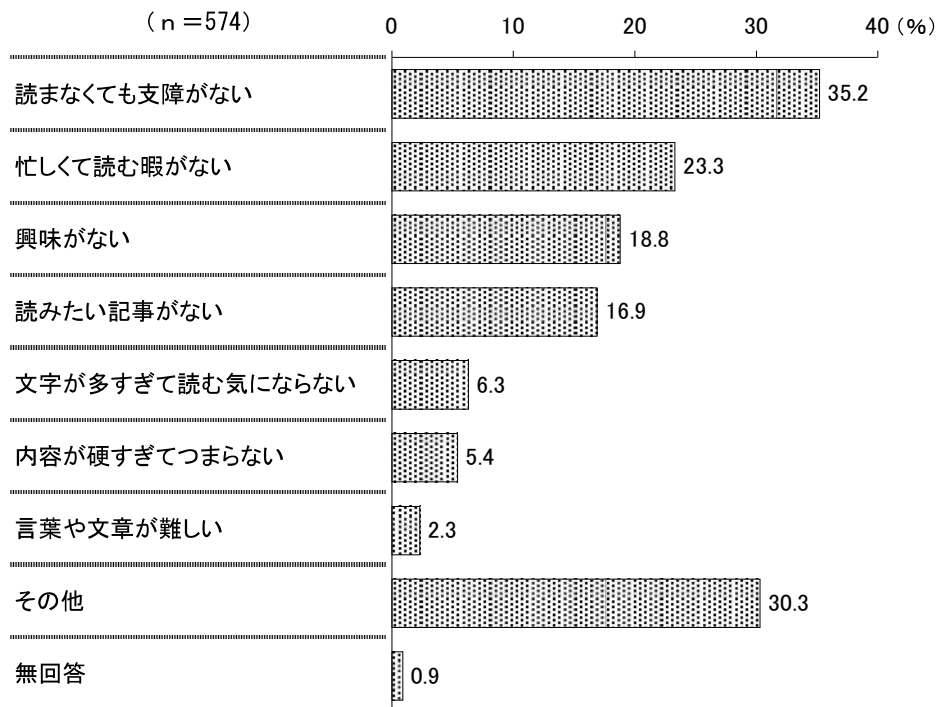
性／年齢別でみると、「読んでいる（計）」は男女ともに年齢が上がるにつれて高く、男女ともに70歳以上で7割台と高くなっている。一方、「読んでいない（計）」は女性50～59歳で6割と高くなっている。

区別でみると、「読んでいる（計）」は緑区で5割と高くなっている。



(1-1) 「広報さがみはら」を読んでいない理由

《問1で「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」とお答えの方へ》  
 問1-1 あなたが読んでいないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)



「広報さがみはら」を「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「読まなくても支障がない」(35.2%)が3割半ばで最も高く、次いで、「忙しくて読む暇がない」(23.3%)、「興味がない」(18.8%)、「読みたい記事がない」(16.9%)と続いている。

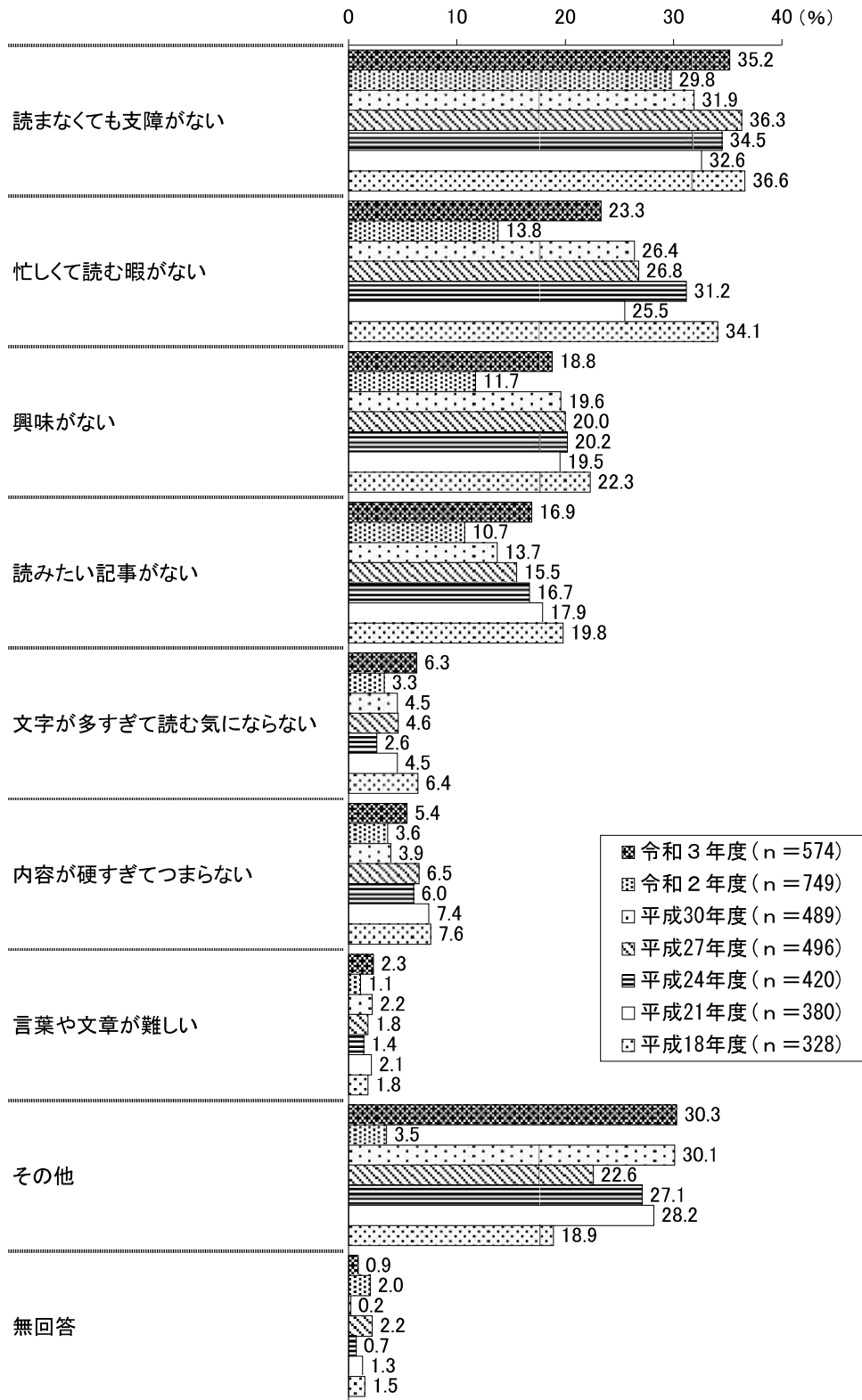
また、「その他」への回答として、「新聞を購読していない」、「家に届かない、手に入らない」などが多くあげられている。

< 「その他」の記述 >

読んでいない理由	件数	理由の具体的内容	件数
入手していない	142	新聞を購読していない	58
		家に届かない、手に入らない	51
		手にする機会が少ない	13
		どこに置いてあるのかわからない	13
		わざわざ取りに行かない	5
		いつ配布されているかわからない、気が付かない	2
紙面・記事の内容	14	気になるところだけ読む	5
		内容がわからない、わかりにくい	3
		文字が小さく見にくい	3
		身近な情報が少ない	1
		量が多すぎて読み切れない	1
		ホームページ上で探しにくい	1
他の情報を見ている	8	必要な情報はパソコンやスマートフォンで入手している	6
		必要なことは家族が教えてくれる	2
その他	14	その他	14
合計			178

<経年比較>

過去の調査結果との比較は、令和2年度のみ選択肢が異なるので参考に図示する。



※令和2年度のみ「『広報さがみはら』を入手していない」(34.6%)と「『広報さがみはら』を知らなかった」(15.5%)の選択肢が設けられていた

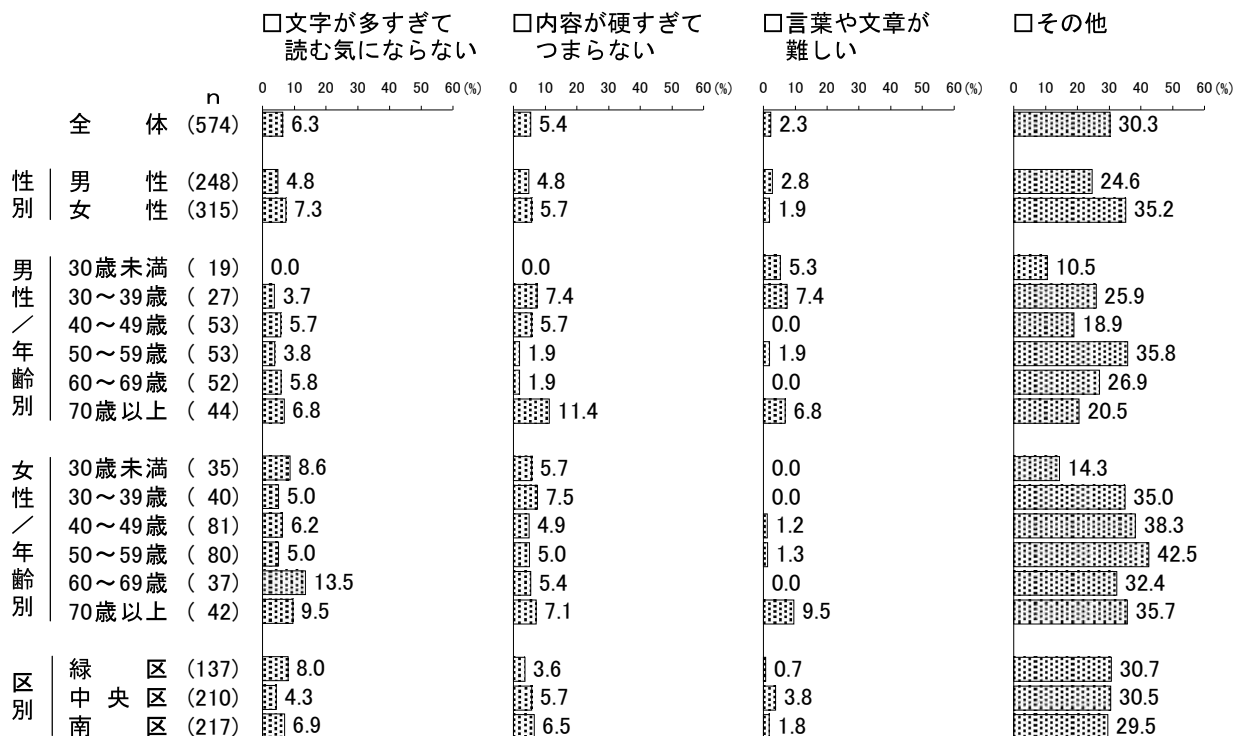
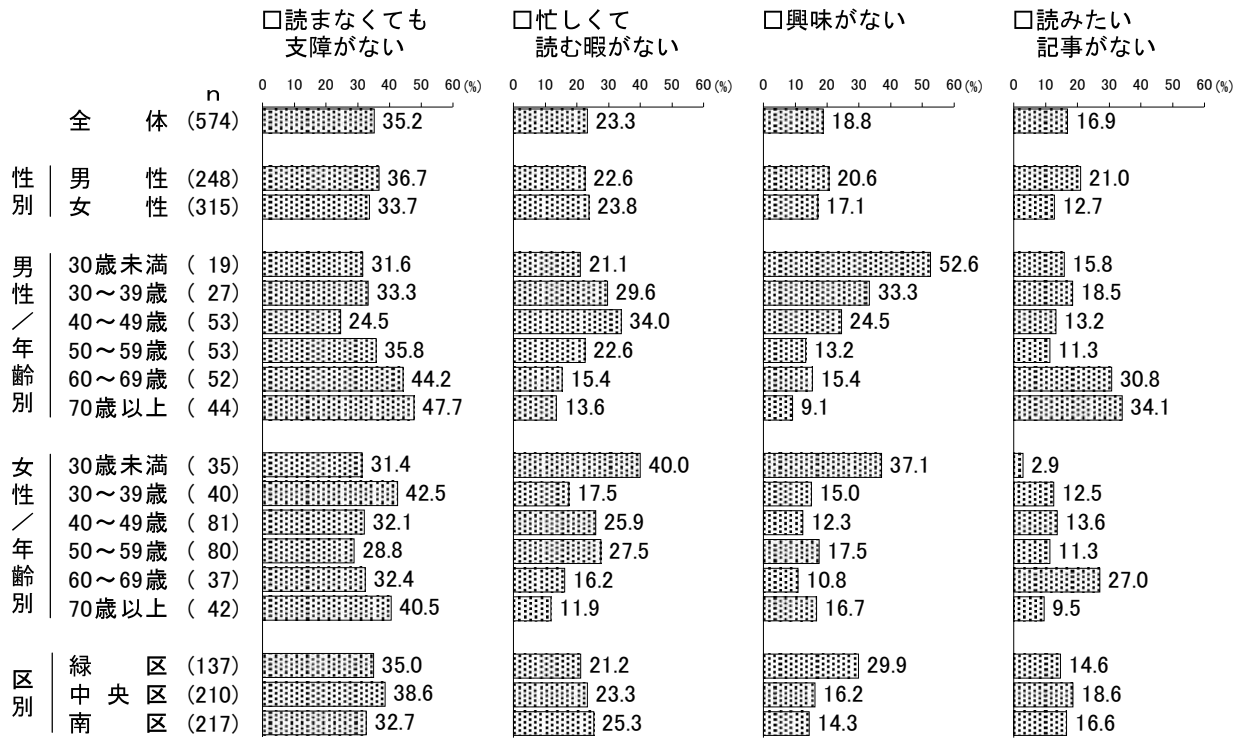
<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「読みたい記事がない」は男性が女性より8.3ポイント高くなっている。

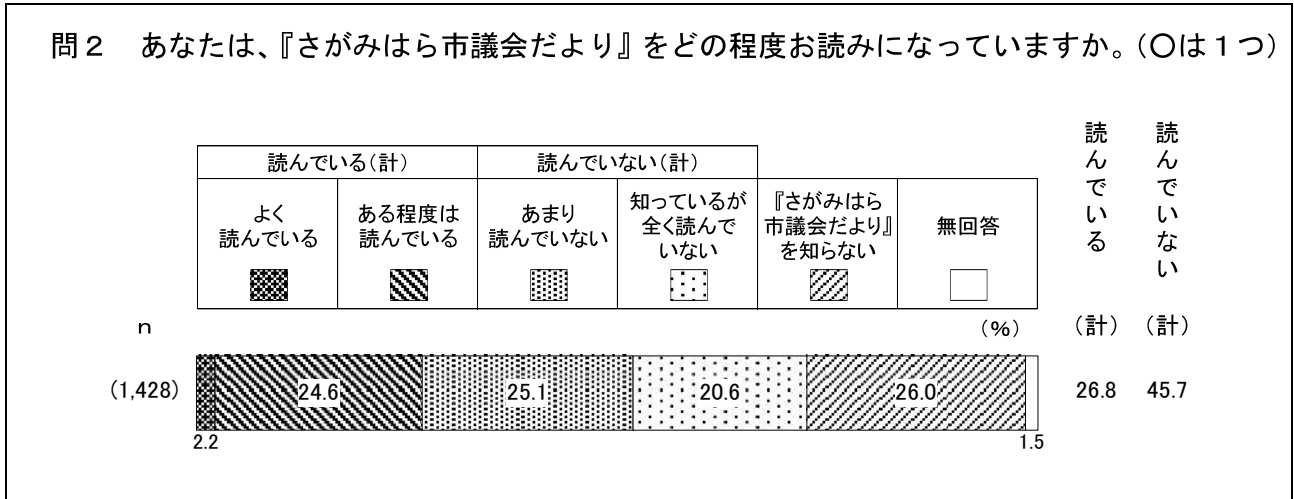
性／年齢別でみると、「読まなくても支障がない」は男性70歳以上で5割近くと高くなっている。

「忙しくて読む暇がない」は女性30歳未満で4割と高くなっている。

区別でみると、「読まなくても支障がない」は中央区で4割近くと高くなっている。「興味がない」は緑区で3割と高くなっている。



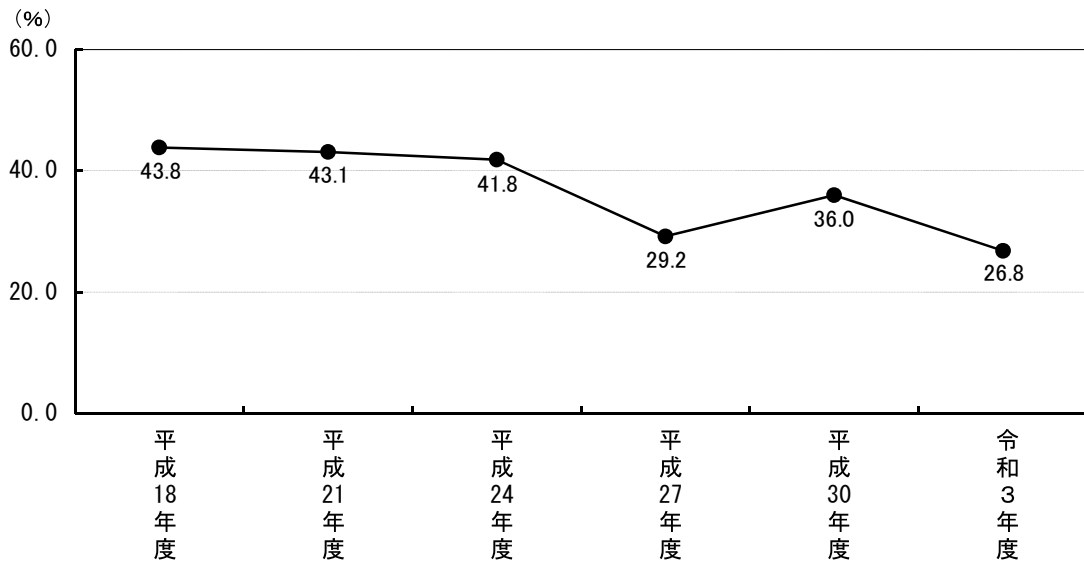
(2) 「さがみはら市議会だより」の閲覧状況



「さがみはら市議会だより」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(2.2%)と「ある程度は読んでいる」(24.6%)の2つを合わせた《読んでいる(計)》(26.8%)は3割近くとなっている。一方、「あまり読んでいない」(25.1%)と「知っているが全く読んでいない」(20.6%)の2つを合わせた《読んでいない(計)》(45.7%)は4割半ばとなっている。また、「『さがみはら市議会だより』を知らない」(26.0%)は2割半ばとなっている。

<経年比較> 《読んでいる(計)》(「よく読んでいる」+「ある程度は読んでいる」)

過去の調査結果と比較すると、平成18年度から平成24年度までは4割台で推移していたが、平成27年度に大幅に減少し、平成30年度では3割半ばまで回復したものの、今回調査では平成30年度より9.2ポイント減少している。

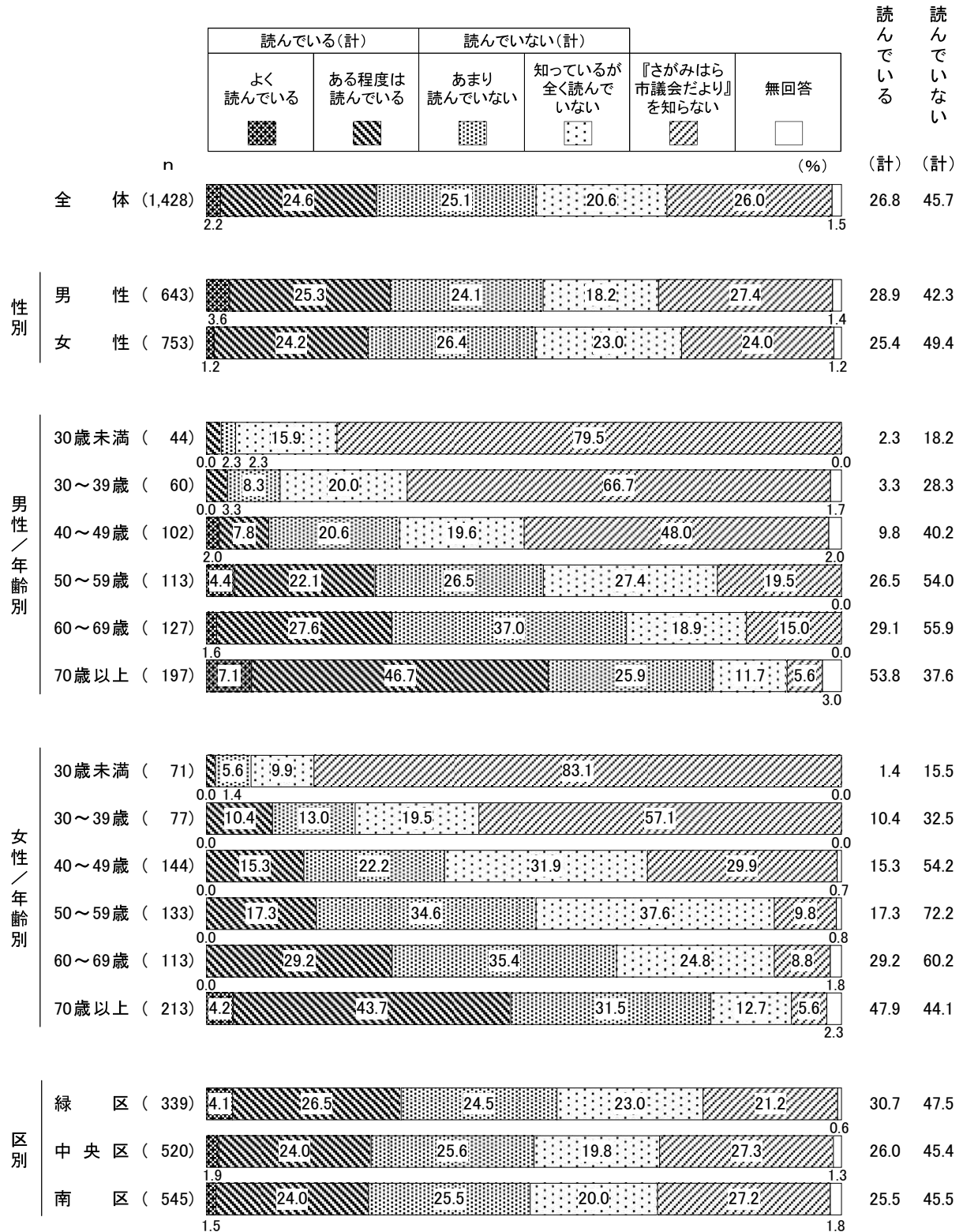


<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「読んでいない（計）」は女性が男性より7.1ポイント高くなっている。

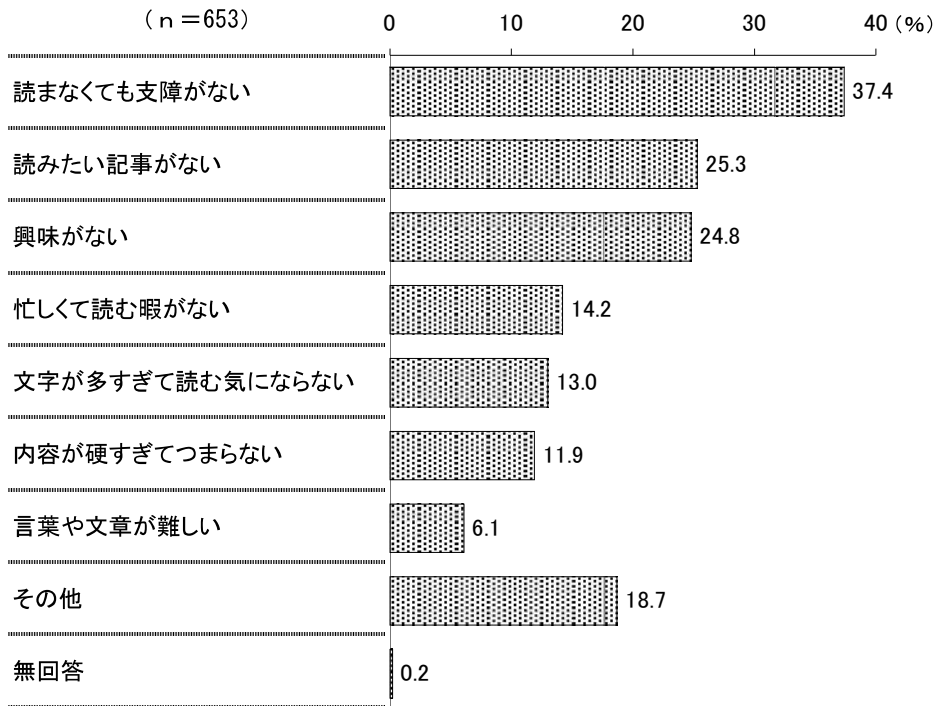
性／年齢別でみると、「読んでいる（計）」は男女ともに年齢が上がるにつれて高く、男性70歳以上で5割を超え、女性70歳以上で5割近くと高くなっている。一方、「読んでいない（計）」は女性50～59歳で7割を超え、女性60～69歳で6割と高くなっている。

区別でみると、「読んでいる（計）」は緑区で約3割と高くなっている。



(2-1) 「さがみはら市議会だより」を読んでいない理由

《問2で「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」とお答えの方へ》  
 問2-1 あなたが読んでいないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)



「さがみはら市議会だより」を「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「読まなくても支障がない」(37.4%)が4割近くで最も高く、次いで、「読みたい記事がない」(25.3%)、「興味がない」(24.8%)、「忙しくて読む暇がない」(14.2%)、「文字が多すぎて読む気にならない」(13.0%)と続いている。

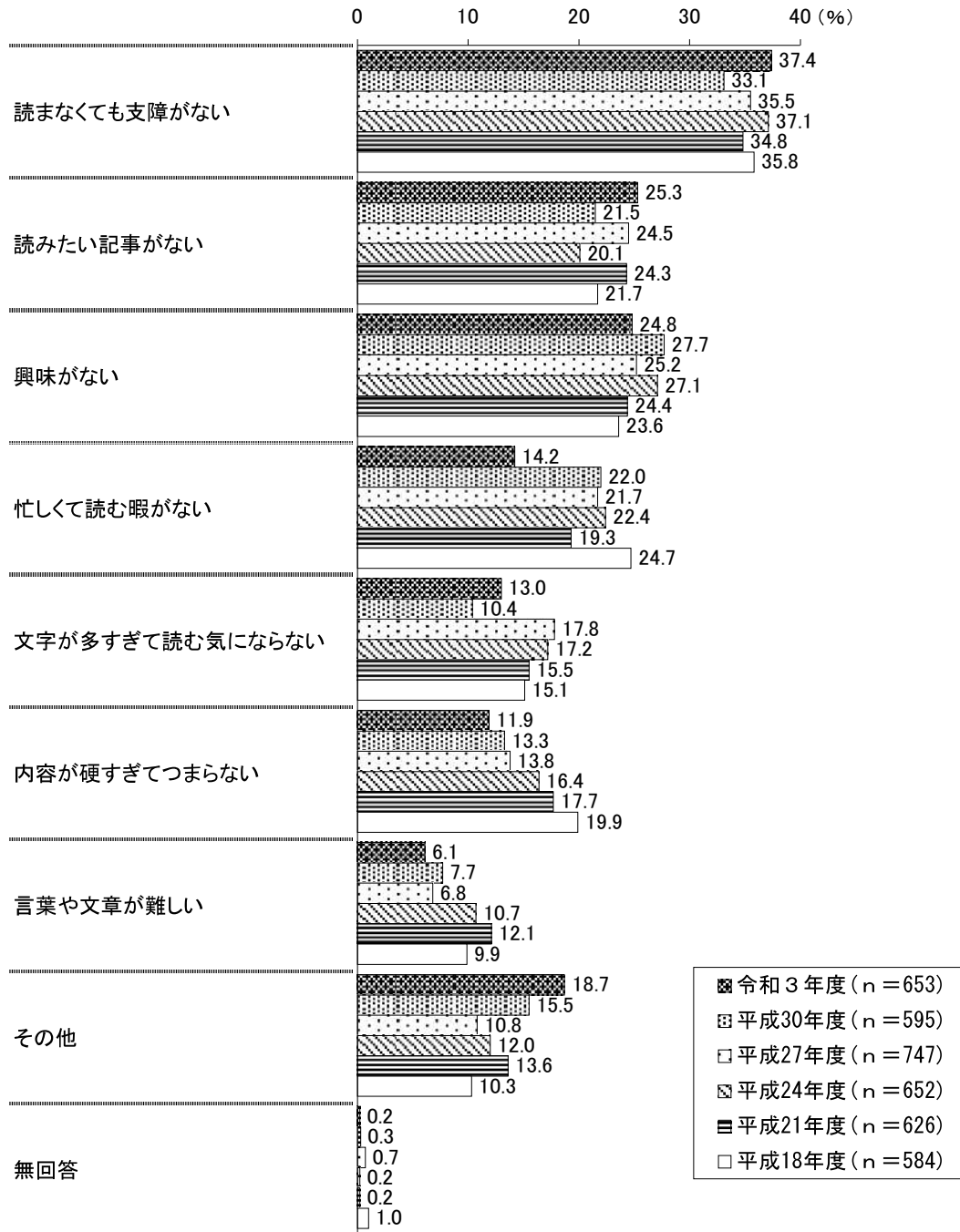
また、「その他」への回答として、「新聞を購読していない」、「家に届かない、手に入らない」などが多くあげられている。

<「その他」の記述>

読んでいない理由	件数	理由の具体的内容	件数
入手していない	77	新聞を購読していない	31
		家に届かない、手に入らない	30
		手にする機会が少ない	6
		わざわざ取りに行かない	3
		いつ配布されているかわからない、気が付かない	3
		どこに置いてあるかわからない	2
		回覧板で回って来た時だけ	2
紙面・記事の内容	23	興味ある記事のみ読む	9
		読んでも政治が変わらない	5
		もっと具体的に記載してほしい	4
		文字が読みにくい	2
		興味のある記事がない、興味を持ってない	2
他の情報を見ている	2	わかりにくい	1
		必要な情報はパソコンやスマートフォンで入手している	1
読む機会がない	2	必要なことは家族が教えてくれる	1
		読む機会がない	1
その他	20	その他	20
合 計			124

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「読まなくても支障がない」は平成30年度より4.3ポイント、「読みたい記事がない」は平成30年度より3.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「忙しくて読む暇がない」は平成30年度より7.8ポイント減少している。



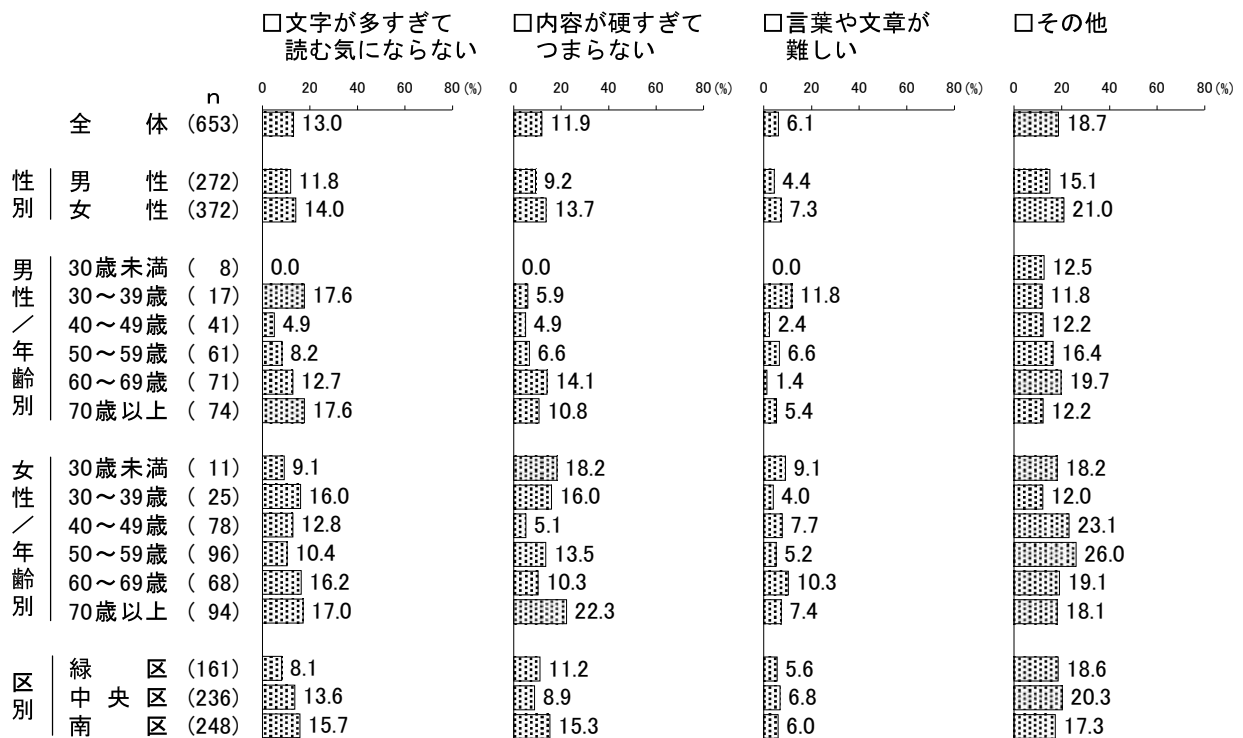
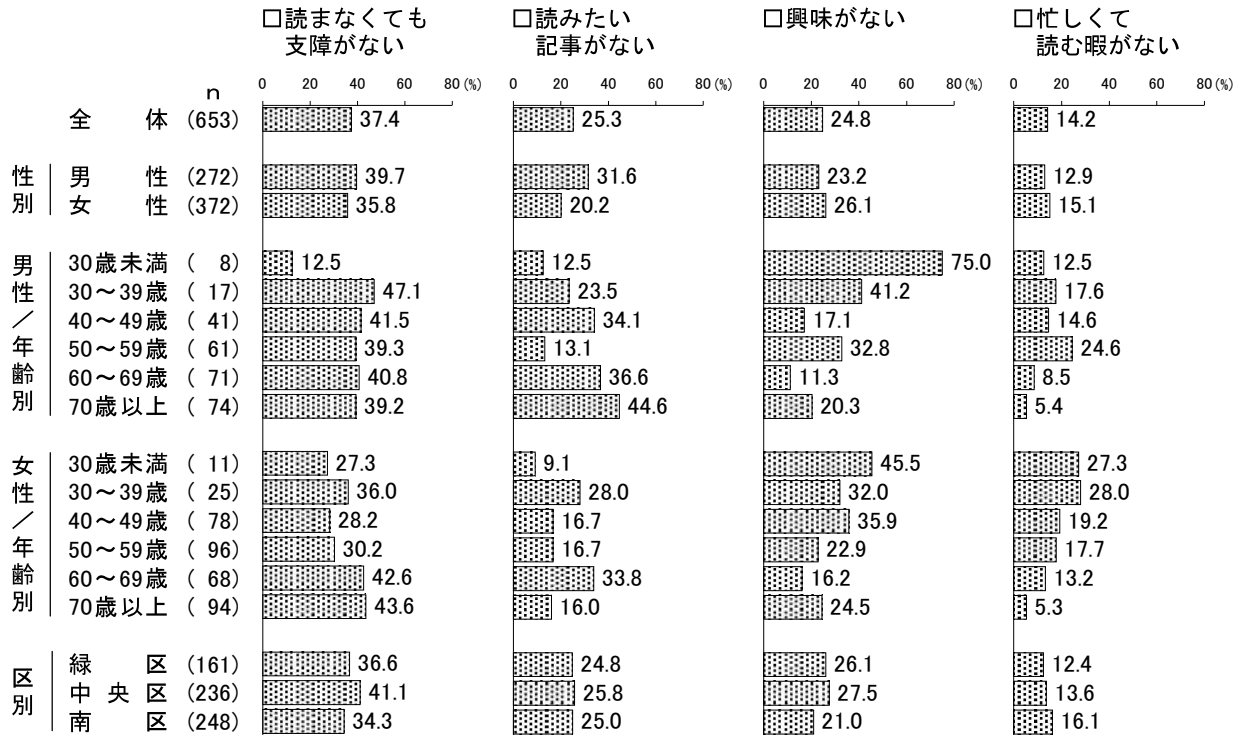


<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「読みたい記事がない」は男性が女性より11.4ポイント高くなっている。一方、「内容が硬すぎてつまらない」は女性が男性より4.5ポイント高くなっている。

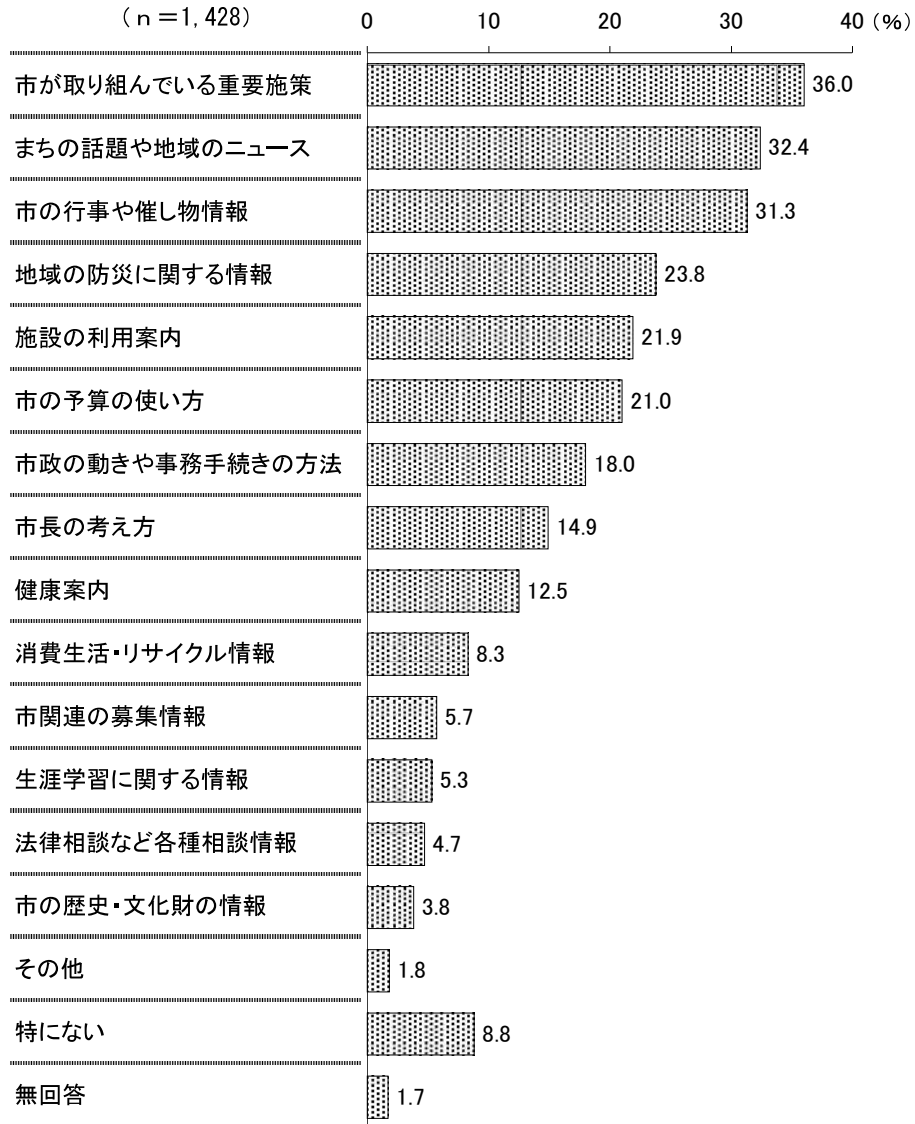
性／年齢別でみると、「読みたい記事がない」は男性70歳以上で4割半ばと高くなっている。

区別でみると、「読まなくても支障がない」は中央区で4割を超えて高くなっている。



(3) 市政について知りたいこと

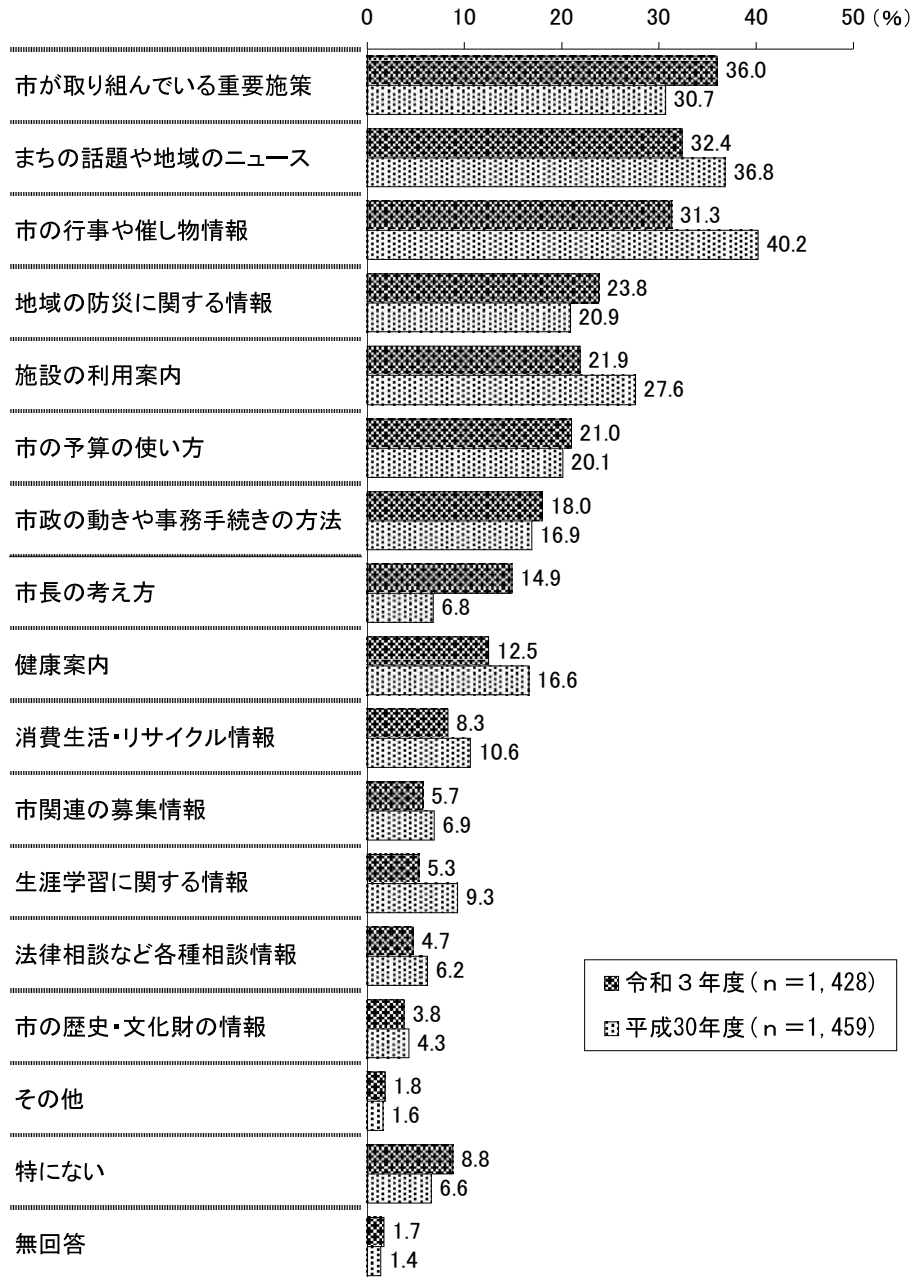
問3 あなたは、広報紙などから得られる情報のうち、市政について、日ごろ特に知りたいと思っているのはどのようなことですか。(〇は3つまで)



市政について知りたいことをたずねたところ、「市が取り組んでいる重要施策」(36.0%)が3割半ばで最も高く、次いで、「まちの話題や地域のニュース」(32.4%)、「市の行事や催し物情報」(31.3%)、「地域の防災に関する情報」(23.8%)、「施設の利用案内」(21.9%)と続いている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「市長の考え方」は平成30年度より8.1ポイント、「市が取り組んでいる重要施策」は平成30年度より5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「市の行事や催し物情報」は平成30年度より8.9ポイント、「施設の利用案内」は平成30年度より5.7ポイント、それぞれ減少している。

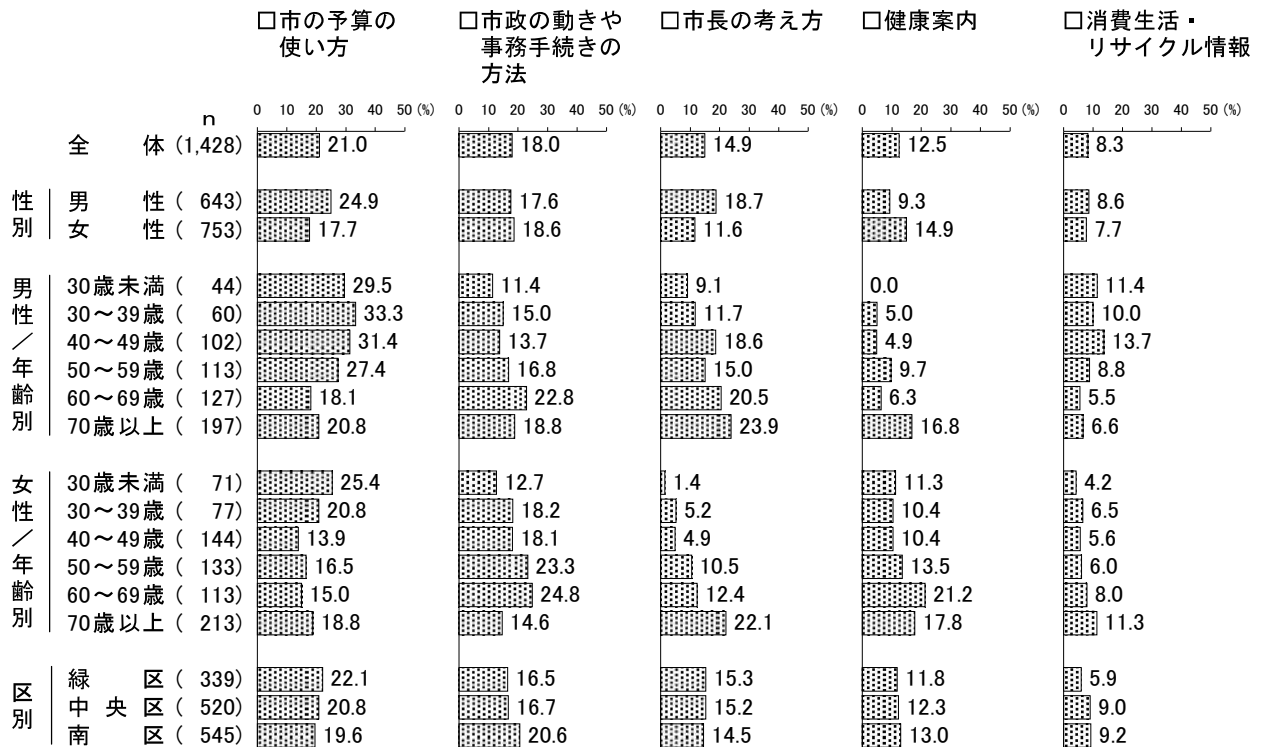
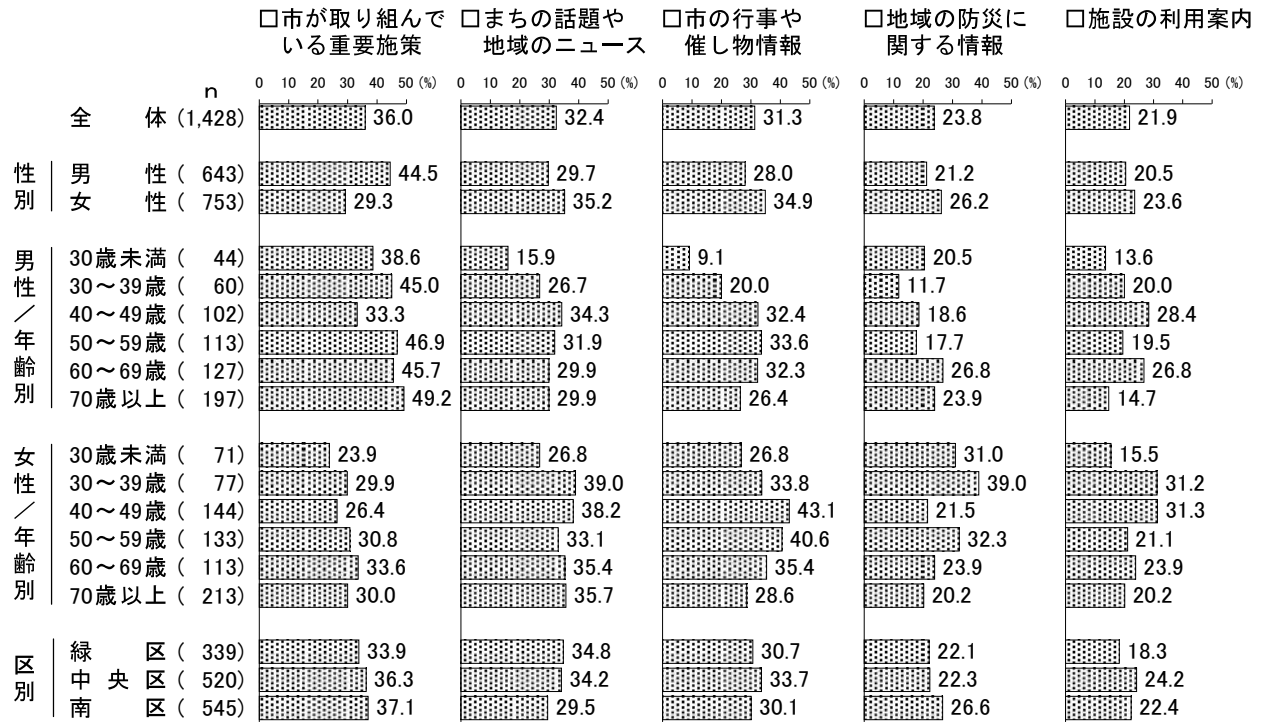


<性別・性／年齢別・区別結果> (上位10項目)

性別でみると、「市が取り組んでいる重要施策」は男性が女性より15.2ポイント高くなっている。一方、「市の行事や催し物情報」は女性が男性より6.9ポイント高くなっている。

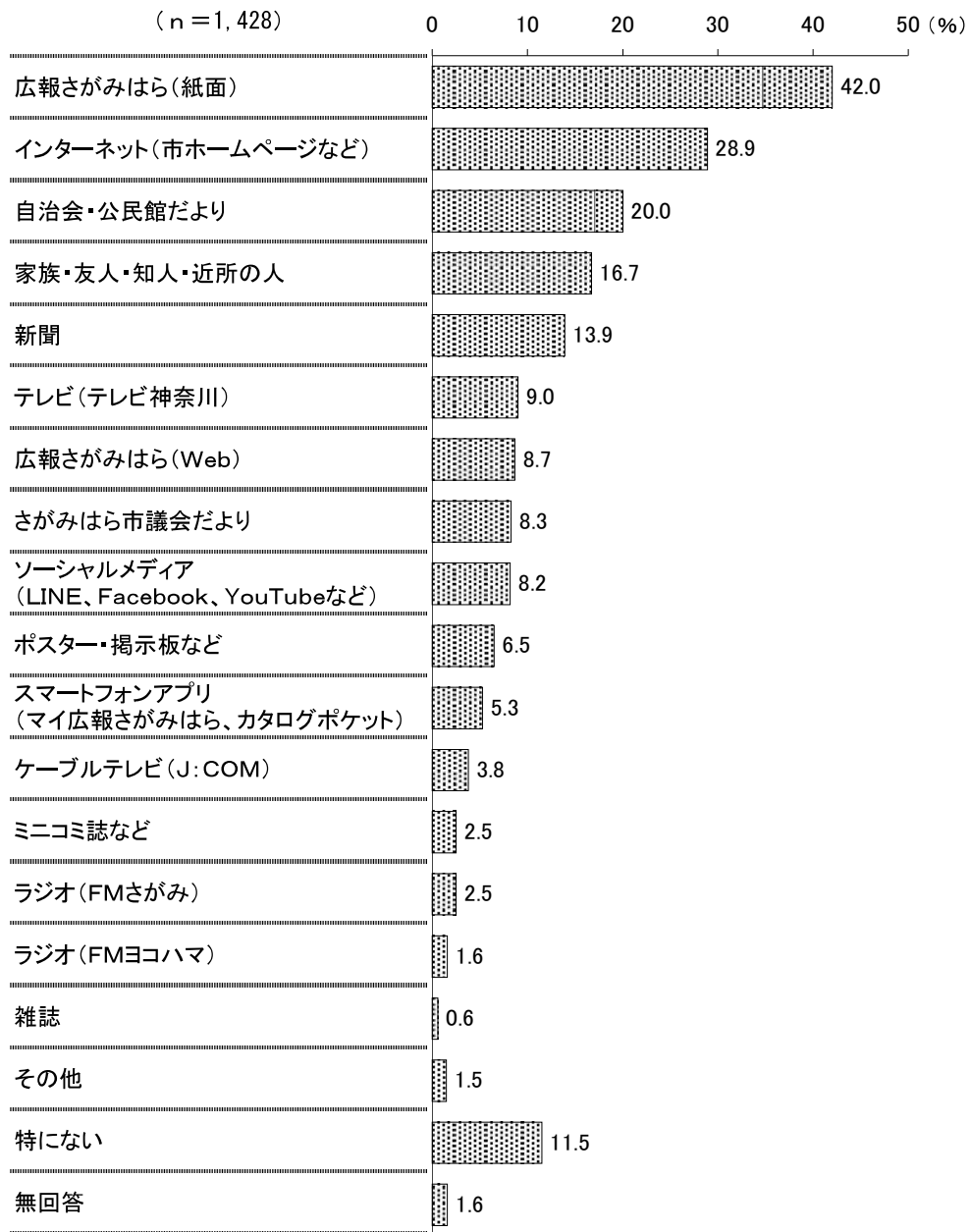
性／年齢別でみると、「市が取り組んでいる重要施策」は男性70歳以上で約5割と高くなっている。「市の行事や催し物情報」は女性40～49歳と女性50～59歳で4割台と高くなっている。

区別でみると、「市が取り組んでいる重要施策」は南区で4割近くと高くなっている。「まちの話題や地域のニュース」は緑区と中央区で3割半ばと高くなっている。



(4) 市の情報を得る手段

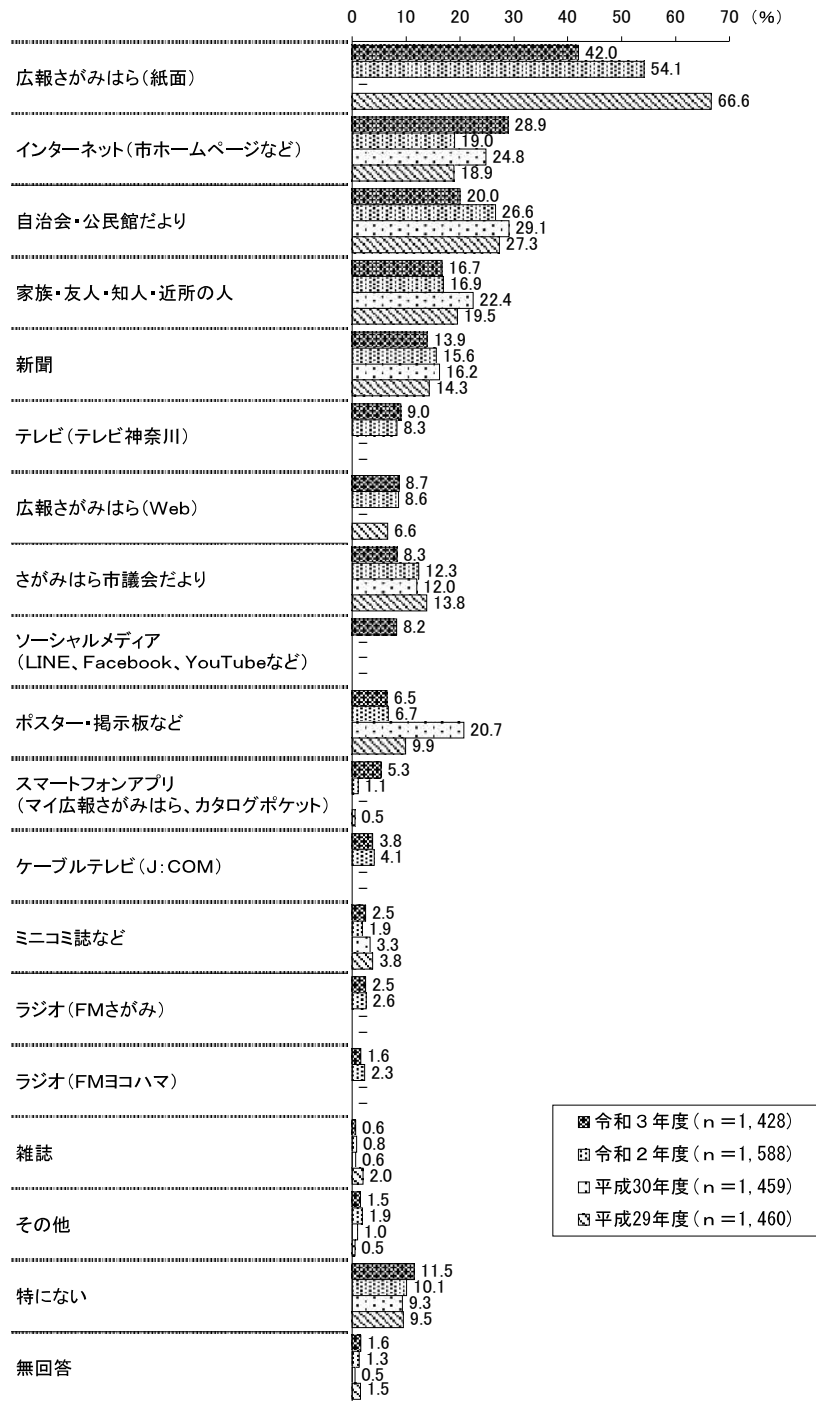
問4 あなたは、相模原市の情報を日ごろ何から得ていますか。(○は3つまで)



相模原市の情報を日ごろ何から得ているかたずねたところ、「広報さがみはら(紙面)」(42.0%)が4割を超えて最も高く、次いで、「インターネット(市ホームページなど)」(28.9%)、「自治会・公民館だより」(20.0%)、「家族・友人・知人・近所の人」(16.7%)、「新聞」(13.9%)と続いている。

<経年比較>

過去の調査結果との比較は、選択肢が異なるので参考となるが、「インターネット（市ホームページなど）」は令和2年度より9.9ポイント増加している。一方、「広報さがみはら（紙面）」は令和2年度より12.1ポイント減少している。



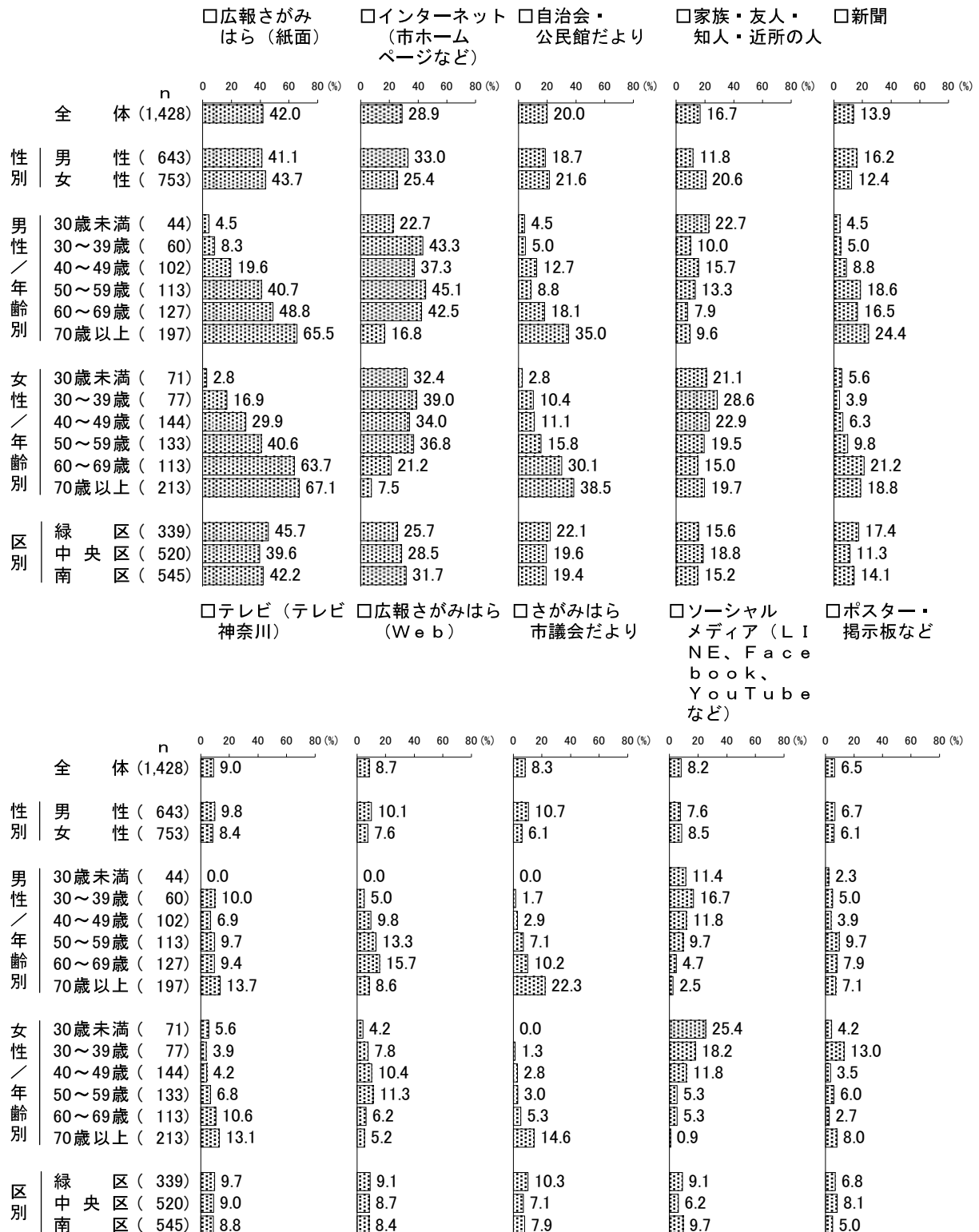
- ※「広報さがみはら（紙面）」と「広報さがみはら（Web）」は、平成30年度では「広報さがみはら」（51.7%）となっていた
- ※「インターネット（市ホームページなど）」は、令和2年度では「インターネット（市ホームページ・市公式LINEなど）」となっていた
- ※「テレビ（テレビ神奈川）」と「ケーブルテレビ（J：COM）」は、平成29年度、平成30年度では「テレビ（テレビ神奈川・J：COM）」（平成29年度（8.4%）、平成30年度（7.2%））となっていた
- ※「広報さがみはら（Web）」は、令和2年度と平成29年度では「広報さがみはら（ホームページ）」となっていた
- ※「ソーシャルメディア（LINE、Facebook、YouTubeなど）」は、今回調査から追加された選択肢
- ※「スマートフォンアプリ（マイ広報さがみはら、カタログポケット）」は、令和2年度と平成29年度では「マイ広報さがみはら（アプリ）」となっていた
- ※「ラジオ（FMさがみ）」と「ラジオ（FMヨコハマ）」は、平成29年度、平成30年度では「ラジオ（FMさがみ・FMヨコハマ）」（平成29年度（6.8%）、平成30年度（4.7%））となっていた

<性別・性／年齢別・区別結果> (上位10項目)

性別で見ると、「家族・友人・知人・近所の人」は女性が男性より8.8ポイント高くなっている。一方、「インターネット(市ホームページなど)」は男性が女性より7.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「広報さがみはら(紙面)」は男女ともに年齢が上がるにつれて高く、女性70歳以上で7割近くと高くなっている。「インターネット(市ホームページなど)」は男性50～59歳で4割半ばと高くなっている。

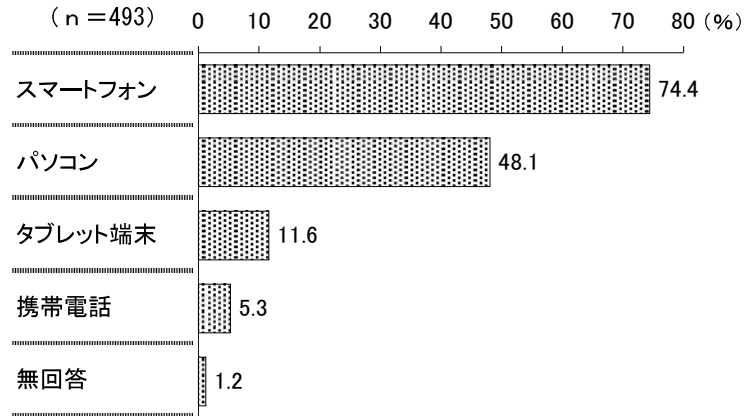
区別で見ると、「広報さがみはら(紙面)」は緑区で4割半ばと高くなっている。「インターネット(市ホームページなど)」は南区で3割を超えて高くなっている。



(4-1) インターネットを利用する手段

《問4で「広報さがみはら (Web)」、「インターネット (市ホームページなど)」とお答えの方へ》

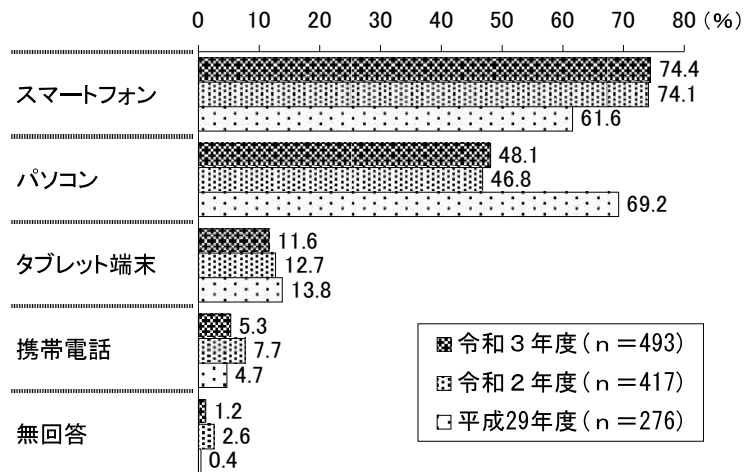
問4-1 インターネットを利用する手段はなんですか。(〇はいくつでも)



相模原市の情報を「広報さがみはら (Web)」、「インターネット (市ホームページなど)」から得ていると答えた方に、インターネットを利用する手段をたずねたところ、「スマートフォン」(74.4%)が7割半ばで最も高く、次いで、「パソコン」(48.1%)、「タブレット端末」(11.6%)、「携帯電話」(5.3%)と続いている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、令和2年度と大きな違いはみられない。



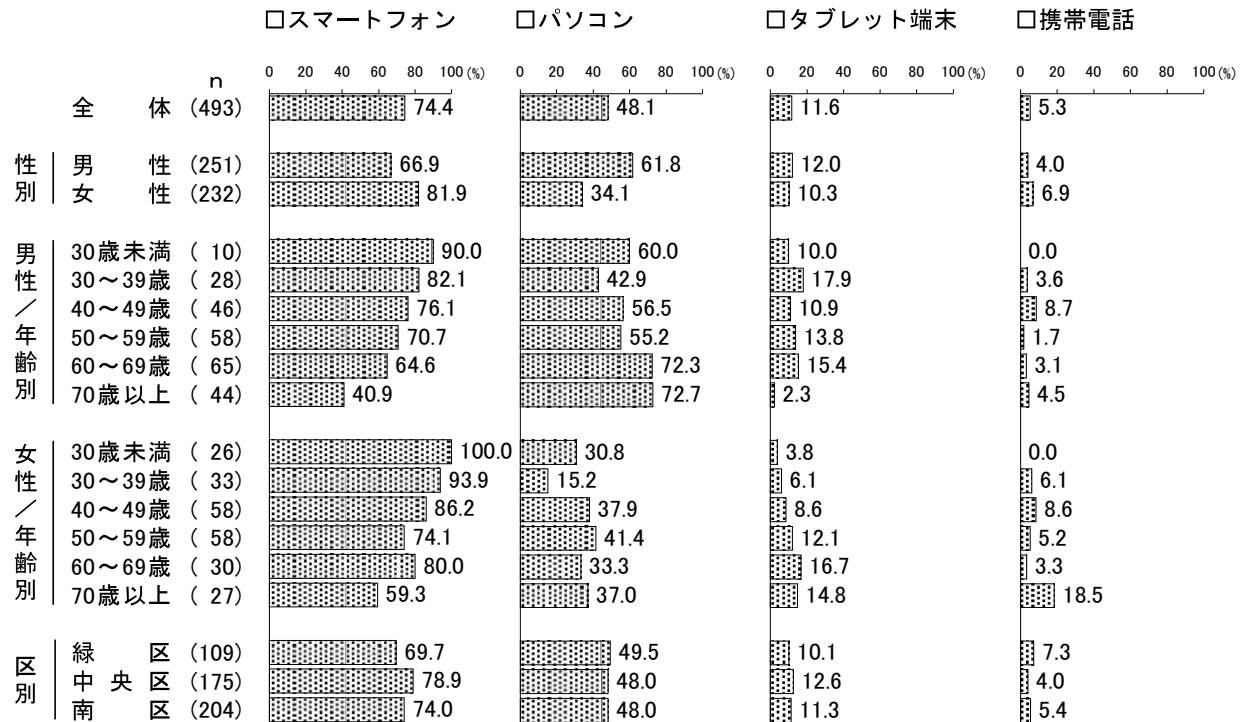


<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「パソコン」は男性が女性より27.7ポイント高くなっている。一方、「スマートフォン」は女性が男性より15.0ポイント高くなっている。

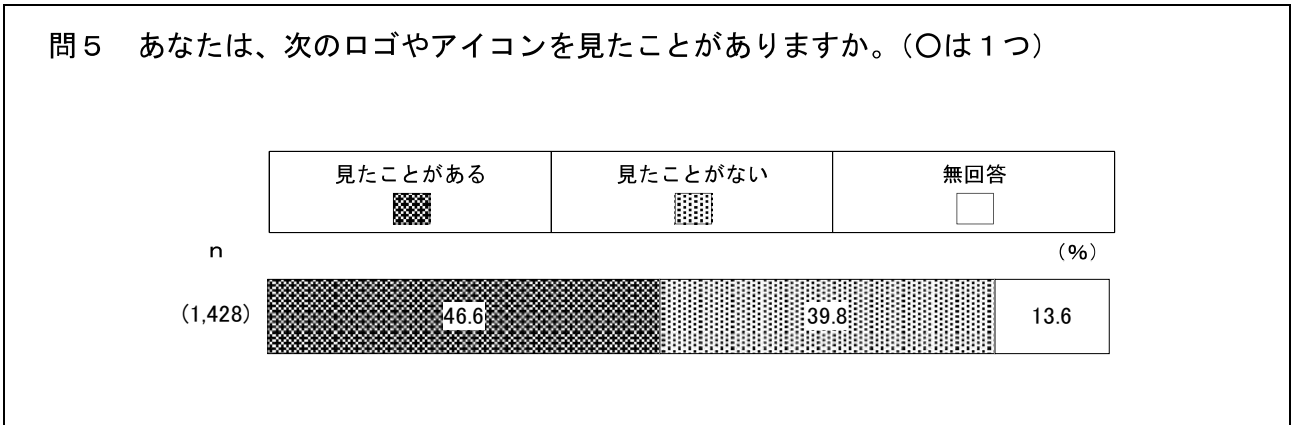
性／年齢別でみると、「スマートフォン」は女性30歳未満で10割と高くなっている。「パソコン」は男性60～69歳と男性70歳以上で7割を超えて高くなっている。

区別でみると、「スマートフォン」は中央区で8割近くと高くなっている。



エスディージーズ  
2 SDGsについて

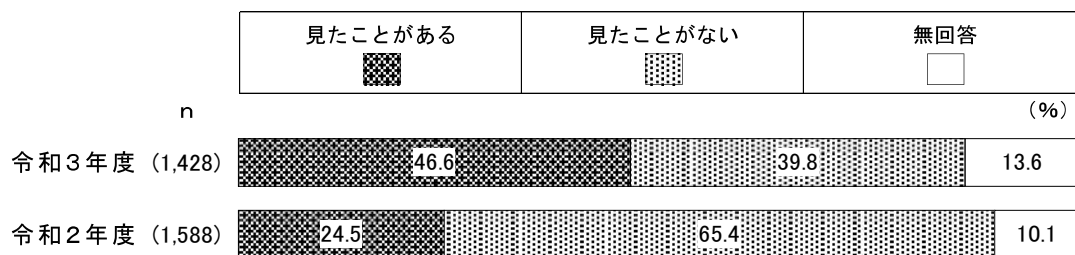
(1) SDGsのロゴやアイコンの認知状況



SDGsのロゴやアイコンを見たことがあるかたずねたところ、「見たことがある」(46.6%)が5割近く、「見たことがない」(39.8%)は4割となっている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「見たことがある」は令和2年度より22.1ポイント増加している。

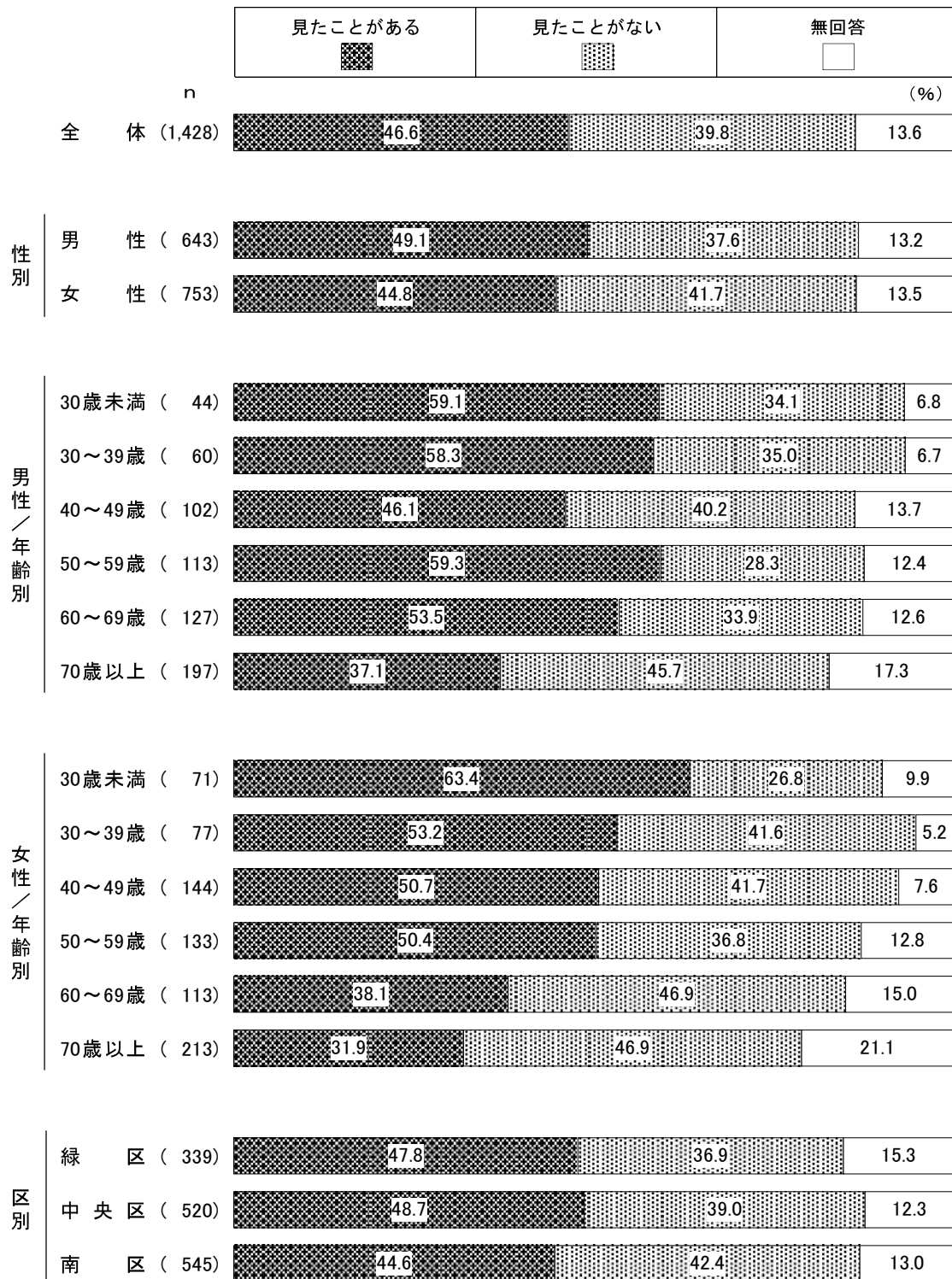


<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「見たことがある」は男性が女性より4.3ポイント高くなっている。

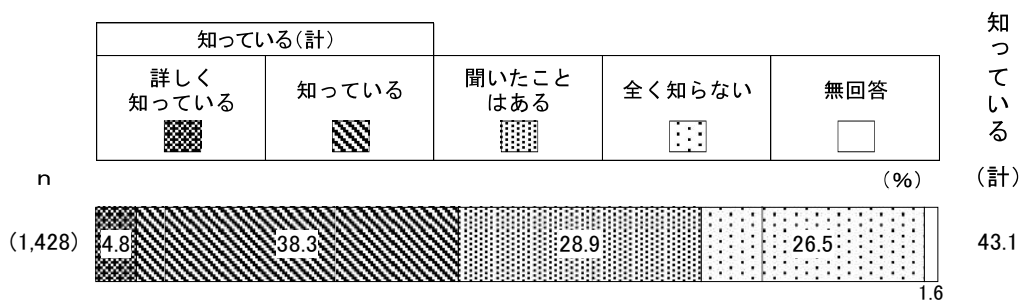
性／年齢別でみると、「見たことがある」は女性30歳未満で6割を超えて高くなっている。一方、「見たことがない」は女性60～69歳と女性70歳以上で5割近くと高くなっている。

区別でみると、「見たことがない」は南区で4割を超えて高くなっている。



(2) SDGsの認知度

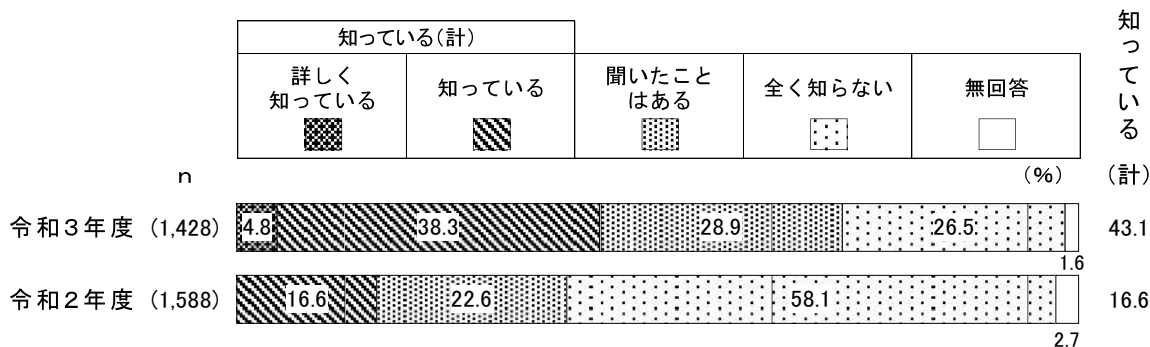
問6 あなたは、SDGsを知っていますか。(〇は1つ)



SDGsを知っているかたずねたところ、「詳しく知っている」(4.8%)と「知っている」(38.3%)の2つを合わせた《知っている(計)》(43.1%)は4割を超えている。一方、「聞いたことはある」(28.9%)と「全く知らない」(26.5%)はともに3割近くとなっている。

<経年比較>

過去の調査結果との比較は、選択肢が異なるので参考となるが、《知っている(計)》は令和2年度より26.5ポイント増加している。



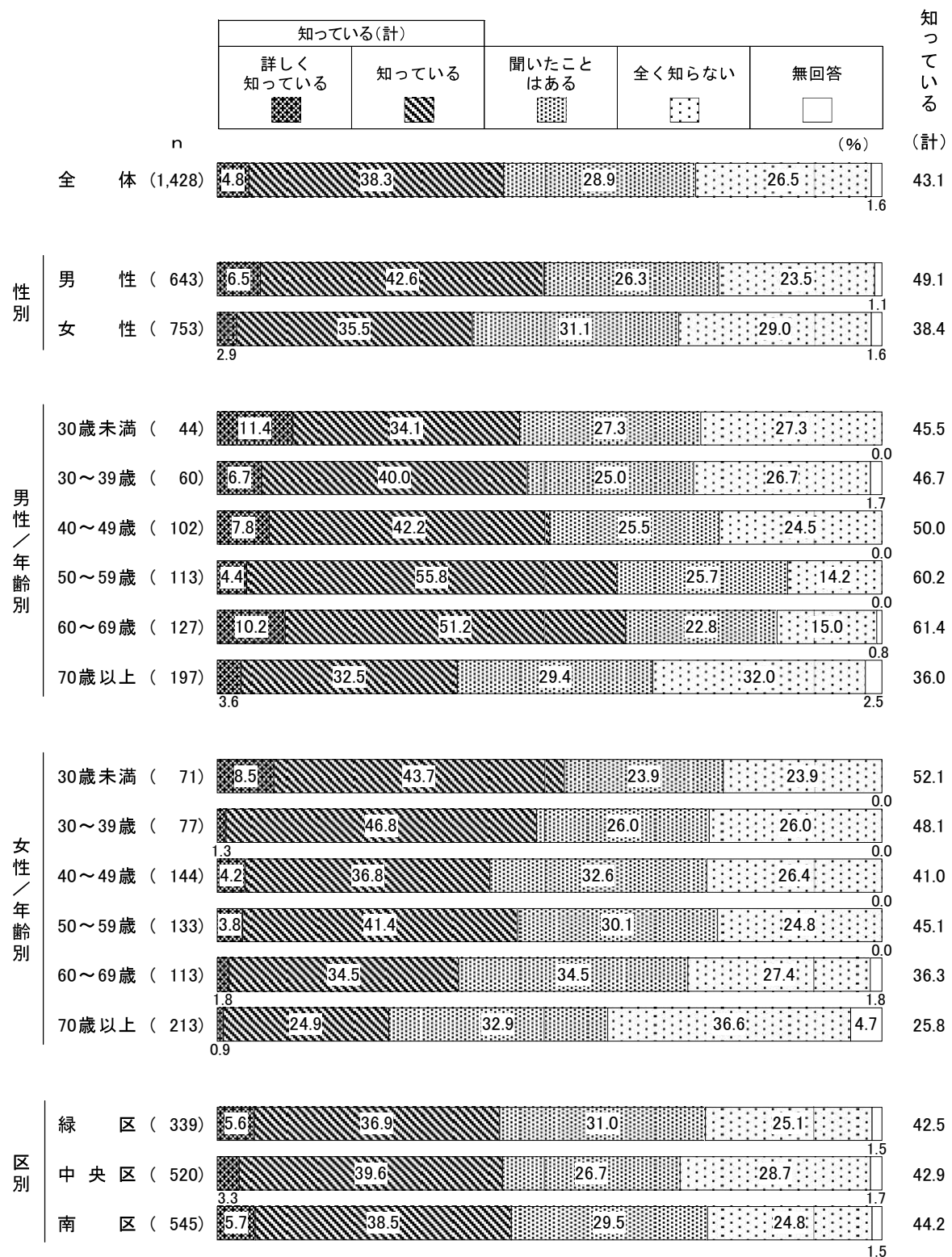
※「詳しく知っている」は、今回調査から追加された選択肢  
 ※「聞いたことはある」は、令和2年度では「聞いたことはあるが内容については知らない」となっていた

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別で見ると、「知っている（計）」は男性が女性より10.7ポイント高くなっている。一方、「全く知らない」は女性が男性より5.5ポイント高くなっている。

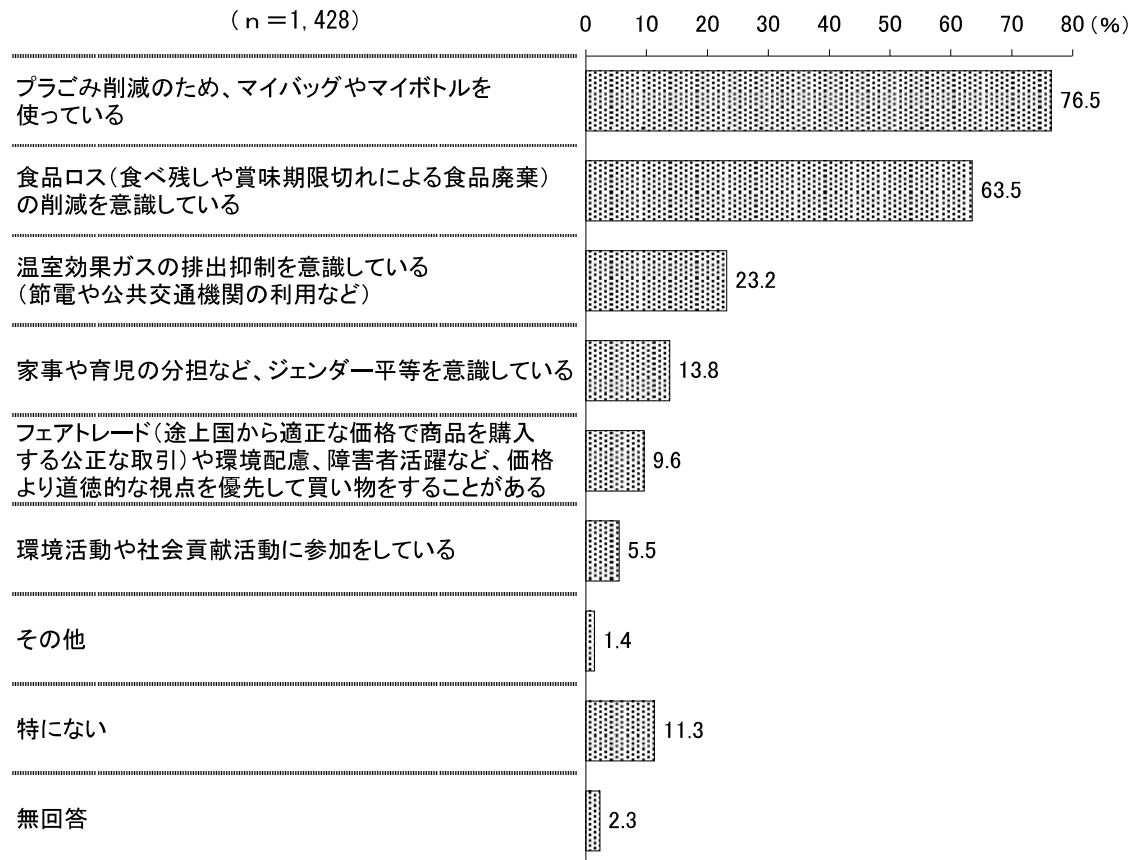
性／年齢別で見ると、「知っている（計）」は男性50～59歳と男性60～69歳で6割台と高くなっている。一方、「全く知らない」は女性70歳以上で4割近くと高くなっている。

区別で見ると、「全く知らない」は中央区で3割近くと高くなっている。



(3) SDGsの達成に向けて実践していること

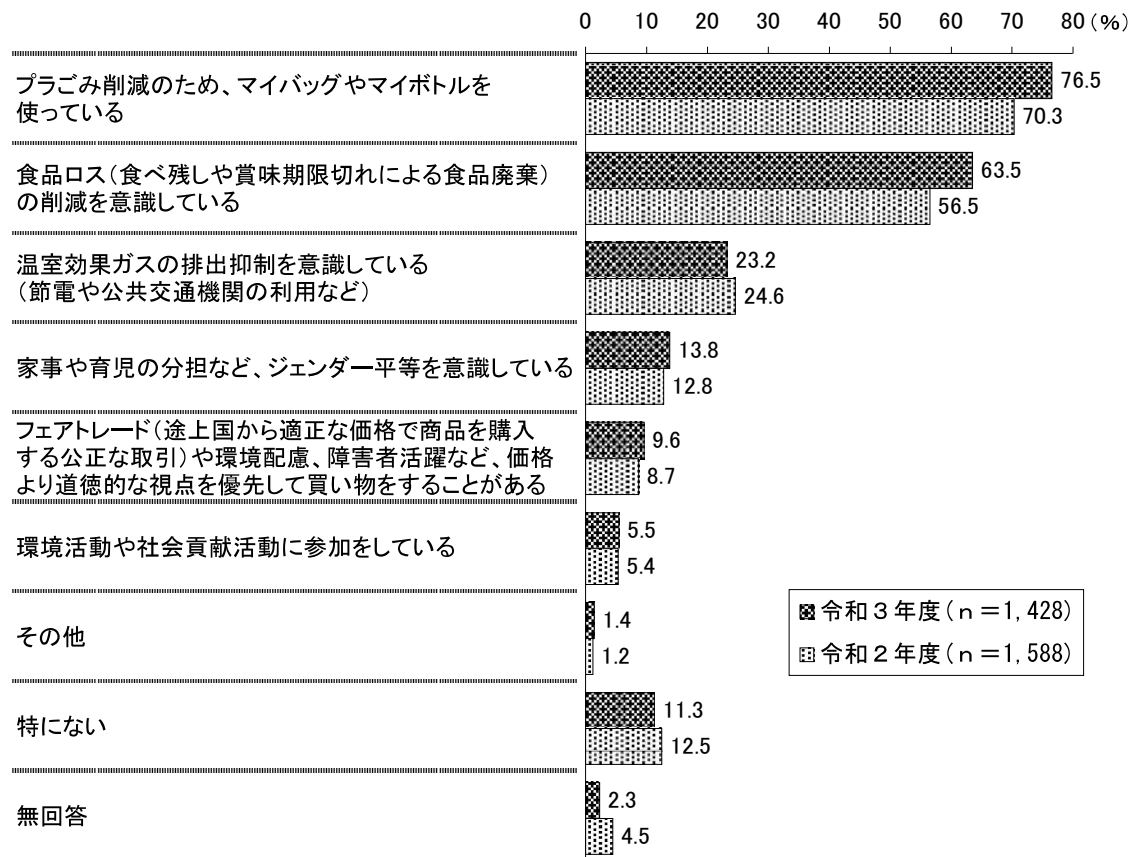
問7 SDGsの達成に向けては個人でも取り組めることがあります、あなたが実践していることはありますか。(〇はいくつでも)



SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラスチック削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(76.5%)が8割近くで最も高く、次いで、「食品ロス(食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄)の削減を意識している」(63.5%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している(節電や公共交通機関の利用など)」(23.2%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(13.8%)と続いている。

＜経年比較＞

過去の調査結果と比較すると、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」は令和2年度より7.0ポイント、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」は令和2年度より6.2ポイント、それぞれ増加している。



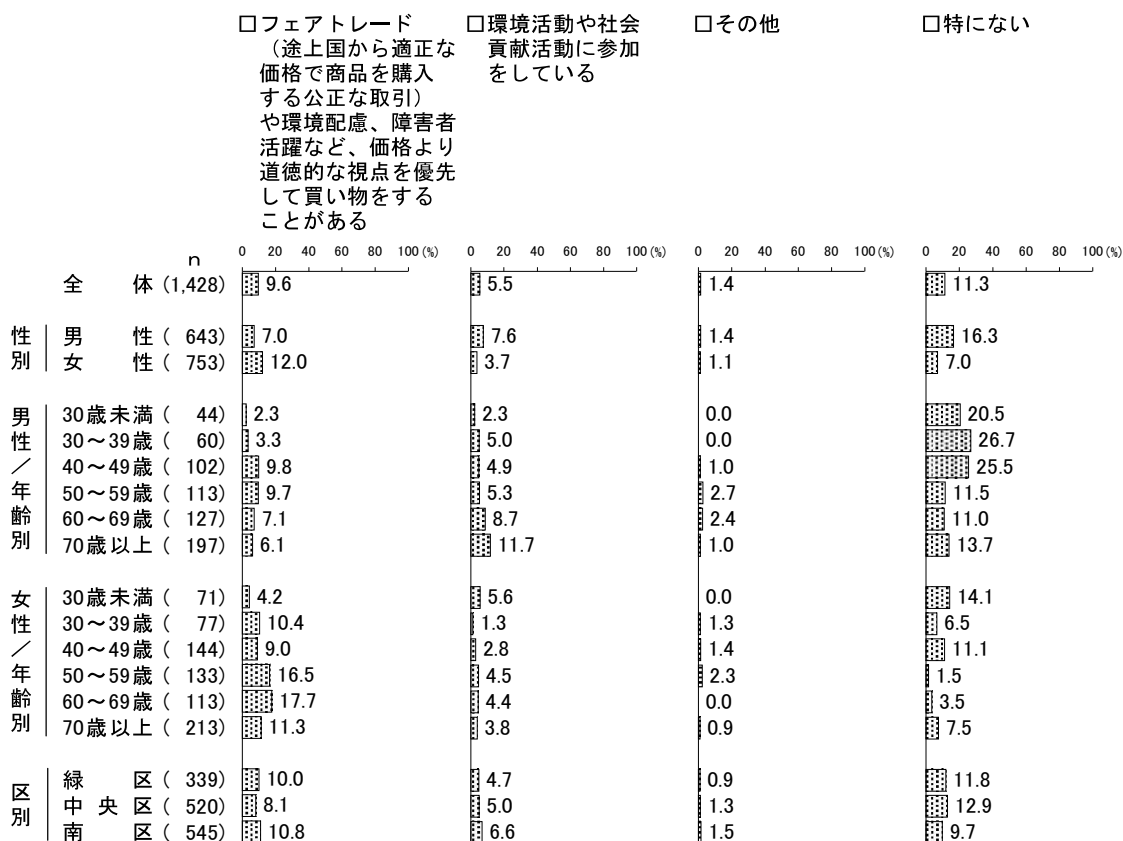
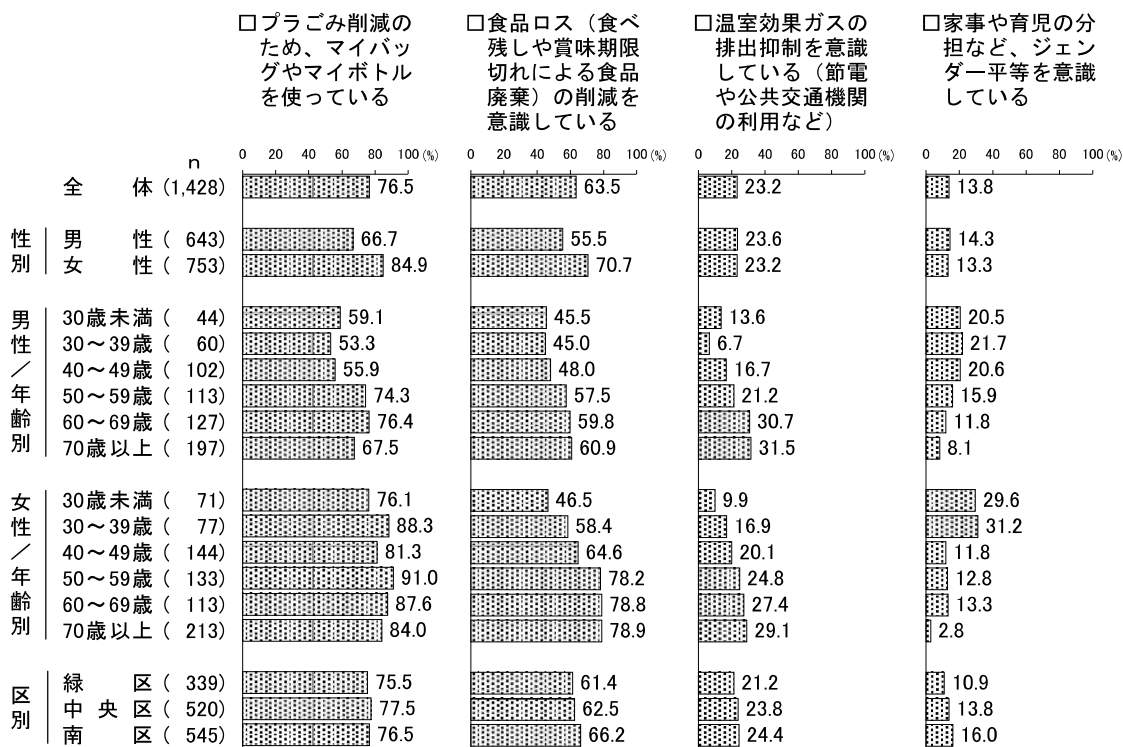
※「フェアトレード（途上国から適正な価格で商品を購入する公正な取引）や環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をすることがある」は、令和2年度では「フェアトレードや環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をすることがある」となっていた

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」で18.2ポイント、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」で15.2ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。

性／年齢別でみると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」は女性50～59歳で9割を超えて高くなっている。

区別でみると、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」は南区で6割半ばと高くなっている。



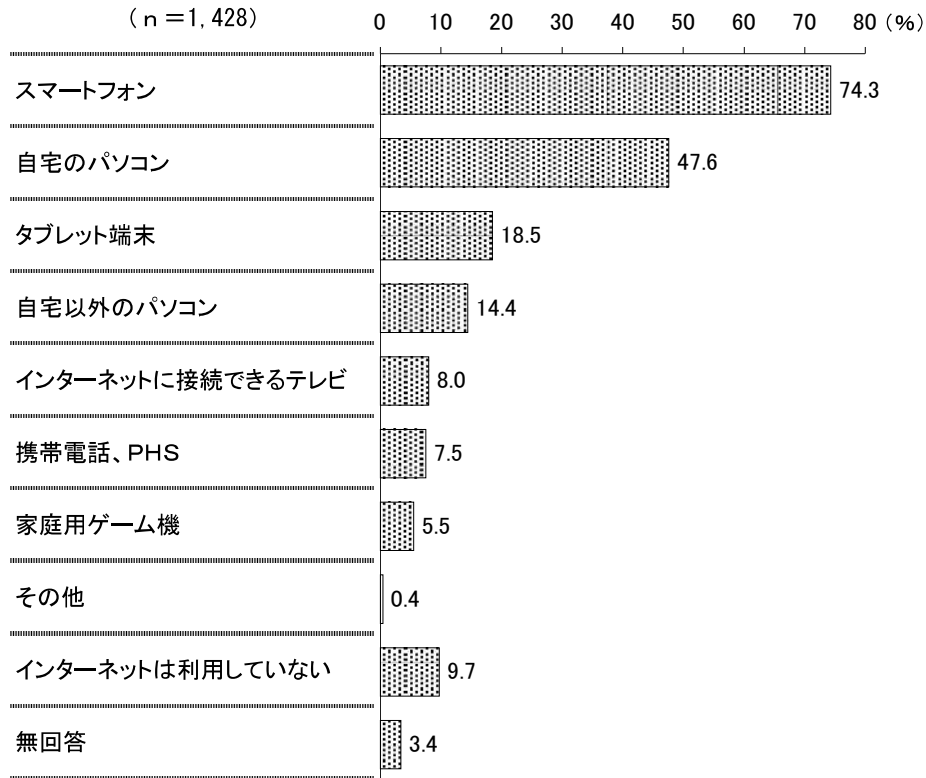


3 <sup>アイシーティ</sup> ICTに関する利用状況や要望について

(1) インターネットの利用機器

問8 あなたは、ふだんどのような機器でインターネットを利用していますか。

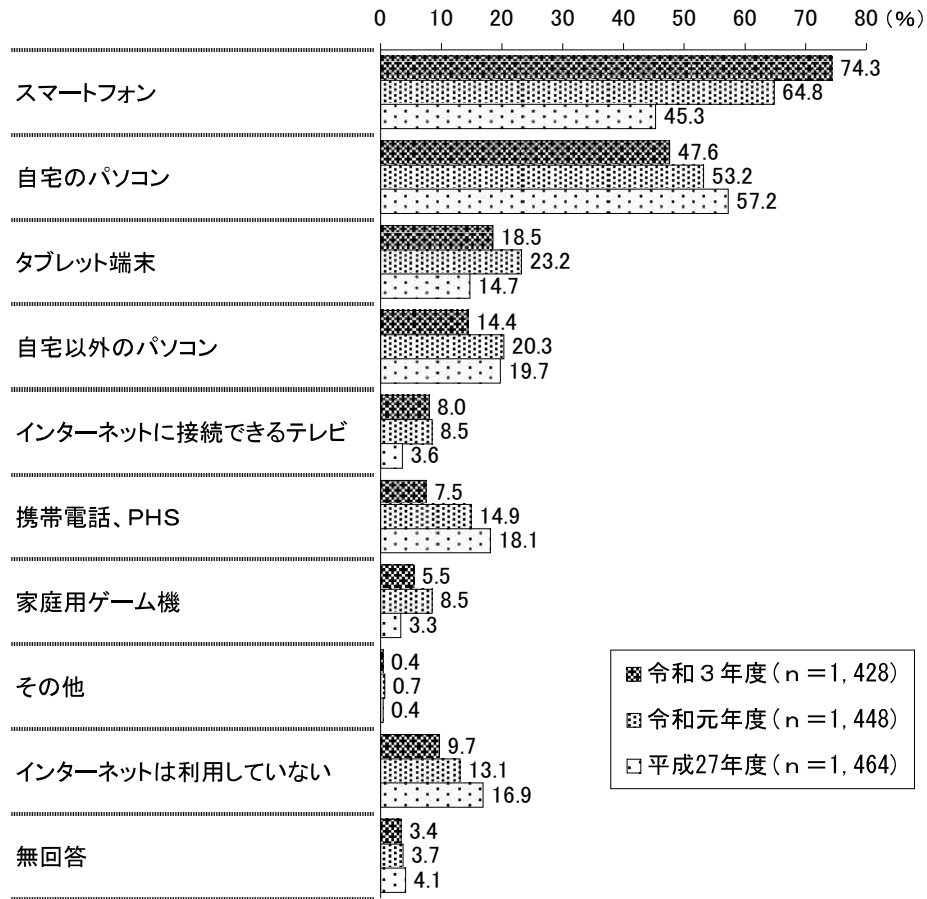
(○はいくつでも)



どのような機器でインターネットを利用しているかたずねたところ、「スマートフォン」(74.3%)が7割半ばで最も高く、次いで、「自宅のパソコン」(47.6%)、「タブレット端末」(18.5%)、「自宅以外のパソコン」(14.4%)、「インターネットに接続できるテレビ」(8.0%)と続いている。一方、「インターネットは利用していない」(9.7%)は1割となっている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「スマートフォン」は令和元年度より9.5ポイント増加している。一方、「携帯電話、PHS」は令和元年度より7.4ポイント、「自宅以外のパソコン」は令和元年度より5.9ポイント、それぞれ減少している。

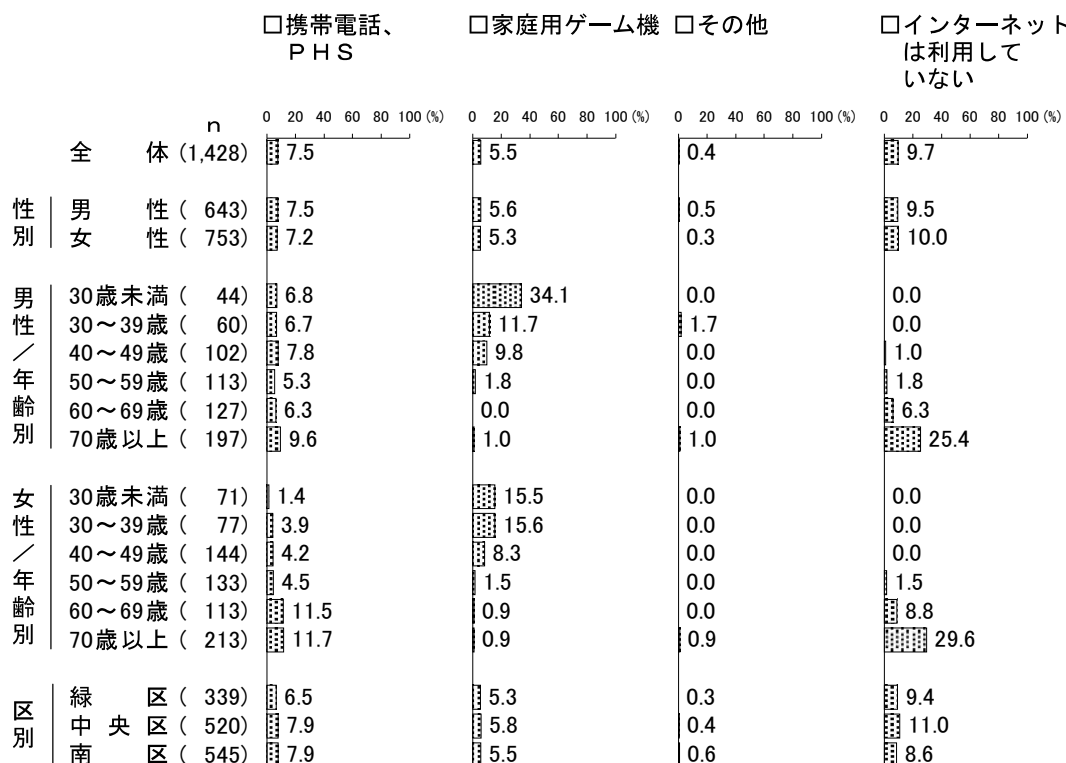
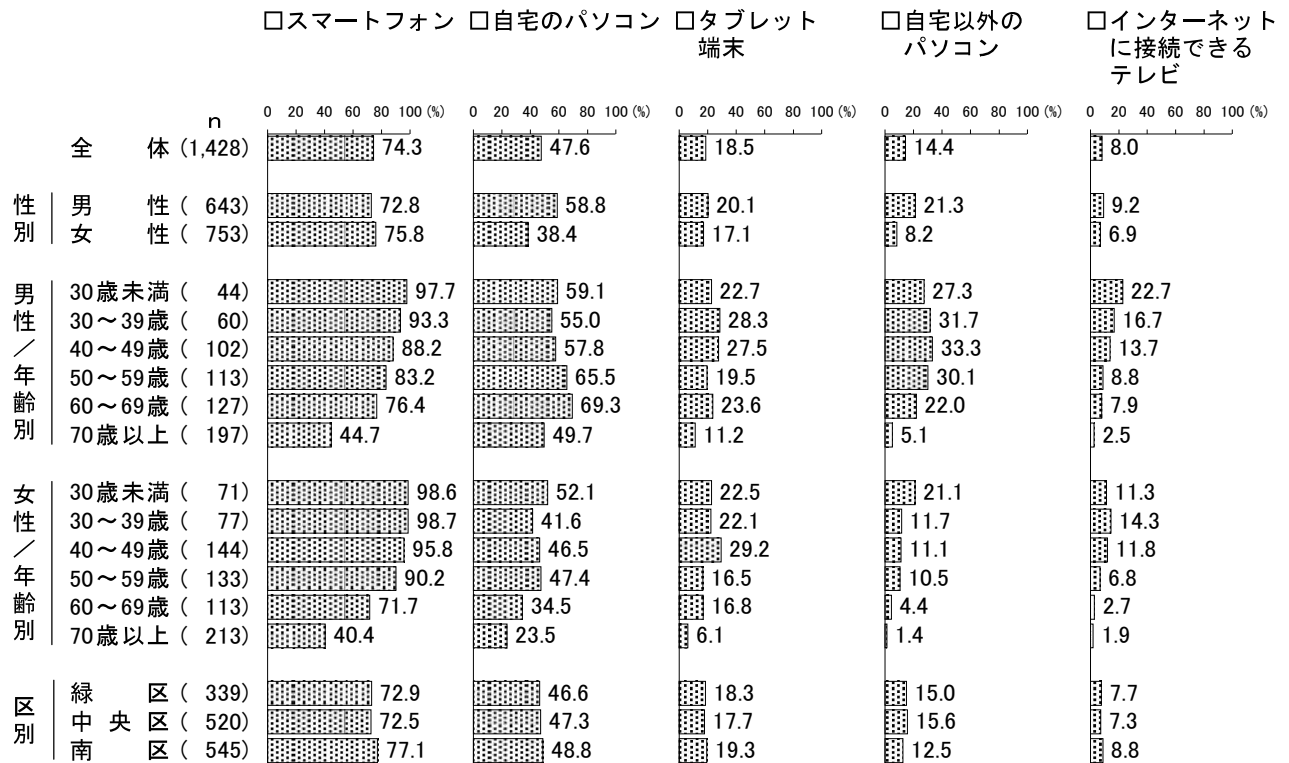


<性別・性／年齢別・区別結果>

性別で見ると、「自宅のパソコン」で20.4ポイント、「自宅以外のパソコン」で13.1ポイント、それぞれ男性が女性より高くなっている。

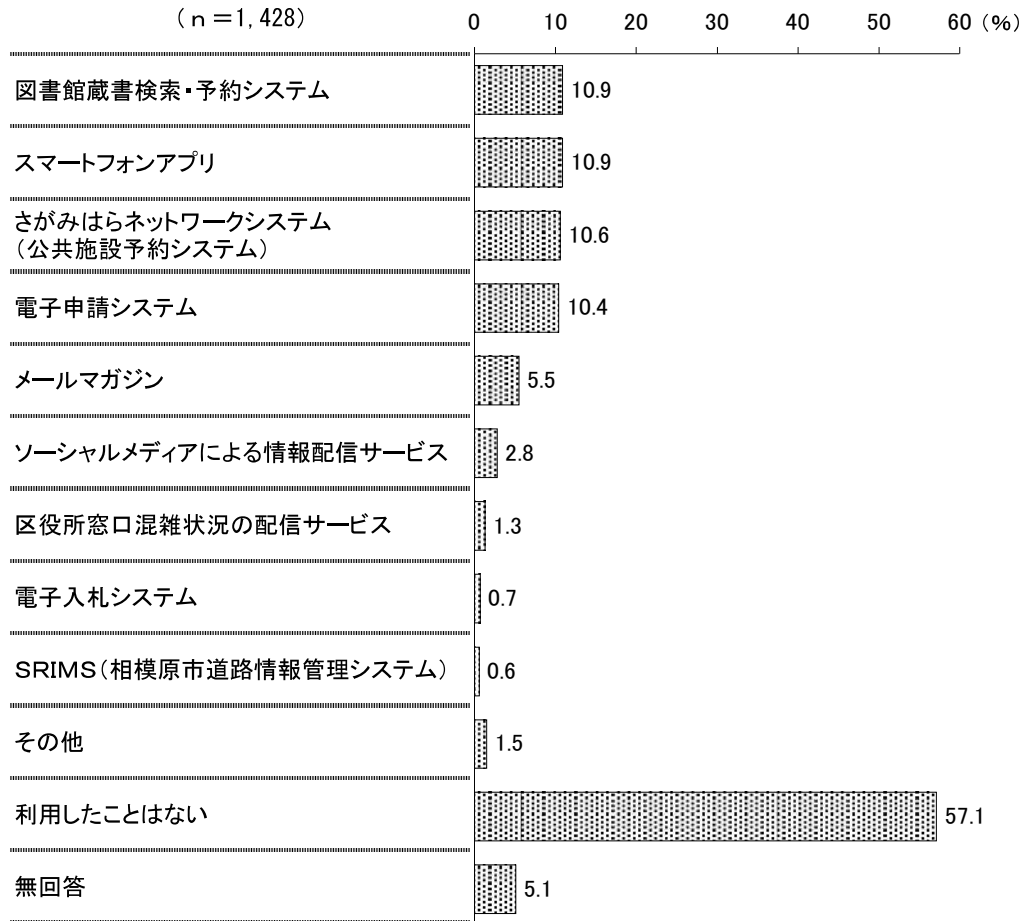
性／年齢別で見ると、「スマートフォン」は女性の59歳以下の年代と男性の39歳以下の年代で9割台と高くなっている。「自宅のパソコン」は男性60～69歳で約7割と高くなっている。

区別で見ると、「スマートフォン」は南区で8割近くと高くなっている。



(2) ICTを活用した相模原市のサービスの利用経験

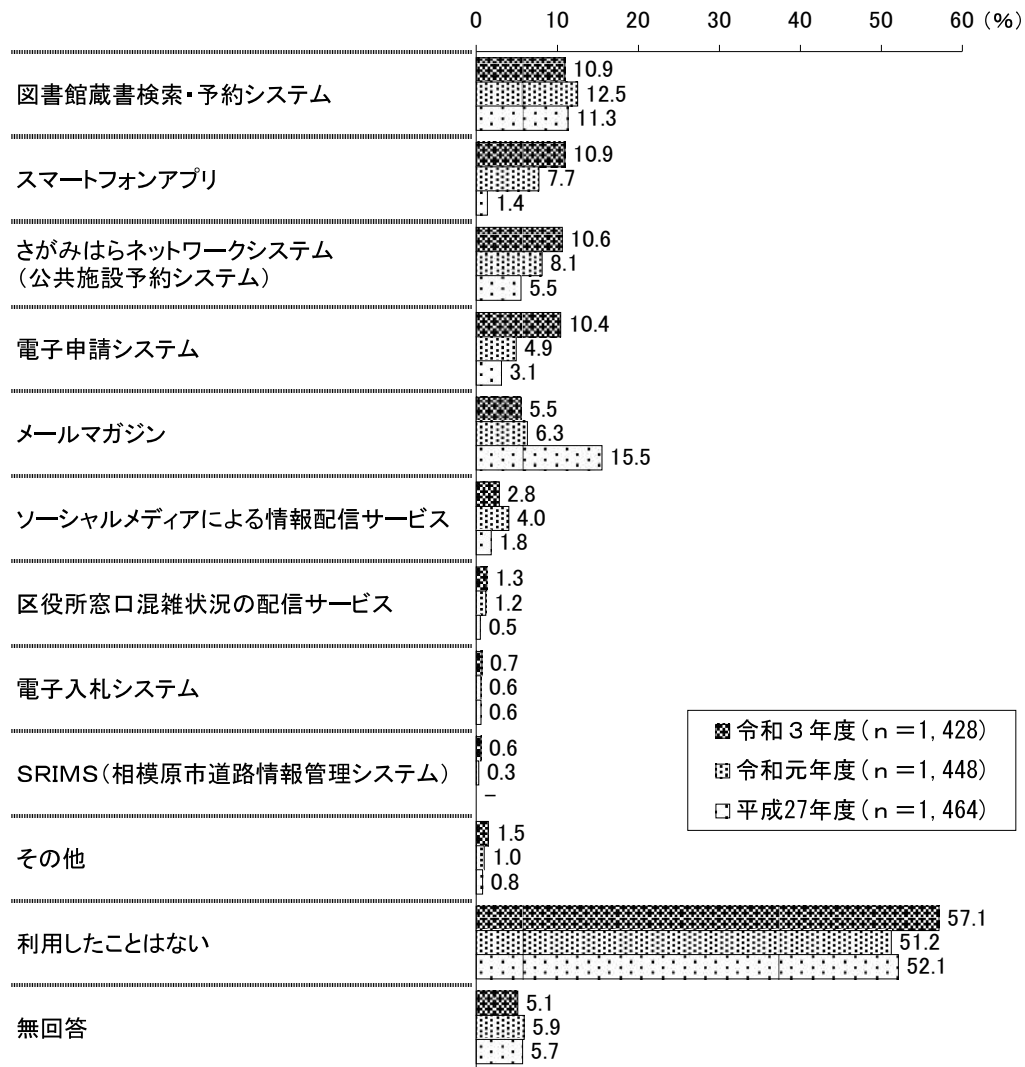
問9 あなたは、ICT（情報通信技術）を活用した相模原市のサービスを利用したことがありますか。（○はいくつでも）



ICTを活用した相模原市のサービスを利用したことがあるかたずねたところ、「図書館蔵書検索・予約システム」と「スマートフォンアプリ」（ともに10.9%）、「さがみはらネットワークシステム（公共施設予約システム）」（10.6%）、「電子申請システム」（10.4%）がいずれも約1割となっている。一方、「利用したことはない」（57.1%）は6割近くとなっている。

＜経年比較＞

過去の調査結果と比較すると、「電子申請システム」は令和元年度より5.5ポイント、「スマートフォンアプリ」は令和元年度より3.2ポイント、それぞれ増加している。



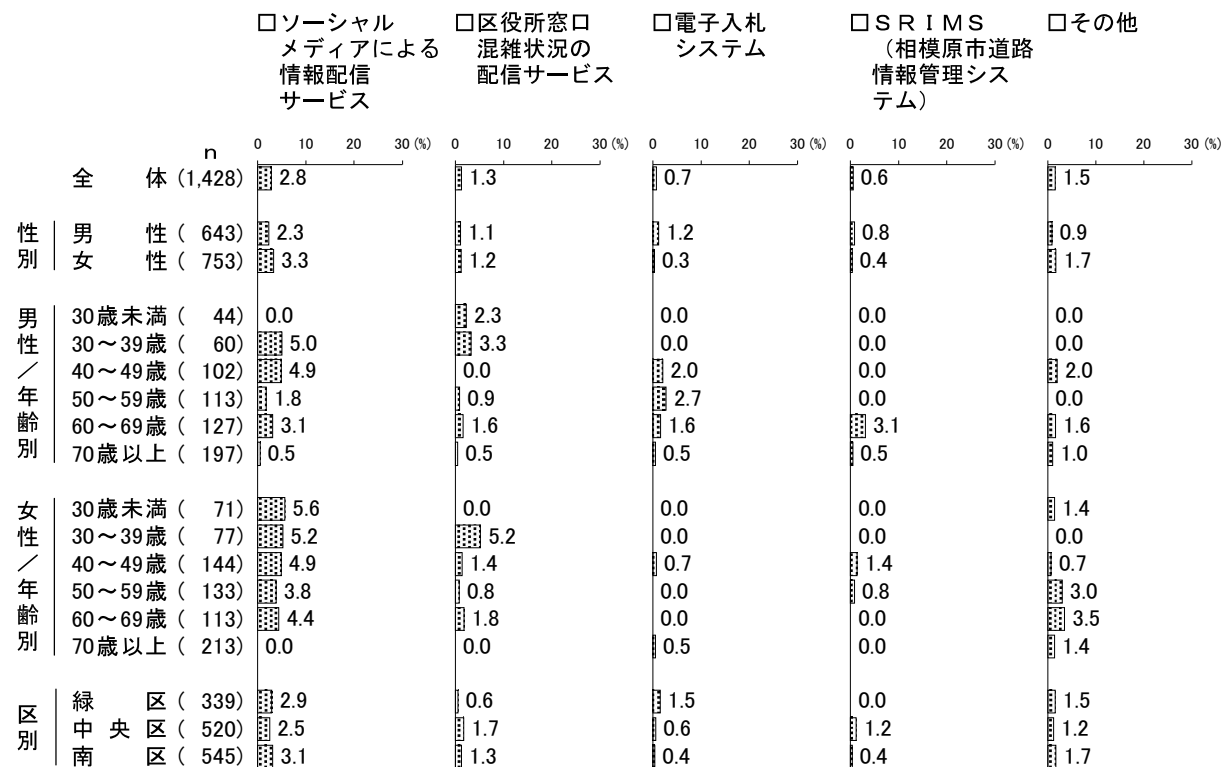
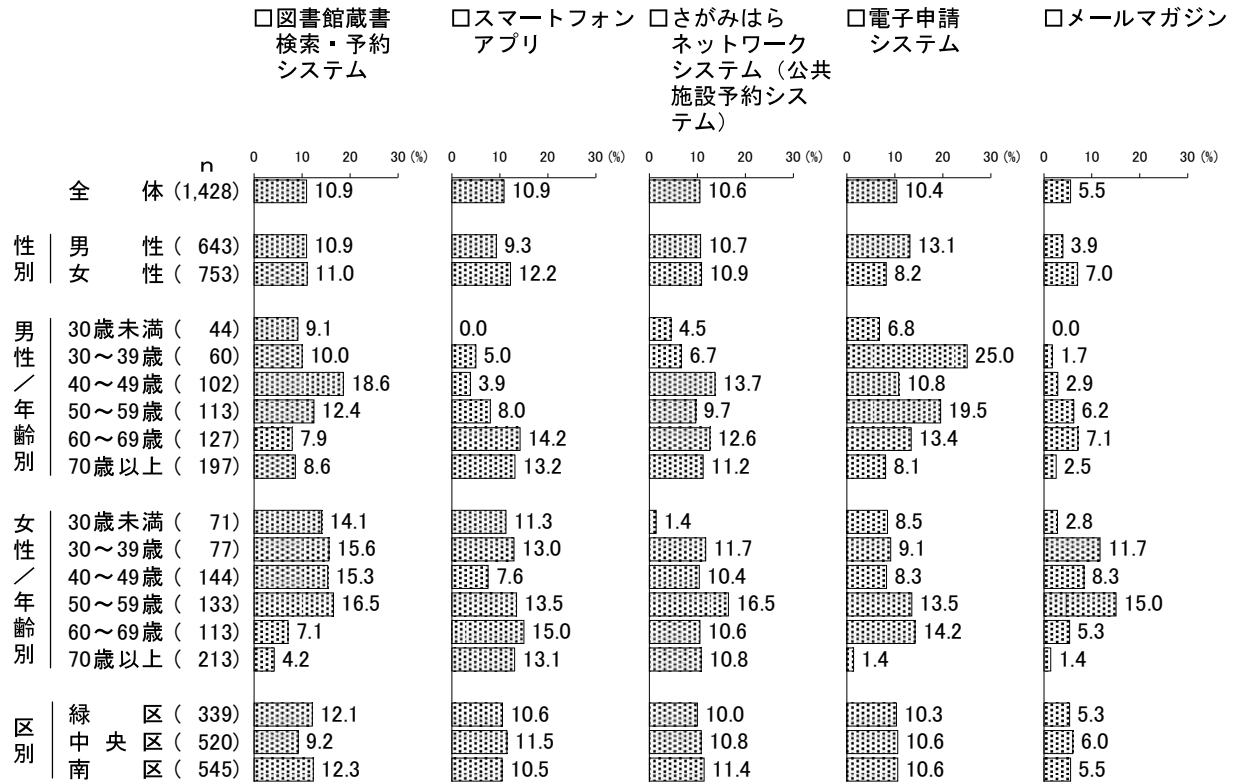
※「ソーシャルメディアによる情報配信サービス」は、平成27年度では「Twitter(ツイッター)・Facebook(フェイスブック)などSNSによる情報配信サービス」となっていた  
 ※「SRIMS(相模原市道路情報管理システム)」は、令和元年度から追加された選択肢

＜性別・性／年齢別・区別結果＞（上位10項目）

性別で見ると、「電子申請システム」は男性が女性より4.9ポイント高くなっている。一方、「メールマガジン」は女性が男性より3.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「電子申請システム」は男性30～39歳で2割半ばと高くなっている。

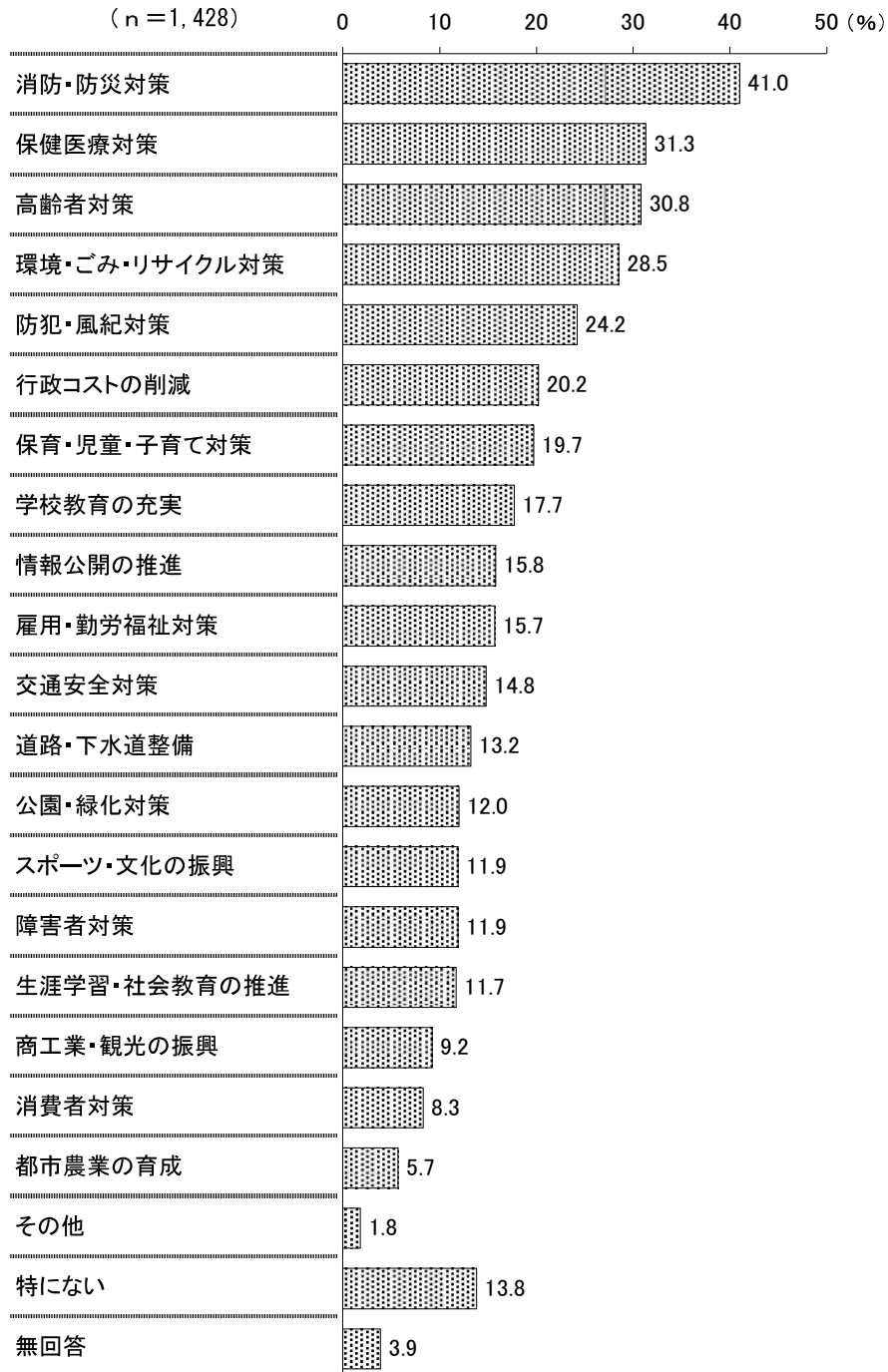
区別で見ると、「図書館蔵書検索・予約システム」は南区と緑区で1割を超えている。



(3) ICTを活用してほしい施策

問10 あなたは、今後、相模原市のどの施策にICTを活用してほしいですか。

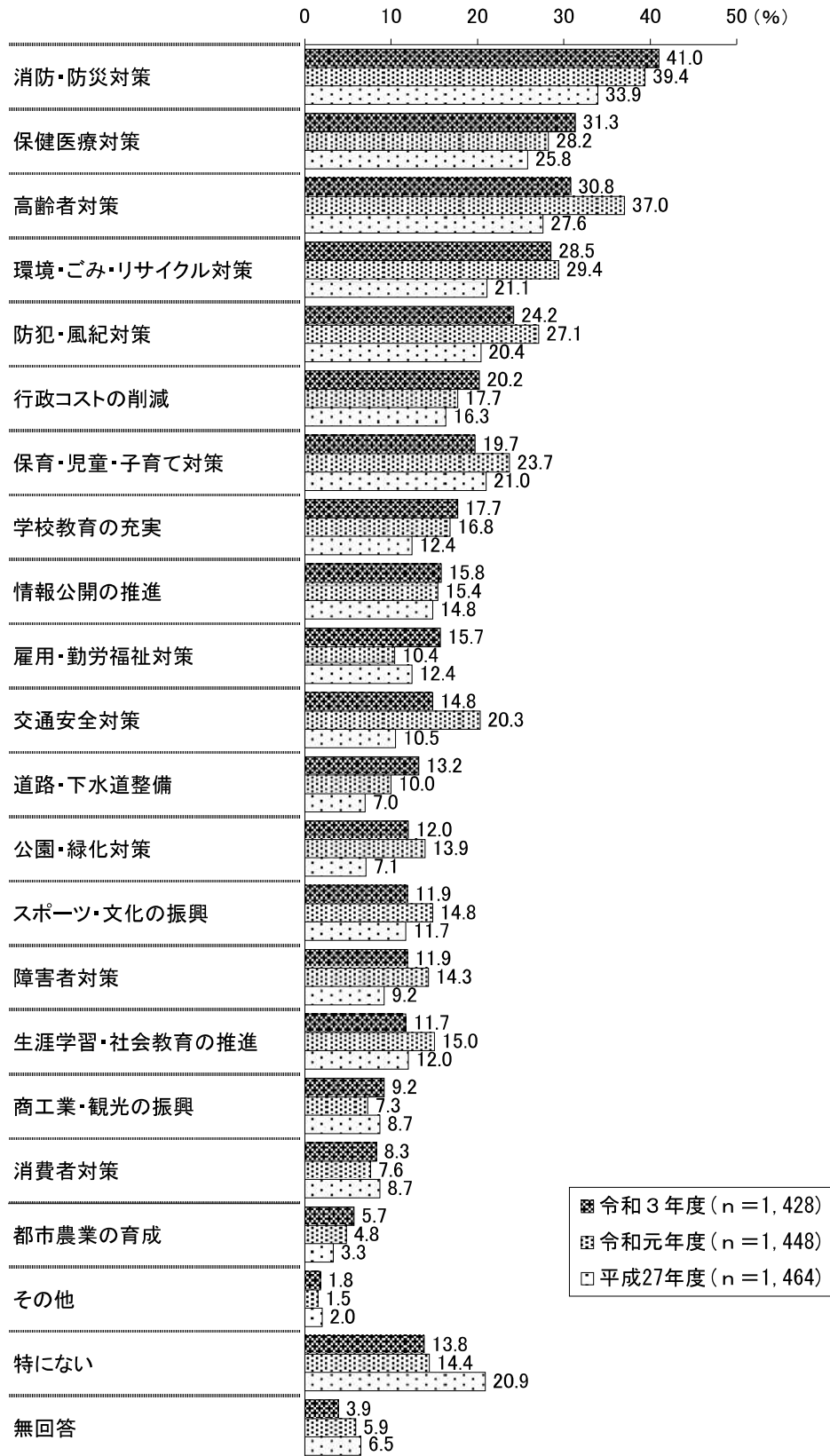
(○はいくつでも)



相模原市のどの施策にICTを活用してほしいかたずねたところ、「消防・防災対策」(41.0%)が4割を超えて最も高く、次いで、「保健医療対策」(31.3%)、「高齢者対策」(30.8%)、「環境・ごみ・リサイクル対策」(28.5%)、「防犯・風紀対策」(24.2%)と続いている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「雇用・勤労福祉対策」は令和元年度より5.3ポイント増加している。一方、「高齢者対策」は令和元年度より6.2ポイント、「交通安全対策」は令和元年度より5.5ポイント、それぞれ減少している。



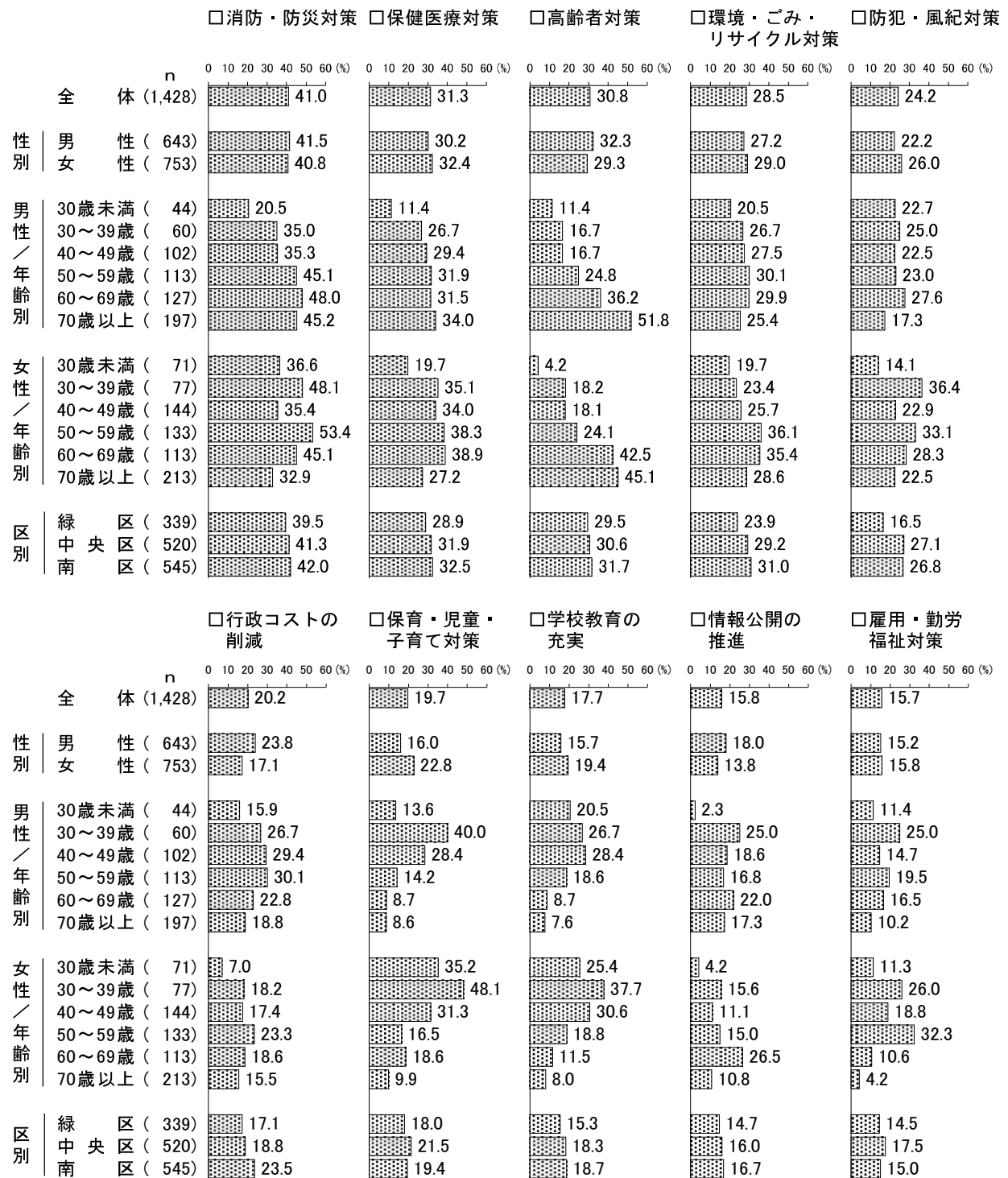


＜性別・性／年齢別・区別結果＞（上位10項目）

性別で見ると、「保育・児童・子育て対策」は女性が男性より6.8ポイント高くなっている。一方、「行政コストの削減」は男性が女性より6.7ポイント高くなっている。

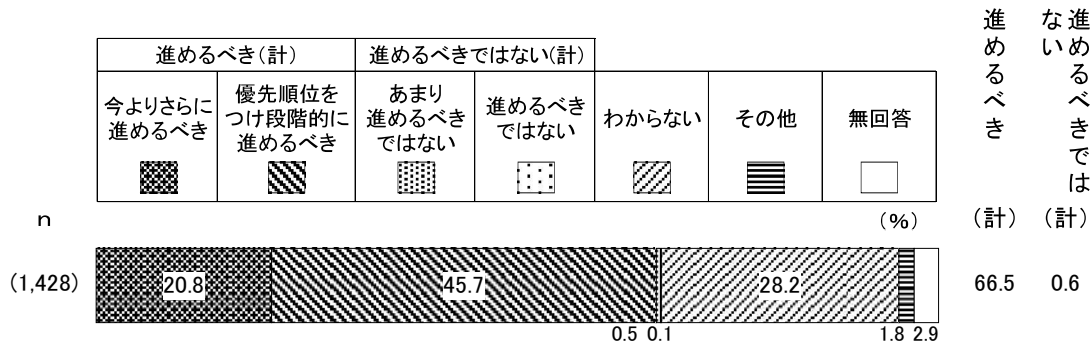
性／年齢別で見ると、「消防・防災対策」は女性50～59歳で5割を超えて高くなっている。「高齢者対策」は男性70歳以上で5割を超えて高くなっている。

区別で見ると、「環境・ごみ・リサイクル対策」は南区で3割を超えて高くなっている。「防犯・風紀対策」は中央区と南区で3割近くと高くなっている。



(4) ICTを活用した施策をどのようにすべきか

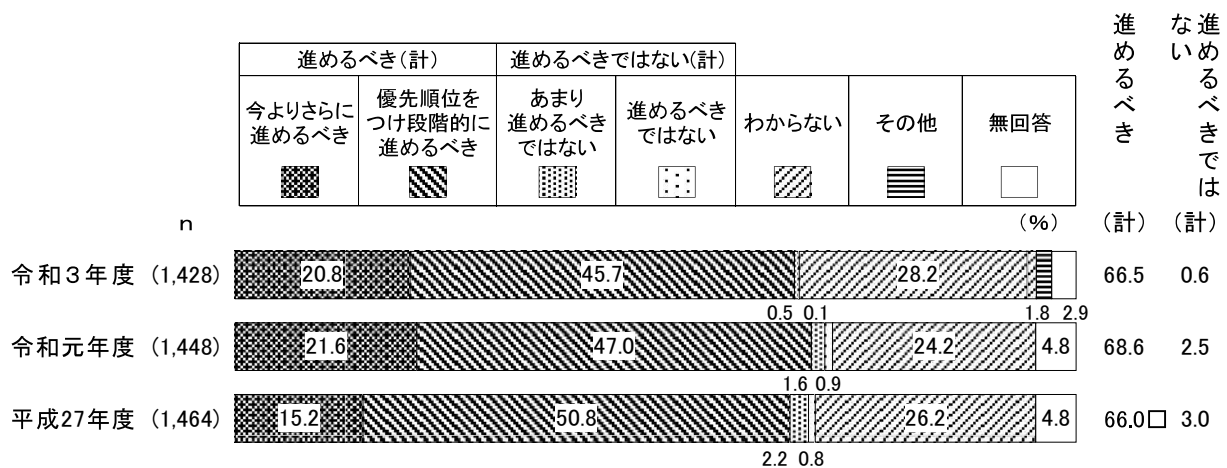
問11 あなたは、今後、相模原市がICTを活用した施策をどのようにすべきと考えますか。  
(○は1つ)



相模原市がICTを活用した施策をどのようにすべきかたずねたところ、「今よりさらに進めるべき」(20.8%)と「優先順位をつけ段階的に進めるべき」(45.7%)の2つを合わせた「進めるべき(計)」(66.5%)は7割近くとなっている。一方、「あまり進めるべきではない」(0.5%)と「進めるべきではない」(0.1%)の2つを合わせた「進めるべきではない(計)」(0.6%)はわずかとなっている。

<経年比較>

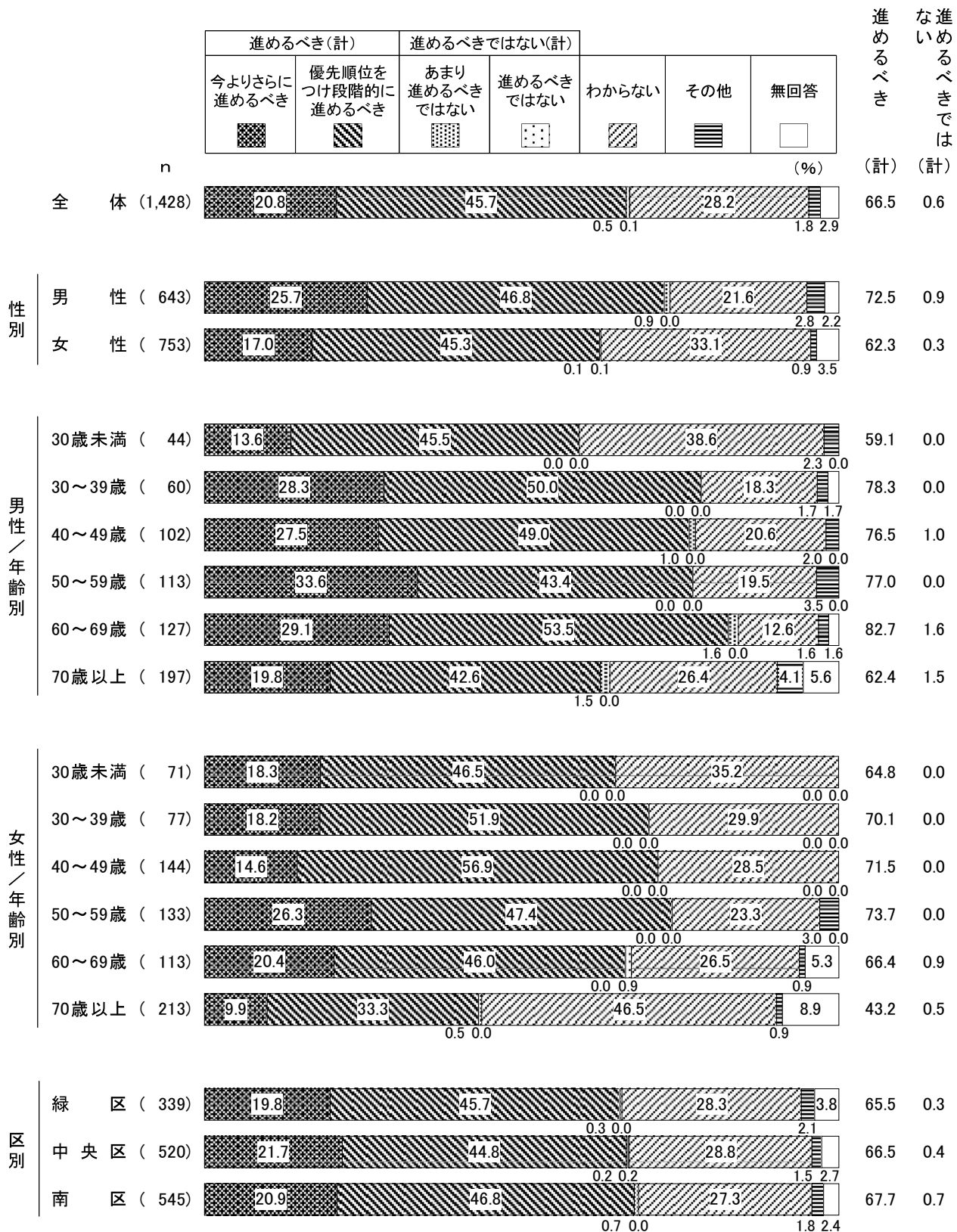
過去の調査結果と比較すると、令和元年度と大きな違いはみられない。



※「その他」は、今回調査から追加された選択肢

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、《進めるべき（計）》は男性が女性より10.2ポイント高くなっている。  
 性／年齢別でみると、《進めるべき（計）》は男性60～69歳で8割を超えて高くなっている。  
 区別でみると、大きな違いはみられない。



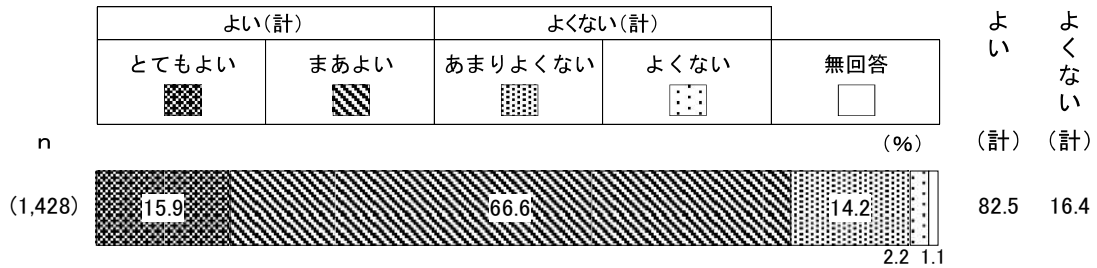
## 4 健康づくりについて

### (1) 健康状態

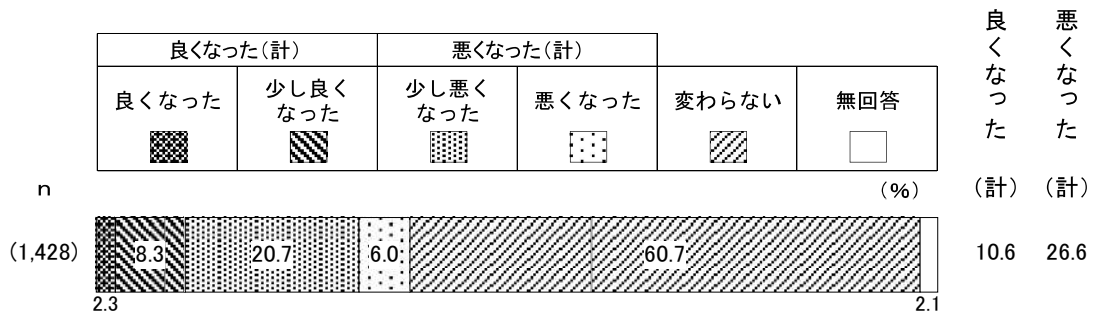
問12 現在のあなたの健康状態はいかがですか。また、新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較してどのように変化しましたか。次の中から最も近いものを選んでください。

(○は1つ)

#### (1) 現在の健康状態



#### (2) 新型コロナウイルス感染症の拡大前との比較



現在の健康状態をたずねたところ、「とてもよい」(15.9%)と「まあよい」(66.6%)の2つを合わせた《よい(計)》(82.5%)は8割を超えている。一方、「あまりよくない」(14.2%)と「よくない」(2.2%)の2つを合わせた《よくない(計)》(16.4%)は1割半ばとなっている。

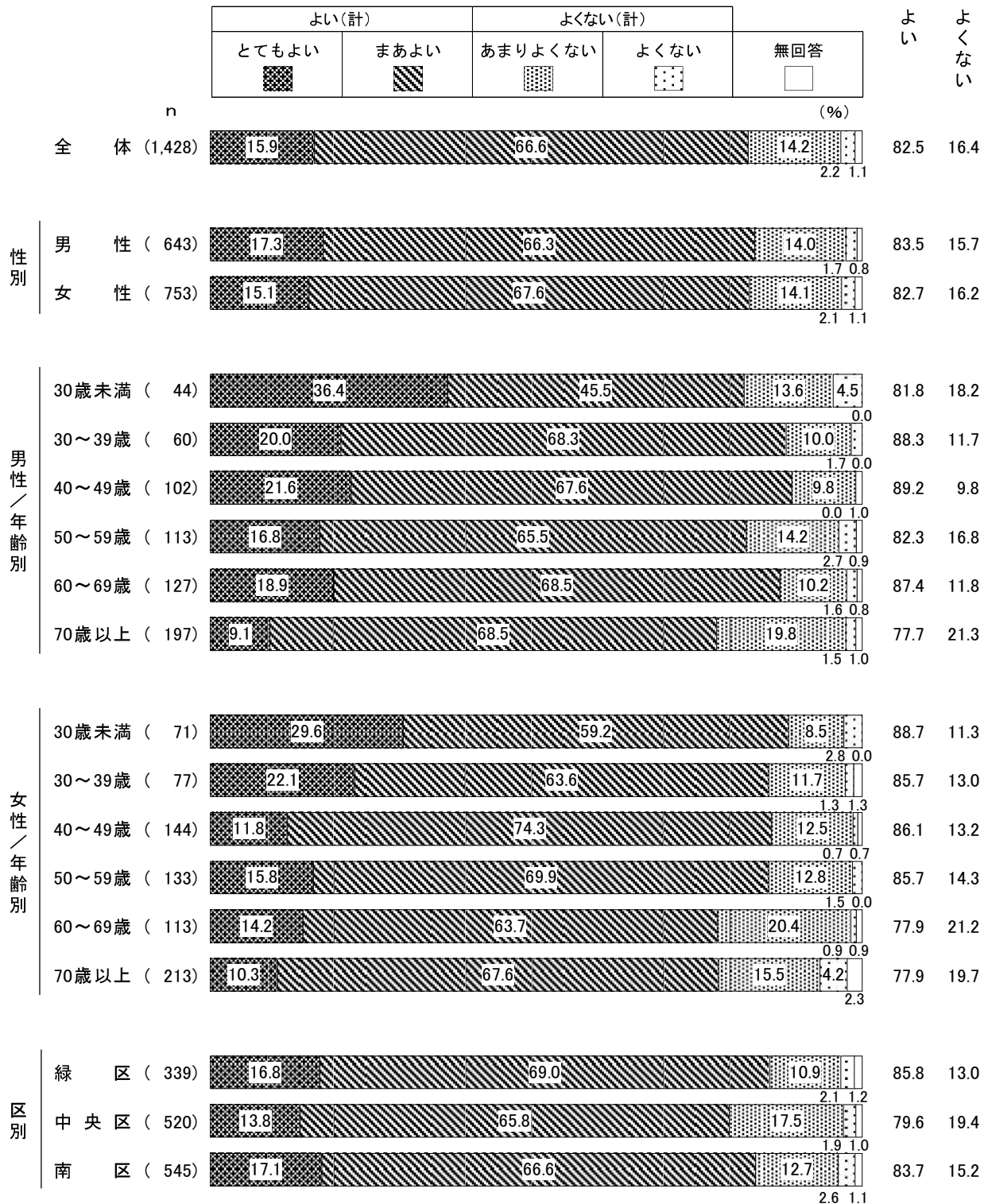
新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較してどのように変化したかたずねたところ、「良くなった」(2.3%)と「少し良くなった」(8.3%)の2つを合わせた《良くなった(計)》(10.6%)は約1割となっている。一方、「少し悪くなった」(20.7%)と「悪くなった」(6.0%)の2つを合わせた《悪くなった(計)》(26.6%)は3割近くとなっている。また、「変わらない」(60.7%)は約6割となっている。

<性別・性／年齢別・区別結果> (1) 現在の健康状態

性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年齢別でみると、《よい(計)》は男性の69歳以下の年代と女性の59歳以下の年代で8割台と高くなっている。一方、《よくない(計)》は男性70歳以上と女性60～69歳で2割を超えて高くなっている。

区別でみると、《よい(計)》は緑区で8割半ばとなっている。

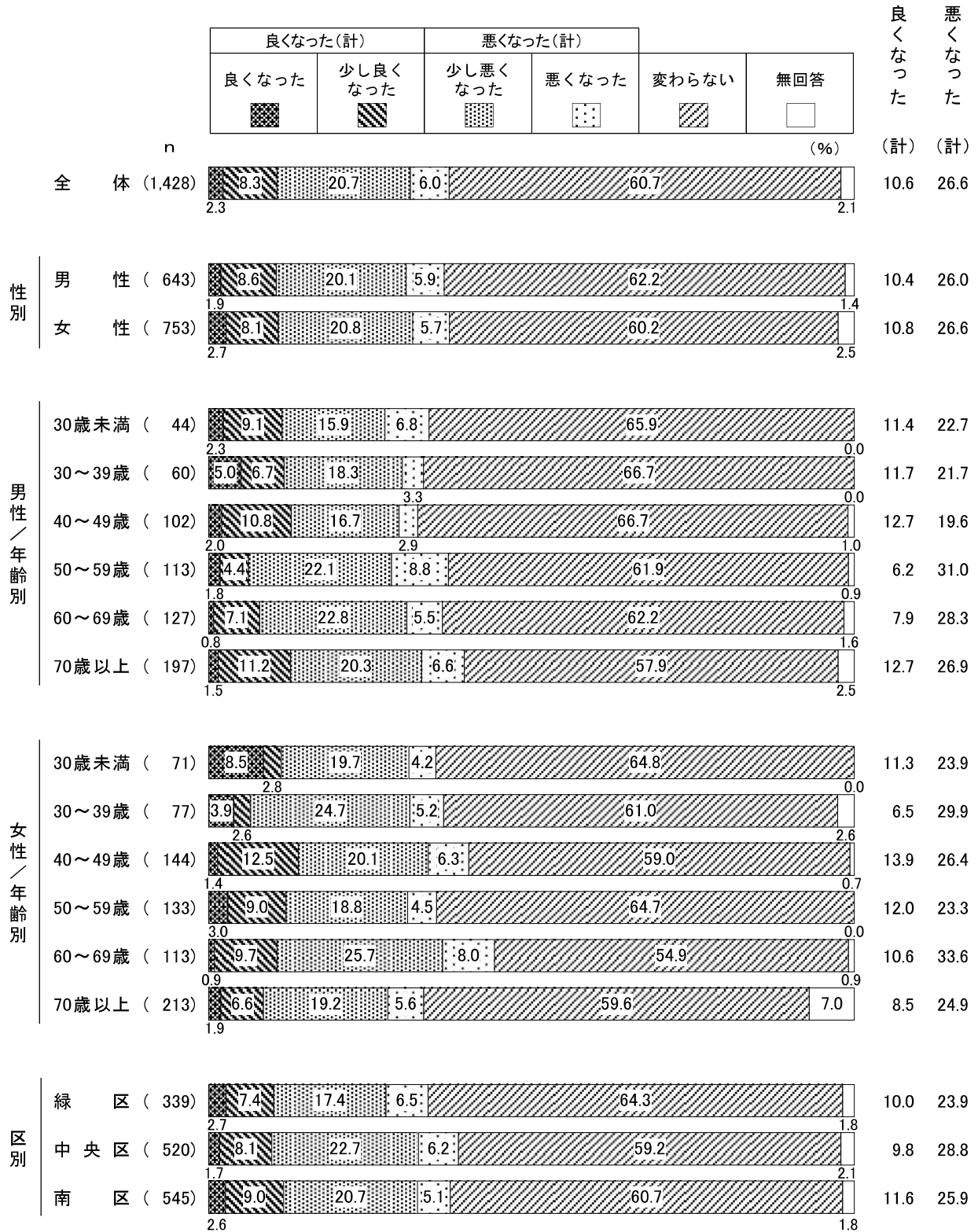


<性別・性／年齢別・区別結果> (2) 新型コロナウイルス感染症の拡大前との比較

性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年齢別でみると、《悪くなった(計)》は女性60～69歳と男性50～59歳で3割を超えて高くなっている。

区別でみると、《悪くなった(計)》は中央区で3割近くとなっている。

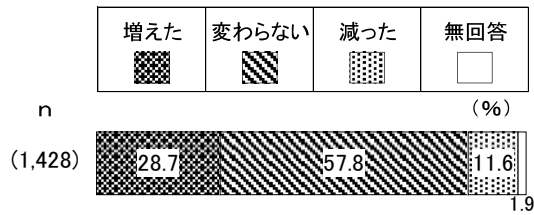


(2) 健康状態や健康づくりの取組の変化

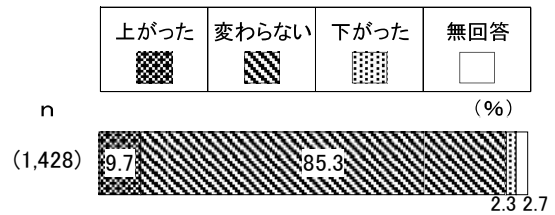
問13 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出の自粛等に伴い、あなたの健康状態や健康づくりの取組にはどのような変化がありましたか。

次の(1)から(13)までの項目それぞれについて、1から3までの中から選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

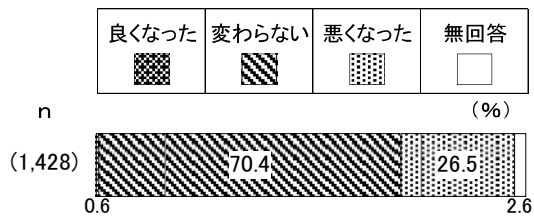
(1) 体重



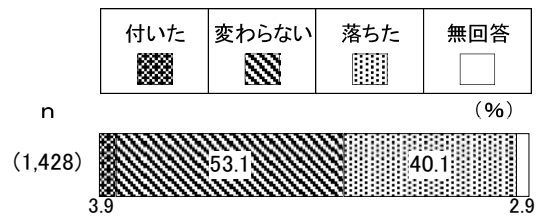
(2) 血圧



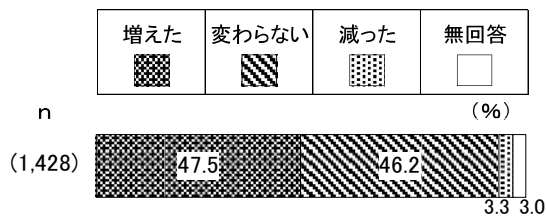
(3) 視力



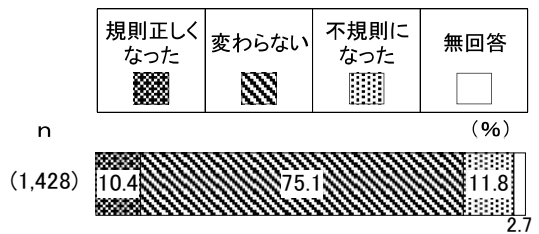
(4) 筋力



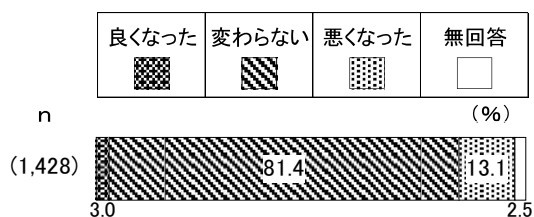
(5) 精神的疲労



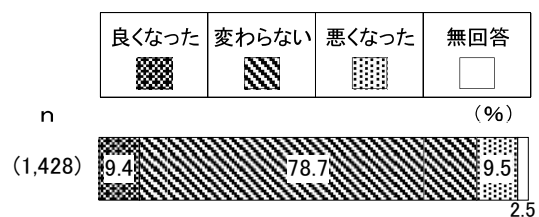
(6) 生活習慣



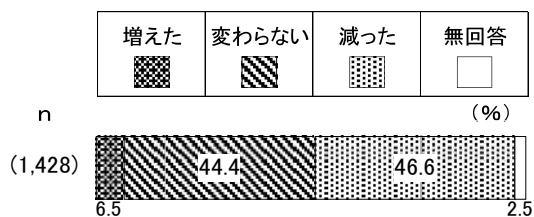
(7) 歯や口腔の状況



(8) 食事のバランス

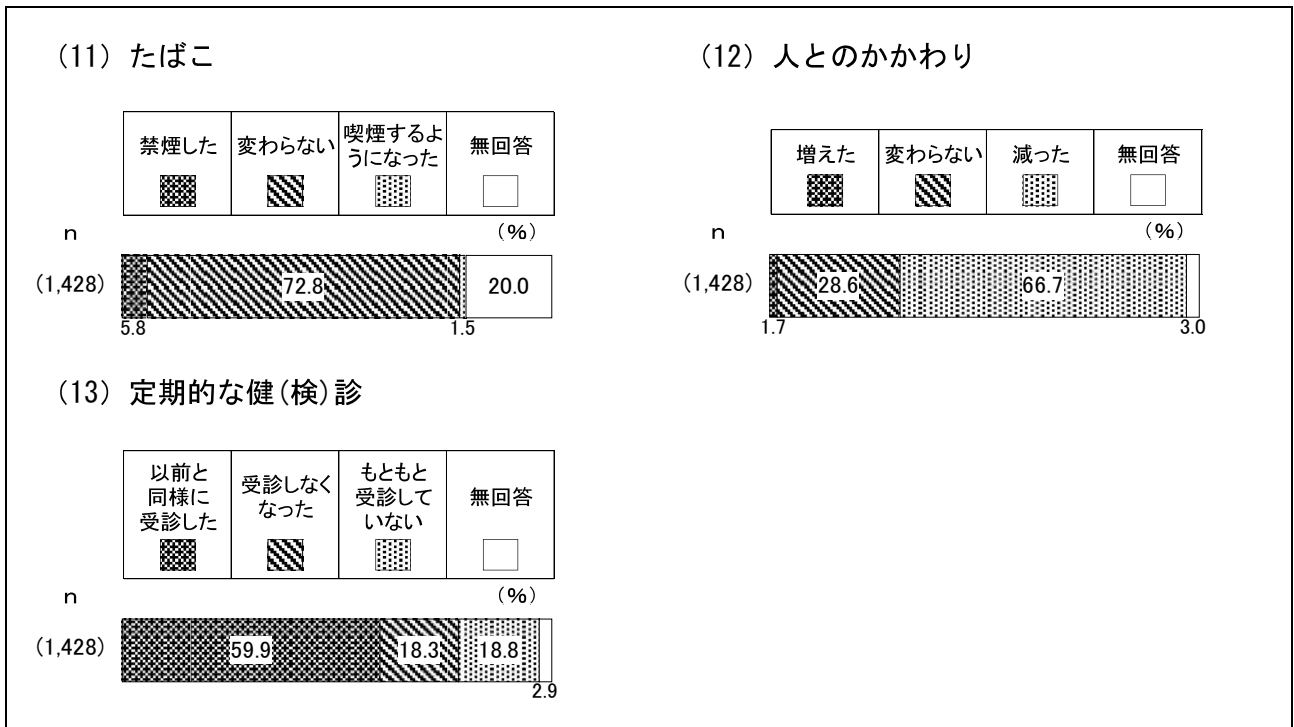


(9) 運動量



(10) 飲酒量





健康状態や健康づくりの取組にはどのような変化があったか、13項目に分けてたずねた。

(1) 体重では、「増えた」(28.7%)が3割近くで、「変わらない」(57.8%)は6割近く、「減った」(11.6%)は1割を超えている。

(2) 血圧では、「上がった」(9.7%)が1割で、「変わらない」(85.3%)は8割半ば、「下がった」(2.3%)はわずかとなっている。

(3) 視力では、「良くなった」(0.6%)がわずかで、「変わらない」(70.4%)は7割、「悪くなった」(26.5%)は3割近くとなっている。

(4) 筋力では、「付いた」(3.9%)がわずかで、「変わらない」(53.1%)は5割を超え、「落ちた」(40.1%)は4割となっている。

(5) 精神的疲労では、「増えた」(47.5%)が5割近くで、「変わらない」(46.2%)は4割半ば、「減った」(3.3%)はわずかとなっている。

(6) 生活習慣では、「規則正しくなった」(10.4%)が1割で、「変わらない」(75.1%)は7割半ば、「不規則になった」(11.8%)は1割を超えている。

(7) 歯や口腔の状況では、「良くなった」(3.0%)がわずかで、「変わらない」(81.4%)は8割を超え、「悪くなった」(13.1%)は1割を超えている。

(8) 食事のバランスでは、「良くなった」(9.4%)が約1割で、「変わらない」(78.7%)は8割近く、「悪くなった」(9.5%)は1割となっている。

(9) 運動量では、「増えた」(6.5%)が1割未満で、「変わらない」(44.4%)は4割半ば、「減った」(46.6%)は5割近くとなっている。

(10) 飲酒量では、「増えた」(7.8%)が1割未満で、「変わらない」(65.2%)は6割半ば、「減った」(13.4%)は1割を超えている。

(11) たばこでは、「禁煙した」(5.8%)が1割未満で、「変わらない」(72.8%)は7割を超え、「喫煙するようになった」(1.5%)はわずかとなっている。

(12) 人とのかかわりでは、「増えた」(1.7%)がわずかで、「変わらない」(28.6%)は3割近く、「減った」(66.7%)は7割近くとなっている。

(13) 定期的な健(検)診では、「以前と同様に受診した」(59.9%)が6割で、「受診しなくなった」(18.3%)と「もともと受診していない」(18.8%)はともに2割近くとなっている。



<性別・性／年齢別・区別結果> (1) 体重

性別でみると、「増えた」は女性が男性より7.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「増えた」は女性30～39歳と女性40～49歳で4割と高くなっている。「変わらない」は男性70歳以上で7割を超えて高くなっている。

区別でみると、「増えた」は中央区で3割を超えている。

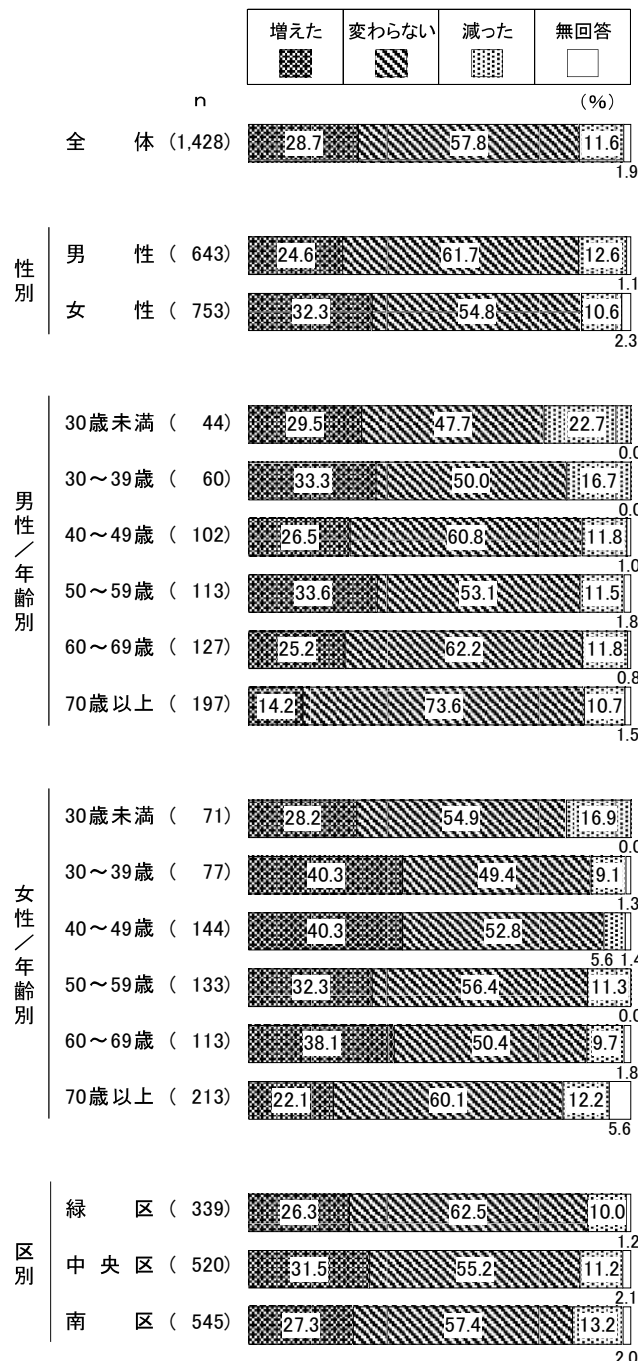
<性別・性／年齢別・区別結果> (2) 血圧

性別でみると、大きな違いはみられない。

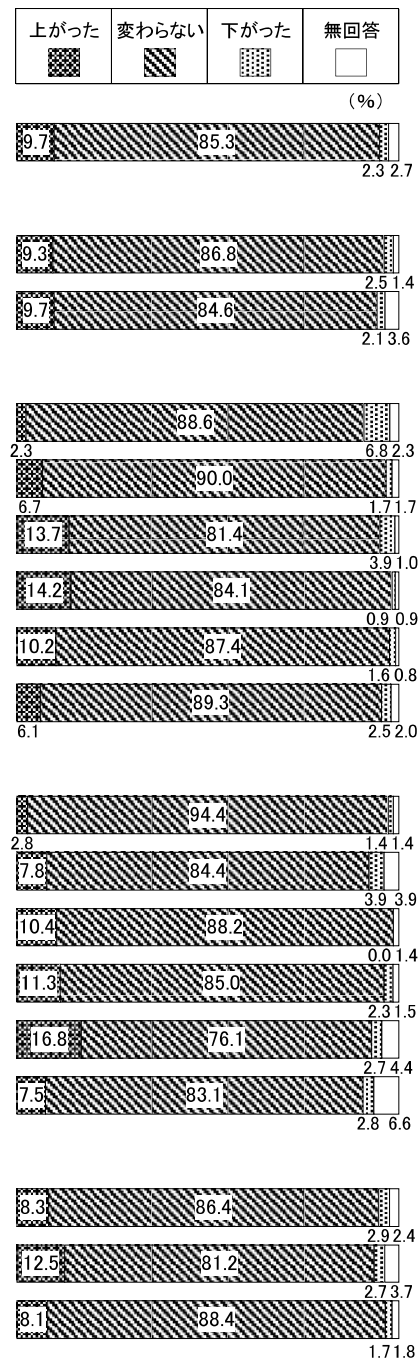
性／年齢別でみると、「上がった」は女性60～69歳で2割近くとなっている。「変わらない」は女性30歳未満で9割半ばと高くなっている。

区別でみると、「変わらない」は南区で9割近くとなっている。

(1) 体重



(2) 血圧



<性別・性／年齢別・区別結果> (3) 視力

性別で見ると、「悪くなった」は女性が男性より3.9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「変わらない」は男性30～39歳で8割半ばと高くなっている。「悪くなった」は女性50～59歳で3割半ばと高くなっている。

区別で見ると、「悪くなった」は南区と中央区で3割近くとなっている。

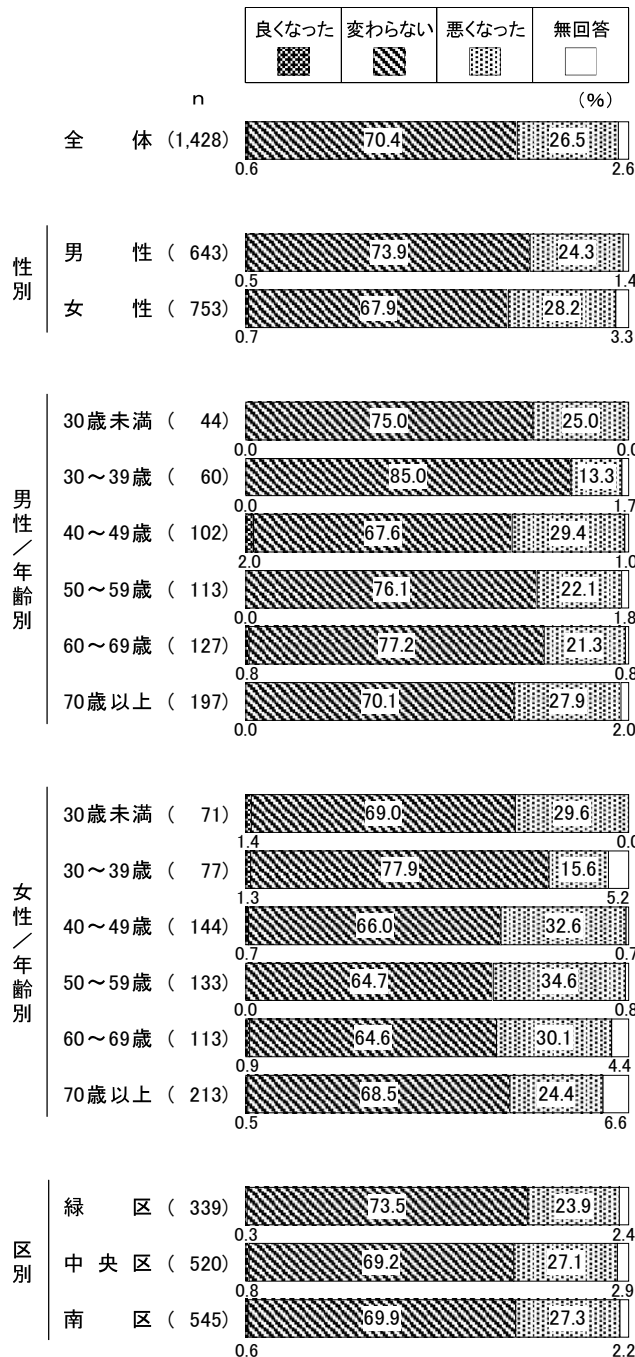
<性別・性／年齢別・区別結果> (4) 筋力

性別で見ると、「落ちた」は女性が男性より5.3ポイント高くなっている。

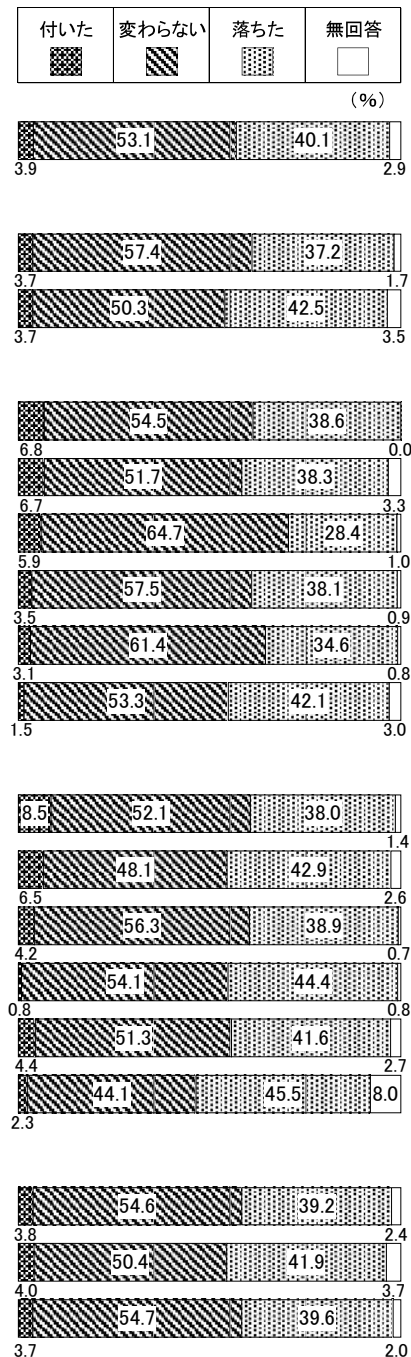
性／年齢別で見ると、「変わらない」は男性40～49歳で6割半ばと高くなっている。「落ちた」は女性50～59歳と女性70歳以上で4割半ばと高くなっている。

区別で見ると、「落ちた」は中央区で4割を超えている。

(3) 視力



(4) 筋力



<性別・性／年齢別・区別結果> (5) 精神的疲労

性別で見ると、「増えた」は女性が男性より6.8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「増えた」は男性30～39歳で6割を超えている。「変わらない」は男性60～69歳で6割を超えている。

区別で見ると、「増えた」は南区で5割を超えている。

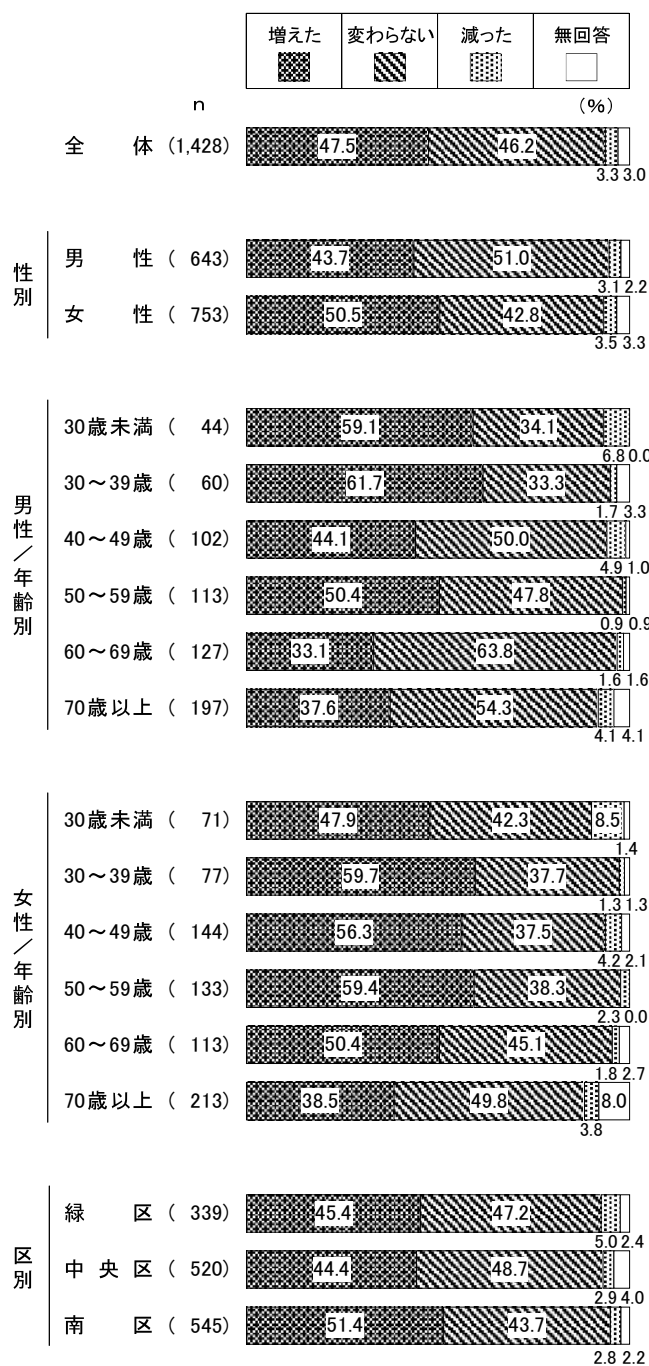
<性別・性／年齢別・区別結果> (6) 生活習慣

性別で見ると、大きな違いはみられない。

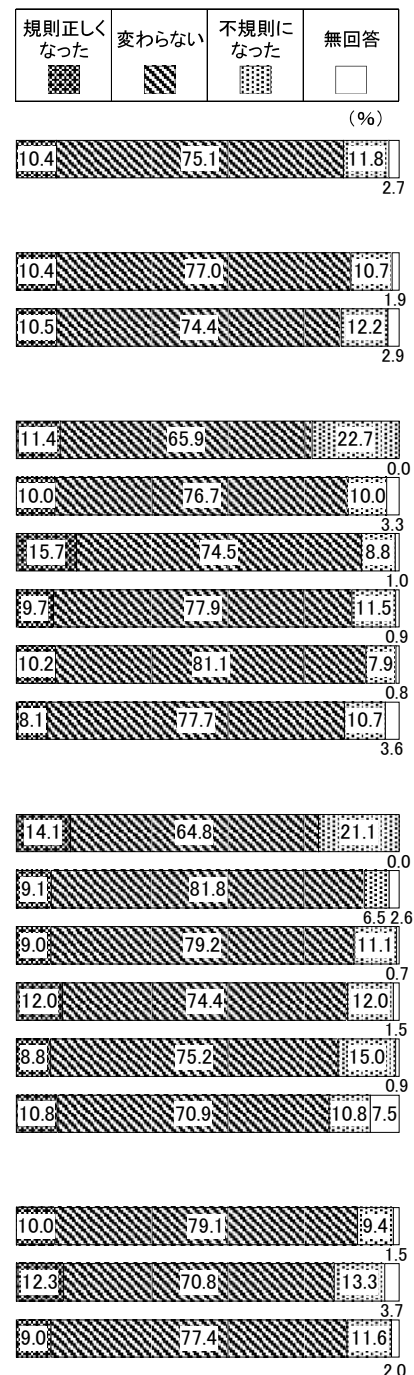
性／年齢別で見ると、「不規則になった」は男女ともに30歳未満で2割を超えている。

区別で見ると、「変わらない」は緑区で約8割となっている。

(5) 精神的疲労



(6) 生活習慣



<性別・性／年齢別・区別結果> (7) 歯や口腔の状況

性別で見ると、「良くなった」は女性が男性より3.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「変わらない」は男性40～49歳と男性60～69歳で9割を超えている。「悪くなった」は男性30歳未満で2割近くとなっている。

区別で見ると、「変わらない」は緑区と南区で8割を超えている。

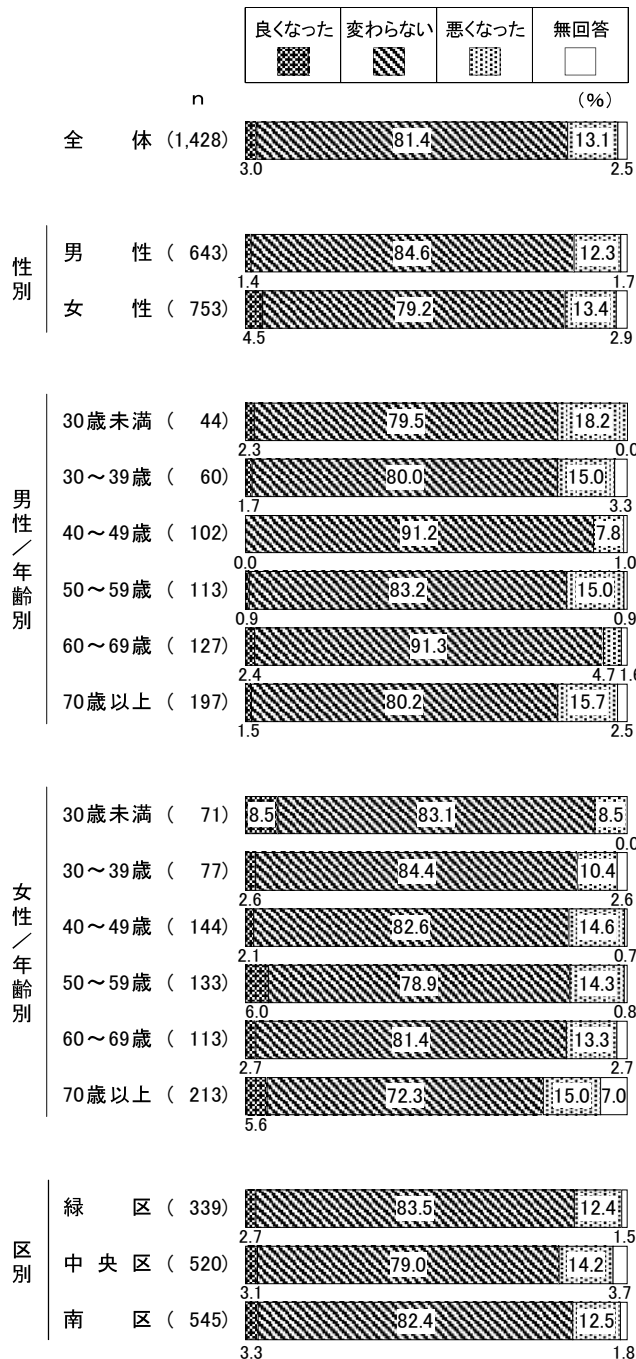
<性別・性／年齢別・区別結果> (8) 食事のバランス

性別で見ると、「良くなった」は女性が男性より5.2ポイント高くなっている。

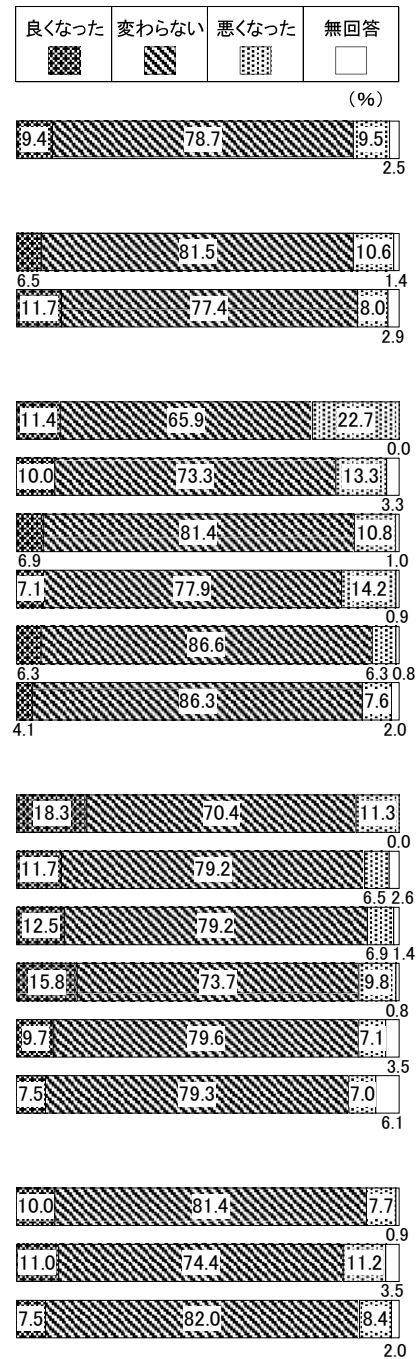
性／年齢別で見ると、「良くなった」は女性30歳未満で2割近くとなっている。「悪くなった」は男性30歳未満で2割を超えている。

区別で見ると、「悪くなった」は中央区で1割を超えている。

(7) 歯や口腔の状況



(8) 食事のバランス



<性別・性／年齢別・区別結果> (9) 運動量

性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年齢別でみると、「減った」は男性30歳未満で約6割と高くなっている。

区別でみると、「減った」は南区で5割と高くなっている。

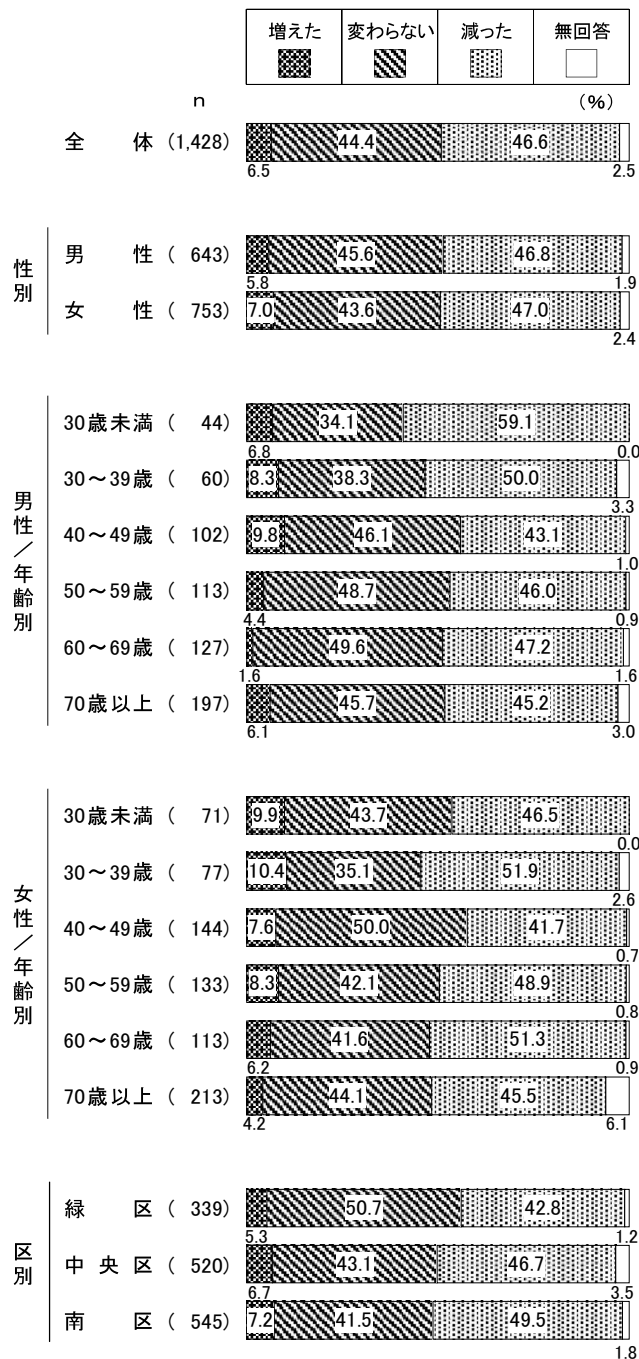
<性別・性／年齢別・区別結果> (10) 飲酒量

性別でみると、「減った」で6.1ポイント、「増えた」で4.0ポイント、それぞれ男性が女性より高くなっている。

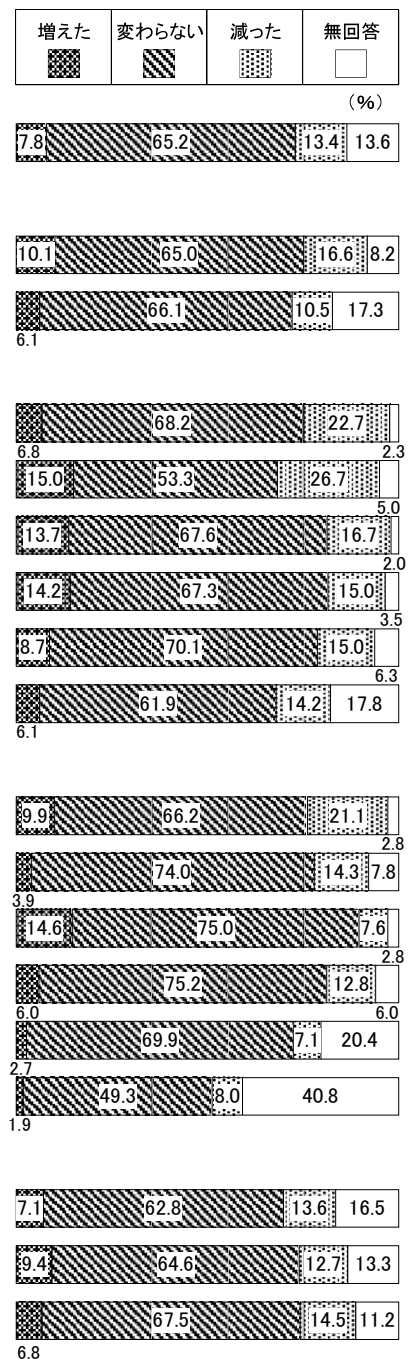
性／年齢別でみると、「減った」は男性30～39歳で3割近くと高くなっており、男女ともに30歳未満でも2割を超えている。

区別でみると、「変わらない」は南区で7割近くとなっている。

(9) 運動量



(10) 飲酒量



<性別・性／年齢別・区別結果> (11) たばこ

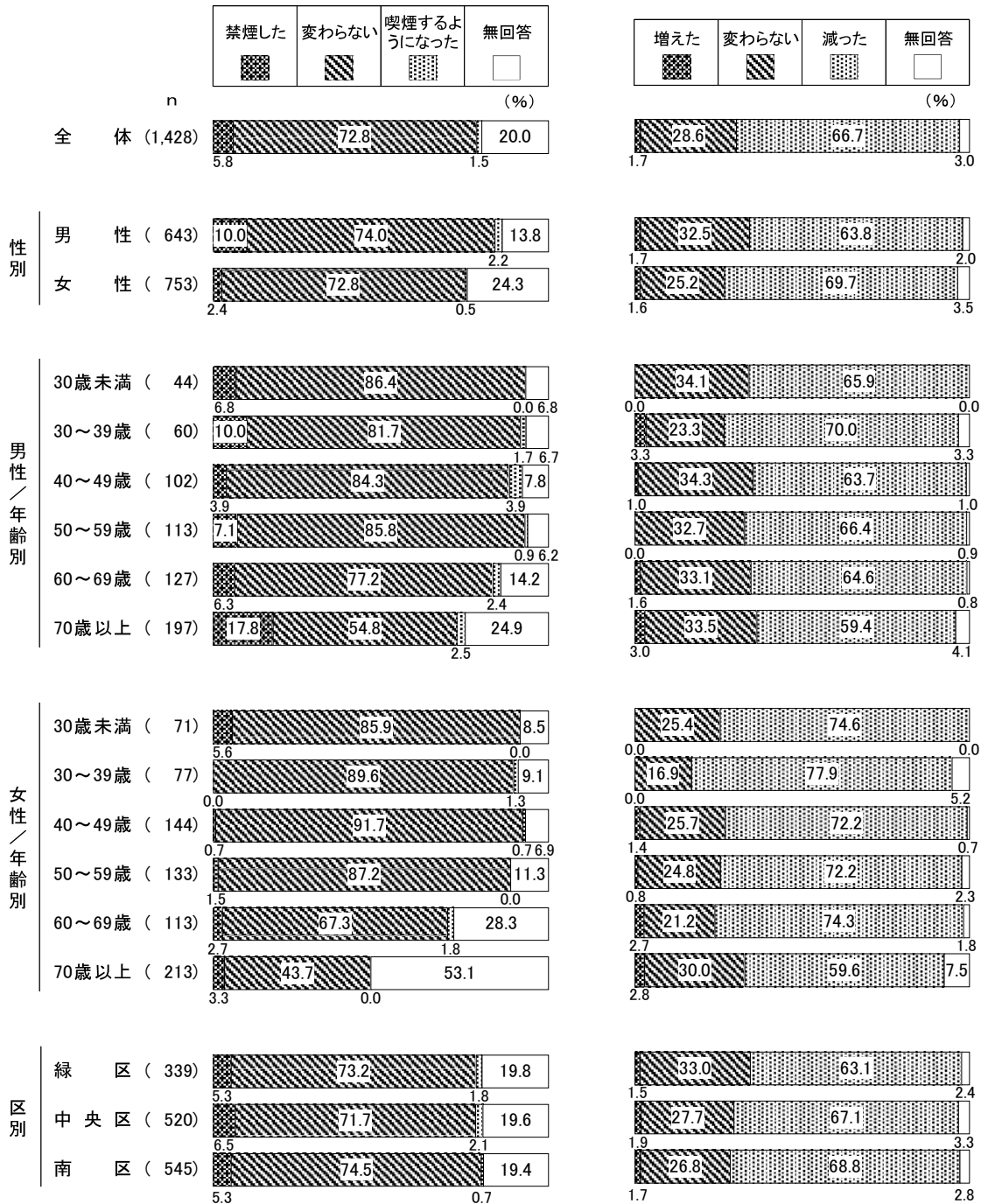
性別で見ると、「禁煙した」は男性が女性より7.6ポイント高くなっている。  
 性／年齢別で見ると、「禁煙した」は男性70歳以上で2割近くとなっている。  
 区別で見ると、大きな違いはみられない。

<性別・性／年齢別・区別結果> (12) 人とのかかわり

性別で見ると、「減った」は女性が男性より5.9ポイント高くなっている。  
 性／年齢別で見ると、「減った」は女性30～39歳で8割近くとなっている。  
 区別で見ると、「減った」は南区と中央区で7割近くとなっている。

(11) たばこ

(12) 人とのかかわり



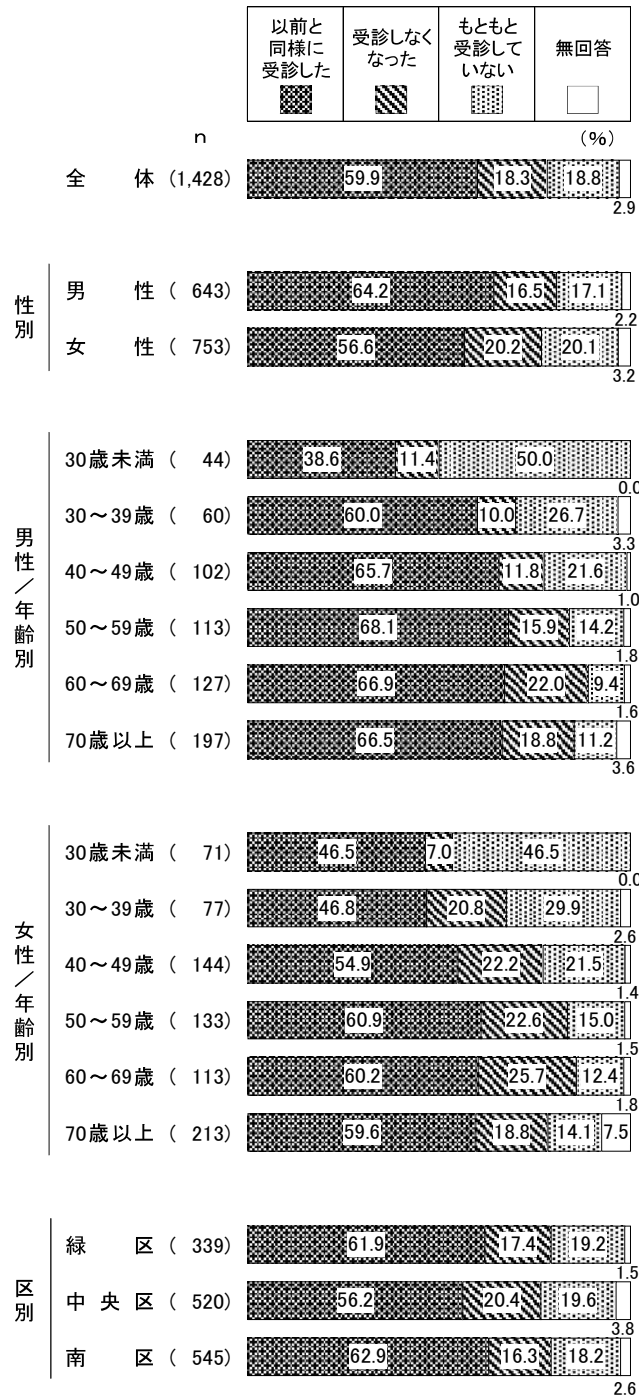
＜性別・性／年齢別・区別結果＞ (13) 定期的な健(検)診

性別で見ると、「以前と同様に受診した」は男性が女性より7.6ポイント高くなっている。一方、「受診しなくなった」は女性が男性より3.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「受診しなくなった」は女性60～69歳で2割半ばと最も高くなっている。

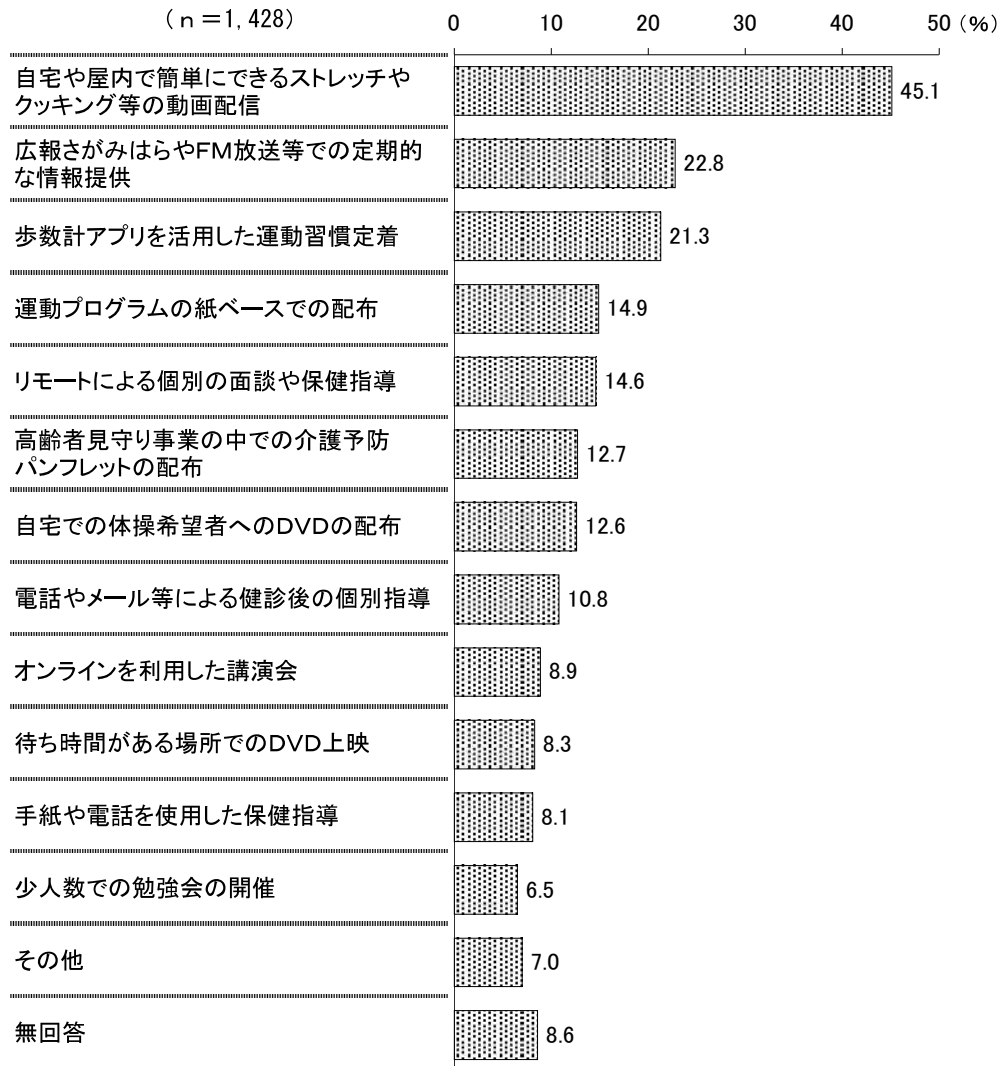
区別で見ると、「受診しなくなった」は中央区で2割となっている。

(13) 定期的な健(検)診



(3) 健康づくりを進めていくために必要な取組

問14 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、新しい生活様式を踏まえた中で健康づくりを進めていくためには、どのような取組が必要と思いますか。  
次の中から主なものを選んでください。(〇は4つまで)



新しい生活様式を踏まえた中で健康づくりを進めていくためには、どのような取組が必要かたずねたところ、「自宅や屋内で簡単にできるストレッチやクッキング等の動画配信」(45.1%)が4割半ばで最も高く、次いで、「広報さがみはらやFM放送等での定期的な情報提供」(22.8%)、「歩数計アプリを活用した運動習慣定着」(21.3%)、「運動プログラムの紙ベースでの配布」(14.9%)と続いている。

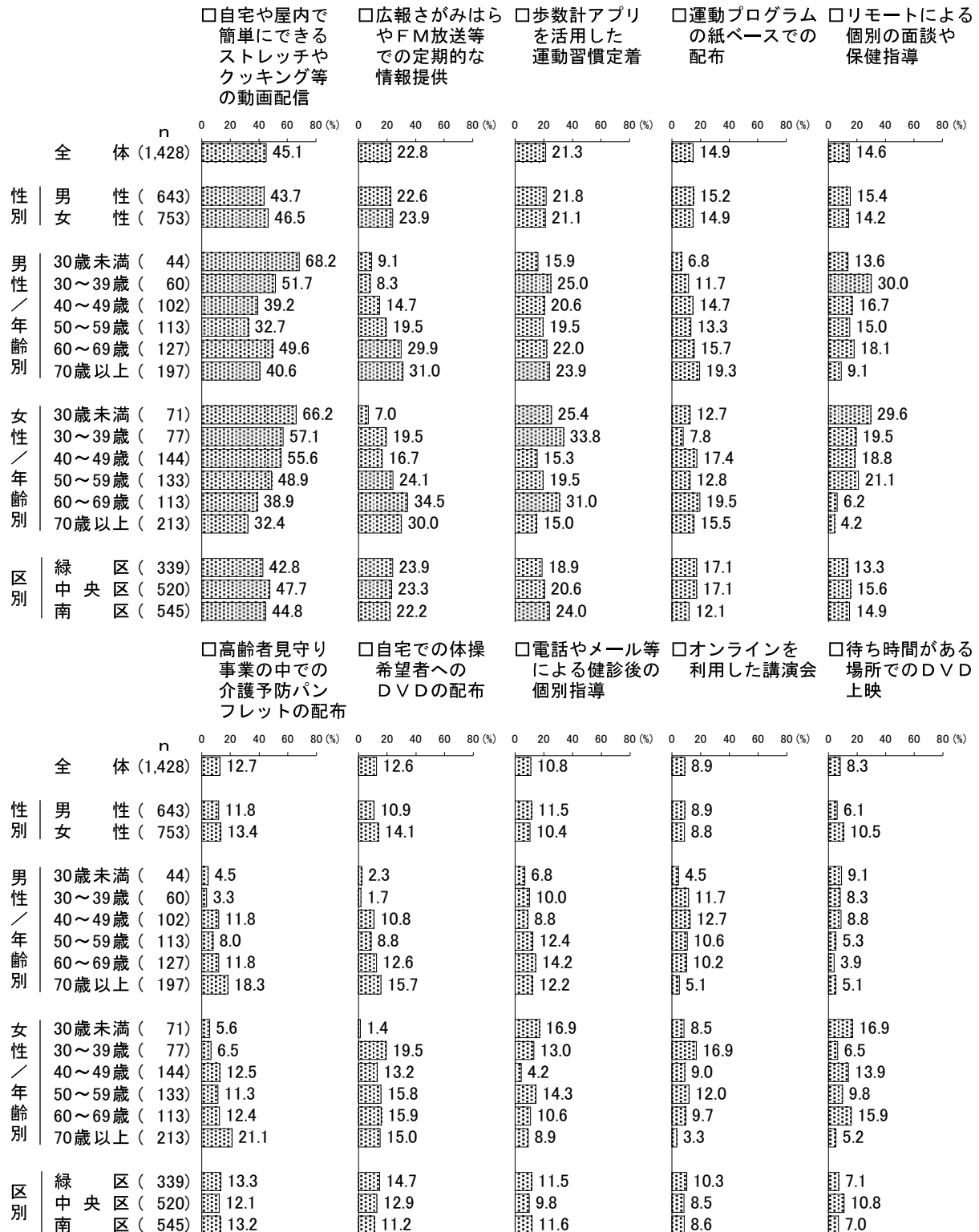


＜性別・性／年齢別・区別結果＞（上位10項目）

性別でみると、「待ち時間がある場所でのDVD上映」は女性が男性より4.4ポイント高くなっている。

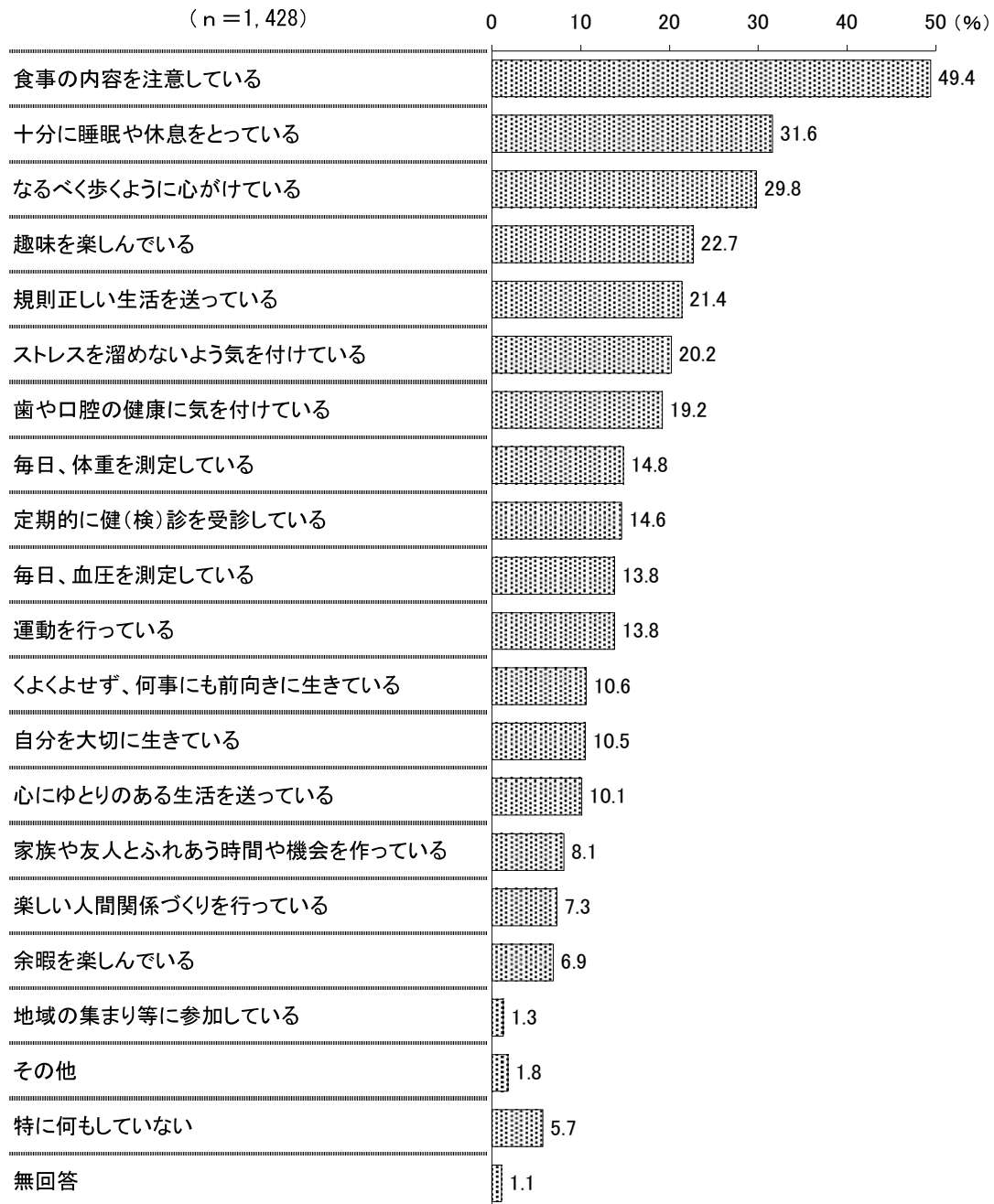
性／年齢別でみると、「自宅や屋内で簡単にできるストレッチやクッキング等の動画配信」は男女ともに30歳未満で6割台と高くなっている。「広報さがみはらやFM放送等での定期的な情報提供」は女性60～69歳で3割半ばとなっている。

区別でみると、「自宅や屋内で簡単にできるストレッチやクッキング等の動画配信」は中央区で5割近くとなっている。



## (4) 健康づくりのためにやっている取組

問15 あなたは、現在、自分の健康づくりためにどのような取組を行っていますか。  
次の中から主なものを選んでください。(○は4つまで)



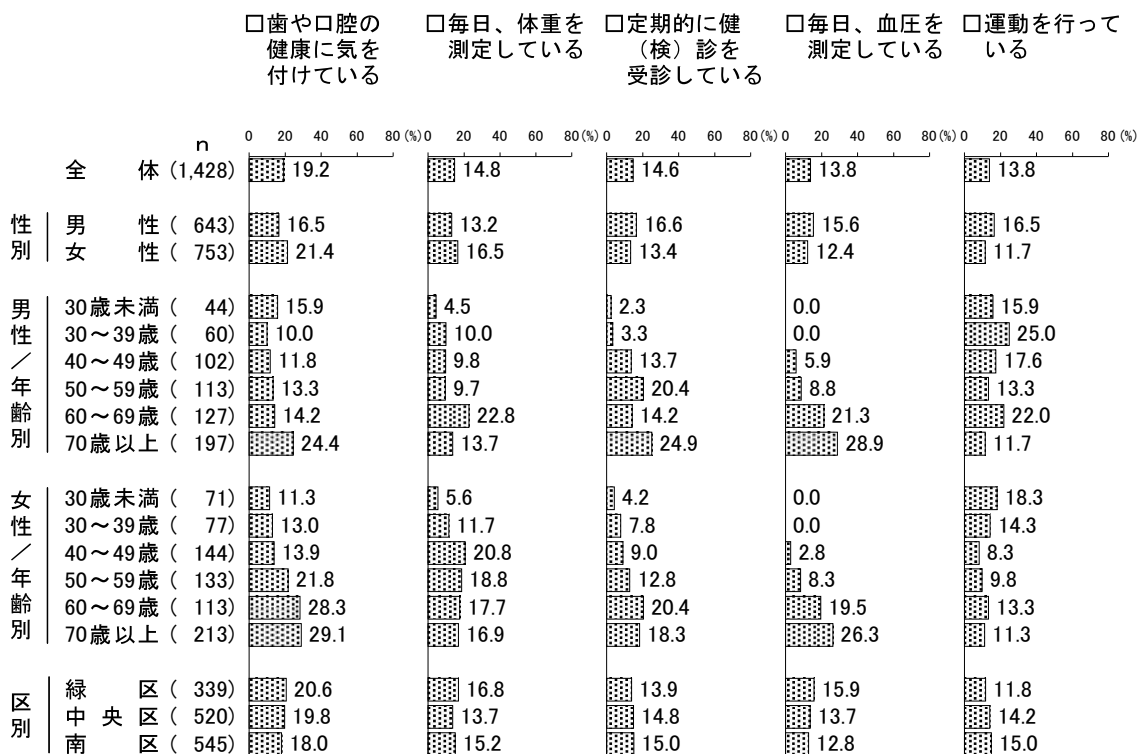
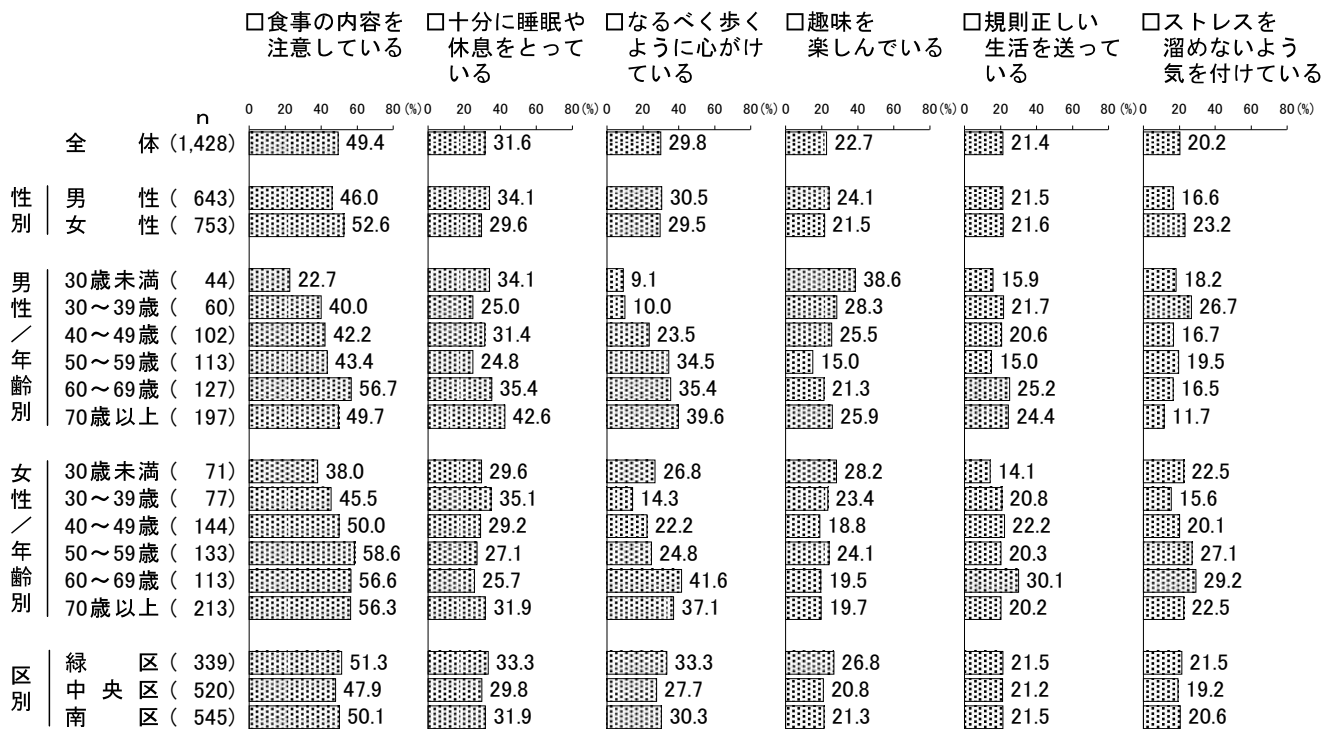
現在、自分の健康づくりためにどのような取組を行っているかたずねたところ、「食事の内容を注意している」(49.4%)が約5割で最も高く、次いで、「十分に睡眠や休息をとっている」(31.6%)、「なるべく歩くように心がけている」(29.8%)、「趣味を楽しんでいる」(22.7%)、「規則正しい生活を送っている」(21.4%)と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果> (上位10項目)

性別で見ると、「食事の内容を注意している」と「ストレスを溜めないよう気を付けている」は女性が男性よりともに6.6ポイント高くなっている。

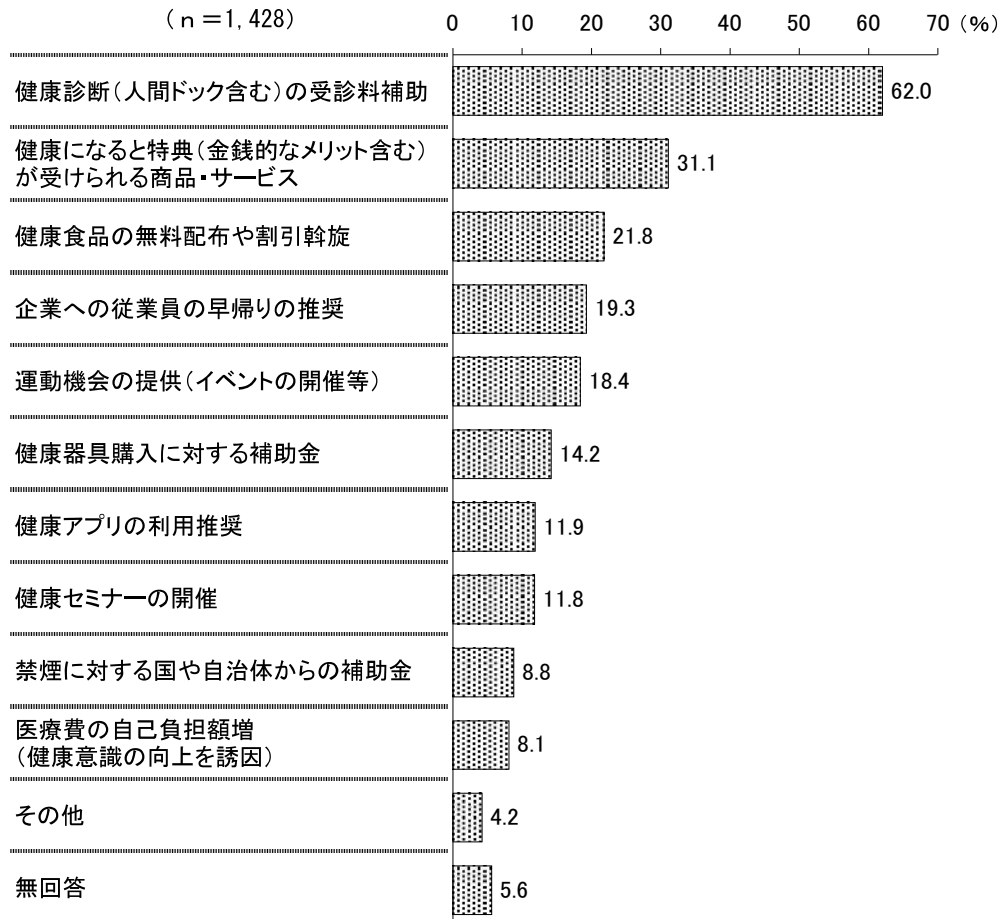
性／年齢別で見ると、「十分に睡眠や休息をとっている」は男性70歳以上で4割を超えて高くなっている。「なるべく歩くように心がけている」は女性60～69歳で4割を超えている。

区別で見ると、「食事の内容を注意している」は緑区と南区で5割を超えている。



(5) 新たに健康づくりに取り組むきっかけづくりに必要な取組

問16 あなたは、健康づくりに対する関心が低い方が、新たに健康づくりに取り組むきっかけづくりには、どのような取組が必要と思いますか。  
次の中から主なものを選んでください。(○は4つまで)



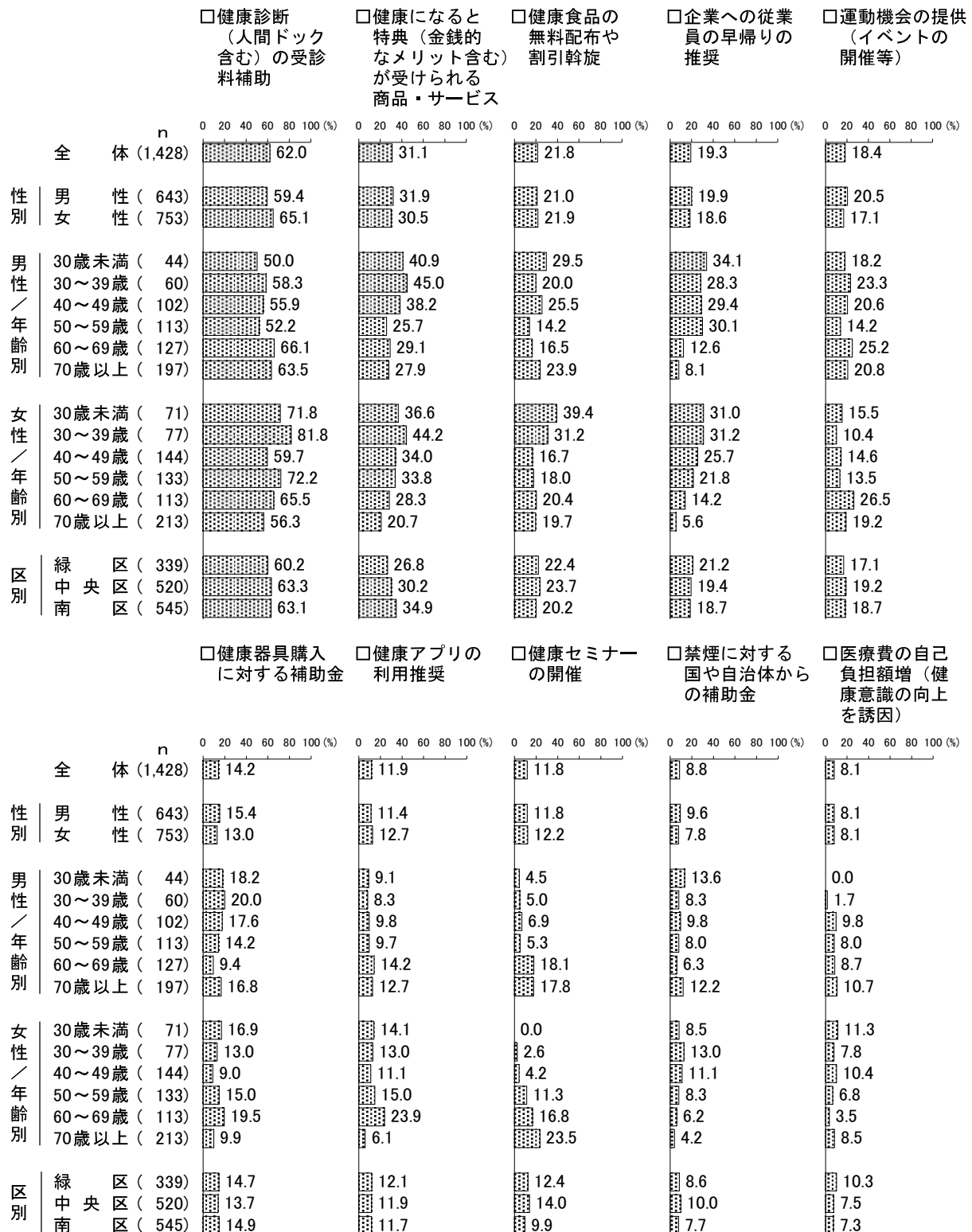
新たに健康づくりに取り組むきっかけづくりには、どのような取組が必要かたずねたところ、「健康診断(人間ドック含む)の受診料補助」(62.0%)が6割を超えて最も高く、次いで、「健康になると特典(金銭的なメリット含む)が受けられる商品・サービス」(31.1%)、「健康食品の無料配布や割引斡旋」(21.8%)、「企業への従業員の早帰りの推奨」(19.3%)、「運動機会の提供(イベントの開催等)」(18.4%)と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果> (上位10項目)

性別でみると、「健康診断（人間ドック含む）の受診料補助」は女性が男性より5.7ポイント高くなっている。

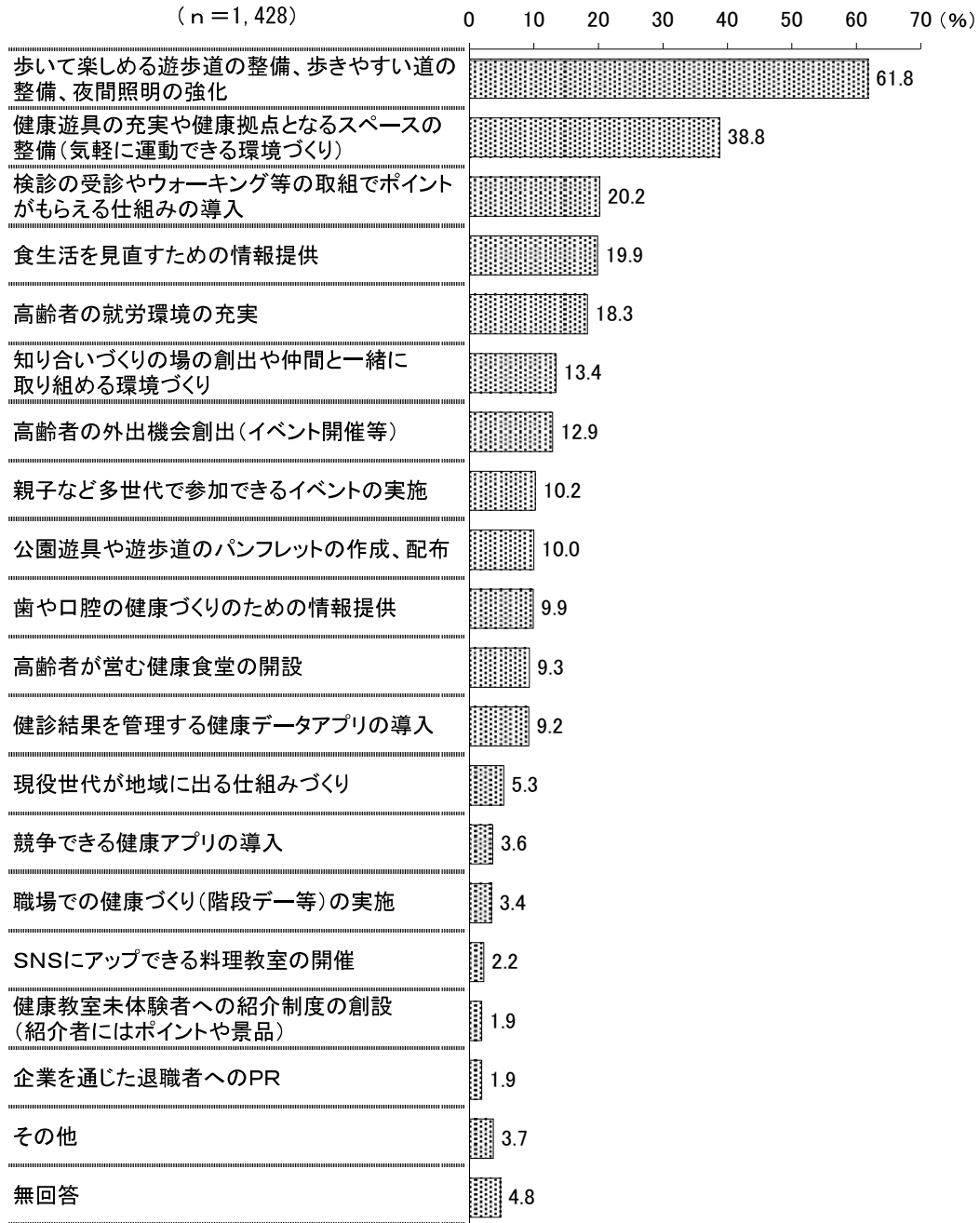
性／年齢別でみると、「健康診断（人間ドック含む）の受診料補助」は女性30～39歳で8割を超えて高くなっている。「健康食品の無料配布や割引斡旋」は女性30歳未満で約4割と高くなっている。

区別でみると、「健康になると特典(金銭的なメリット含む)が受けられる商品・サービス」は南区で3割半ばとなっている。



(6) 健康づくりに関する意識の向上のために必要な方策

問17 今後、さらに市民の皆さまの健康づくりに関する意識を向上していくためには、どのような方策が必要と思いますか。次の中から主なものを選んでください。(〇は4つまで)



健康づくりに関する意識を向上していくためには、どのような方策が必要かたずねたところ、「歩いて楽しめる遊歩道の整備、歩きやすい道の整備、夜間照明の強化」(61.8%)が6割を超えて最も高く、次いで、「健康遊具の充実や健康拠点となるスペースの整備(気軽に運動できる環境づくり)」(38.8%)、「検診の受診やウォーキング等の取組でポイントがもらえる仕組みの導入」(20.2%)、「食生活を見直すための情報提供」(19.9%)と続いている。

＜性別・性／年齢別・区別結果＞（上位10項目）

性別で見ると、「食生活を見直すための情報提供」は女性が男性より4.2ポイント高くなっている。一方、「高齢者の就労環境の充実」は男性が女性より3.8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「歩いて楽しめる遊歩道の整備、歩きやすい道の整備、夜間照明の強化」は女性60～69歳で約7割となっている。

区別で見ると、「健康遊具の充実や健康拠点となるスペースの整備（気軽に運動できる環境づくり）」は緑区で4割を超えている。

